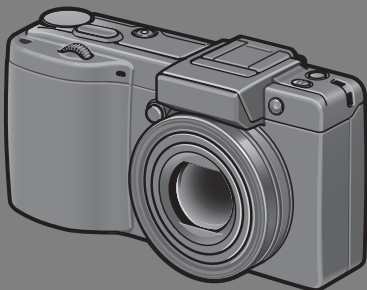


GX200 GX200 VF KIT

RICOH

使用説明書 カメラ編



本書は、GX200とGX200 VF KIT 共通の使用説明書です。GX200 VF KITには、液晶ビューファインダー (VF-1) が同梱されています。

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能の他、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、下記の弊社Webサイトからお願い致します。

<http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/>

なお、ご登録いただいた方には、Eメール（ファームウェア等のサポート情報掲載）の配信を行っております。

はじめに

この使用説明書には、本製品を使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。

本製品の機能を十分にご活用いただくため、ご使用前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

- | | |
|-------------|---|
| 安全上のご注意について | 安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。 |
| テスト撮影について | 必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。 |
| 著作権について | 著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽等の著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変等することは禁じられています。 |
| ご使用に際して | 万一、本製品などの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。 |
| 保証書について | 本製品は国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。 |
| 電波障害について | 他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。 <ul style="list-style-type: none">・テレビやラジオなどからできるだけ離す・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える・コンセントを別にする <電波障害自主規制について>
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 |

本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。

©2008 RICOH CO.,LTD.

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。

本書は内容について万全を期して作成いたしました。万一、ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧ください。

Microsoft、MS、Windows、Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。




Macintosh、Power Macintosh、Mac OSは米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。

AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。会社名、および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

安全上のご注意

表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- | | |
|---|--|
|  危険 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が差し迫って発生する可能性がある内容を示しています。 |
|  警告 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

表示の例



① 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



② 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
③ の中に具体的な禁止内容が描かれています。
● 表示例
Ⓢ 意味：接触禁止 Ⓣ 意味：分解禁止

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠ 危険



● カメラを分解、修理、改造しないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険があります。



● バッテリーを分解、改造、直接ハンダ付けしたりしないでください。



● バッテリーを火の中に投入したり、加熱したり、火のそばや車の中など温度が高くなる場所で使用したり、放置しないでください。また、水や海水などにつけたり、濡らさないでください。



● バッテリーに釘を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、落下させたり、強い衝撃を与えないでください。



● 外傷、変形の著しいバッテリーは使用しないでください。

警告



- 万一、煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常状態がみられる場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーを取り外してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。



- 万一、機械内部に異物（金属、水、液体など）が入った場合は、すぐに電源を切ってください。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーとメモリーカードを取り出してください。家庭用コンセントから電源を供給しているときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。そしてリコー修理受付センターに連絡してください。機械が故障したり不具合のまま使用し続けないでください。



- 画像モニターが破損した場合、中の液晶には十分注意してください。万一、次の状況になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。
 - ・皮膚に付着した場合は、付着物を拭き取り、水を流しせっけんでよく洗浄してください。
 - ・目に入った場合は、きれいな水でよく洗い流し、最低 15 分洗浄した後、医師の診断を受けてください。
 - ・飲み込んだ場合は、水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を与えて吐き出させた後、医師の手当てを受けてください。



- バッテリーの液漏れ、発熱、発火、破裂の防止のため、次のことをお守りください。
 - ・この製品で指定しているバッテリー以外は、使用しないでください。
 - ・金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアピンなどと一緒には携帯、保管しないでください。
 - ・電子レンジや高圧容器に入れないでください。
 - ・使用中や充電中、液漏れしたり、異臭がする、変色するなどの異常がある場合は、ただちにカメラやバッテリーチャージャーから取り外し、火気から遠ざけてください。



- バッテリーの充電による火災、感電、破裂の防止のため、次のことをお守りください。
 - ・表示された電源電圧以外の電圧を使用しないでください。また、タコ足配線や延長コードの使用は避けてください。
 - ・電源コードを傷つけたり、破損したり、束ねたり、加工しないでください。また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げないでください。
 - ・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。また、電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグをもって抜いてください。
 - ・布などに包んで使用しないでください。



- この製品で使用しているバッテリーや SD メモリーカードを誤って飲み込むことがないように、特に幼児・子供の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合は、人体に有害です。ただちに医師と相談してください。



- この製品を幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。幼児・子供には「安全上のご注意」や「使用上のご注意」の内容が理解できずに事故発生の原因となります。



- 落下や損傷により内部が露出したときは、内部には手を触れないでください。内部には高圧電流回路があり、感電する危険性があります。感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーを取り出してください。破損したときは、お買い上げの店またはリコー修理受付センターに連絡してください。



- 台所などの湯煙や湿気の当たるところ、水気のあるところでは使用しないでください。火災や感電の原因となります。



- 引火性ガスやガソリン、ベンジン、シンナー等の近くで使用しないでください。爆発や火災、火傷の原因となります。
- 航空機の中など、使用が制限または禁止されている場所では使用しないでください。事故等の原因となります。



- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいでください。火災の原因となります。
- 家庭用コンセントをご利用になるときは、必ず専用の AC アダプターをご利用ください。指定以外の AC アダプターでは、火災・感電・故障の原因になります。



- 海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などにバッテリーチャージャーや AC アダプターを接続しないでください。火災・感電・故障の原因になります。

本機を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

⚠ 注意



- バッテリーから漏れた液が肌に触れると、火傷の原因になります。破損したバッテリーに触れた場合は、すぐに水で洗い流してください。(せっけんは使用しないでください) また、液漏れが起こったときは、液をよくふき取ってから、新しいバッテリーを入れてください。



- 電源プラグは、コンセントに確実に差し込んでください。火災の原因となります。



- カメラを濡らさないでください。また、濡れた手で操作しないでください。感電の原因となります。





- 車両（自転車、車、列車等）の運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。交通事故等の原因となります。

別売り品について

別売り品をお使いになるときは、各製品の使用説明書を操作の前に必ずお読みください。

使用説明書の構成について

GX200/GX200 VF KITには、次の2種類の使用説明書が付属しています。

	<p>『使用説明書 (カメラ編)』(本書)</p> <p>カメラの使い方や機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる (インストール) 方法についても説明しています。</p> <p>※ 英語版の『使用説明書 (カメラ編)』は、PDFファイルとして付属のCD-ROMに収録されています。</p>
	<p>『使用説明書 (ソフトウェア編)』(PDFファイル)</p> <p>『使用説明書 (ソフトウェア編)』は、付属CD-ROM内の以下のフォルダに収録されています。</p> <p>カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。</p> <p>各言語の『使用説明書 (ソフトウェア編)』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。</p> <ul style="list-style-type: none">CAPLIO (D:)Caplio Manual<ul style="list-style-type: none">Chinese_TraditionalEnglishEnglish_Camera_ManualFrenchGermanItalianJapaneseKoreanSpanish <p>英語版の『使用説明書 (カメラ編)』(PDFファイル)</p> <p>使用説明書をハードディスクにコピーするにはそれぞれのフォルダからPDFファイルをハードディスクにコピーしてください。</p>

本機には、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェア Irodio Photo & Video Studioが付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使い方については、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。

Irodio Photo & Video Studioについてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

株式会社ピクセラ ユーザーサポートセンター

TEL : 06-6633-3900

FAX : 06-6633-2992

〒556-0011

大阪府大阪市浪速区難波中2-10-70パークスタワー 25F

受付時間 : 月曜日～日曜日 10 : 00～17 : 00

(年末年始、祝日、弊社指定休日は除く)

また以下のページで、Irodio Photo & Video Studioの最新情報が閲覧できます。

<http://www.pixela.co.jp/oem/ricoh/j/index.html>

このカメラでできること

*本書内のイラストは、実物とは異なる場合があります。



広い範囲を写しこむワイドズームレンズ

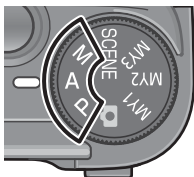
厚さ25mmの薄型コンパクトボディに、24~72mm相当*の広い撮影領域をカバーする光学3倍ワイドズームレンズを搭載。広い画角で建造物や風景、人物の集合写真等、さまざまな撮影シーンに対応できます。

*35mm判カメラ換算値です。



手ブレ補正機能で、手ブレを抑えた安心撮影 (P.127)

手ブレ補正機能を装備。室内や夜景などの手ブレしやすい場面でも、手ブレを抑えた撮影ができます。



絞り優先モード、マニュアル露光モード、プログラムシフトモード搭載のハイエンド仕様

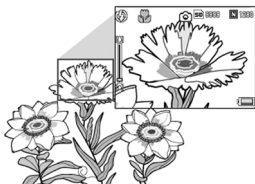
絞り値やシャッタースピードを自分で設定することができます。小型・軽量・薄型化を実現した、デジタル一眼レフにも負けないハイエンド機です。



有効画素数約1210万画素CCDと、5枚までの連写が可能なRAWモードを搭載 (P.99)

有効画素数約1210万画素CCDの搭載により、クオリティの高い精細な画像を実現します。

また、RAWモードでは、カメラ内の画像エンジンでJPEG変換する前の生データ(DNGファイル)を保存します(5枚までの連写が可能)。パソコンで加工する際も、画質の劣化が少なく、高品質で加工することができます(DNGファイルに対応した画像編集ソフトウェアが必要です)。RAWモードで撮影した際は、DNGファイルを元にしたJPEGファイルも同時記録されます。

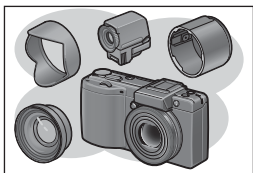


1cmマクロ対応 (P.45)

広角時20cm、望遠時15cm対応の近接フラッシュ (P.47)

被写体に広角端1cm、望遠端4cm (レンズ先端より) まで近づいて撮影可能な接写機能を搭載。

フラッシュは広角端20cm、望遠端15cmの近さまで対応。光の足りない条件でもよりきれいに撮影ができます。



表現力を刺激する豊かな拡張性 (P.17)

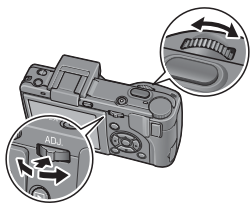
撮影目的に合わせて0.79倍ワイドコンバージョンレンズ (19mm相当*) や1.88倍テレコンバージョンレンズ (135mm相当*) の装着が可能です (フード&アダプター使用)。また、外部ファインダーやケーブルスイッチ、自動開閉式レンズキャップなど多彩なオプション品で、撮影の楽しみが広がります。

*35mm判カメラ換算値です。



画像の水平出しを補助する電子水準器機能搭載 (P.63)

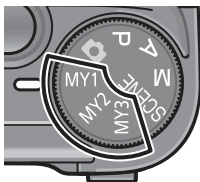
風景や建物の撮影時など、水平のとれた画像を撮影したい場合に便利な電子水準器機能を搭載。画像モニターに表示される水平インジケータと水準器音で、画像の水平状態を確認することができます。



アップダウンダイヤルとADJ.レバーで簡単スピーディー操作 (P.24)

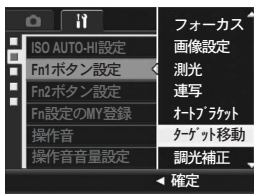
アップダウンダイヤルとADJ.レバーを使って、撮影時の設定や各種メニュー操作などが、簡単にすばやく行えます。

また、ADJ.レバーを押すとADJ.モードに移行し (P.68)、簡単な操作で撮影に関するいろいろな設定ができます。



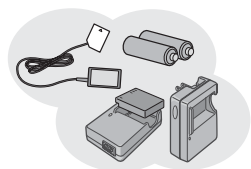
簡単に自分好みの撮影ができるマイセッティングモード搭載 (P.93)

オリジナルの設定を3種類登録することができます。モードダイヤルをMY1/MY2/MY3に合わせると、登録したオリジナルの設定で撮影することができ、便利です。



ワンタッチでモード切り替えが可能なFn (ファンクション) ボタン (P.184)

2つあるFn (ファンクション) ボタンに機能を登録すると、JPEGモードとRAWモード、オートフォーカスとマニュアルフォーカス、カラーと白黒などのモード切り替えがワンタッチで可能です。Fn1/Fn2ボタンには、他にも色々な撮影設定を登録することができます。



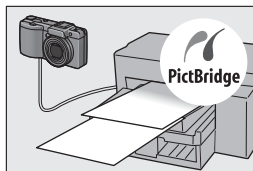
旅先などでのバッテリー切れにも安心な単四形乾電池対応 (P.30)

長時間駆動の大容量リチャージャブルバッテリー (同梱) に加え、単四形アルカリ乾電池/単四形オキシライド乾電池/単四形ニッケル水素電池にも対応。旅先などでのバッテリー切れにも安心です。



ブラウザ、ビューワ、画像ビデオエディタ機能を持つ多機能ソフト「Irodio Photo & Video Studio」を標準装備 (P.210)

撮影した画像の閲覧、管理、簡単な編集 (DNGファイルに対応) が可能です。また、ビデオエディタ機能を使うと、静止画やビデオクリップ、オーディオ、音楽ファイルから動画を作成することもできます。



パソコンなしでも印刷できるダイレクトプリント機能 (P.165)

カメラとダイレクトプリント対応プリンターを直接USBケーブルで接続して、画像を転送。パソコンを使わずに手軽に画像が印刷できます。帳票印刷も可能です。

もくじ

安全上のご注意	1
使用説明書の構成について	4
このカメラでできること	5
もくじ	8

基本編

13

はじめてお使いのときは必ずお読みください

パッケージを確認する	14
別売り品について	17
カメラのシステム構成図	20
カメラの各部の名称	21
モードダイヤルの使い方	23
アップダウンダイヤル/ADJ.レバーの使い方	24
画像モニターの表示	26
準備をする	30
電池について	30
SDメモリーカード（市販）について	32
リチャージャブルバッテリーを充電する	34
バッテリーとSDメモリーカードをセットする	35
電源をオン/オフする	37
日時を合わせる	38
撮影する	39
カメラの構えかた	39
撮る	41
ズームを使って撮る	44
接写で撮る（マクロ撮影）	45
フラッシュを使って撮る	47
セルフタイマーを使う	50
再生する	51
撮った静止画を見る	51
一覧表示する（サムネイル表示）	53
静止画を拡大表示する	54
削除する	56
1ファイルを削除する	56
すべてのファイルを削除する	57
複数のファイルを一度に削除する	57
DISP.ボタンで画面表示を切り替える	60
電子水準器について	63
ヒストグラム表示について	66

目的に応じて必要なときにお読みください

1	いろいろな撮影	68
ADJ.レバーの使い方	68
文字濃度を変える (シーンモード)	70
AEとAFのターゲットを移動する	71
Fn (ファンクション) ボタンの使い方	73
オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える (AF/MF)	75
オートフォーカスとスナップを切り替える (AF/スナップ)	76
露出を固定する (AEロック)	77
JPEGをRAWに切り替える (JPEG→RAW)	78
カラーを白黒または白黒(TE)に切り替える (カラー→白黒、カラー→TE)	79
AEとAFのターゲットを移動する	80
その他の機能を設定する	81
絞り値を設定して撮影する (A: 絞り優先モード)	82
絞り値とシャッタースピードを設定して撮影する (M: マニュアル露光モード)	84
絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して撮影する (P: プログラムシフトモード)	86
撮影シーンに合わせて撮影する (SCENE: シーンモード)	88
斜め補正モードを使うには	91
ズームマクロで撮影するには	92
自分好みの設定で撮影する (MY1/MY2/MY3: マイセッティングモード)	93
撮影設定メニューについて	94
メニューの操作方法	97
画質モード/画像サイズを選ぶ (画質・サイズ)	99
ピント合わせの方式を変える (フォーカス)	102
手動でピントを合わせて撮影する (MF)	103
測光モードを変える (測光)	105
連写で撮る (連写/S連写/M連写)	106
S連写/M連写した静止画を拡大して見る	109
画質と色を設定する (画像設定)	110
白黒の画質を設定する (白黒)	111
白黒画像に色味をつける (白黒(TE))	112
オリジナルの画質を設定する (設定1、2)	113
撮影時に画像のゆがみを補正する (ディストーション補正)	114
フラッシュの光量を調整する (フラッシュ調光補正)	115
マニュアル発光モードのときの発光量を設定する (フラッシュマニュアル発光量)	116

フラッシュ発光のタイミングを設定する (フラッシュシンクロ設定).....	117
露出を変化させて連続撮影する (オートブラケット).....	118
ホワイトバランスを変化させて連続撮影する (WB-BKT: ホワイトバランスブラケット).....	119
色を変えて連続撮影する (CL-BKT: カラーブラケット).....	120
ノイズを軽減する (ノイズリダクション).....	122
一定間隔で自動撮影する (インターバル撮影).....	124
静止画に日付を入れるには (日付入れ撮影).....	126
手ブレ補正機能で手ブレを防ぐ (手ブレ補正).....	127
露出を変える (露出補正).....	128
自然光や照明光を使う (ホワイトバランス).....	129
ホワイトバランスを手動設定する (手動設定).....	131
ホワイトバランスを詳細設定する (詳細設定).....	132
ホワイトバランスモードの色調を補正する (ホワイトバランス補正).....	133
撮影感度を設定する (ISO感度).....	135
撮影設定メニューの設定を元に戻す (撮影設定初期化).....	137
絞り優先モード時に絞り値を自動的に変更する (絞り自動シフト).....	138
マイセッティングモード時に撮影モードを変更する (撮影モード切替).....	139
2 動画を撮影・再生する	140
動画を撮影する.....	140
フレーム数を設定する (フレームレート).....	141
動画を再生する.....	143
3 いろいろな再生	144
再生設定メニューについて.....	144
メニューの操作方法.....	145
自動的に順に表示する (スライドショー).....	146
削除できないように設定する (プロテクト).....	147
1ファイルのプロテクトする.....	147
すべてのファイルのプロテクトする.....	148
複数のファイルを一度にプロテクトする.....	149
プリントサービスを利用する (DPOF: ディーポフ).....	150
表示している静止画にDPOF設定する.....	150
すべての静止画にDPOF設定する.....	151
複数の静止画にDPOF設定する.....	152
画像サイズを縮小する (画像サイズ変更).....	153

内蔵メモリーの内容をカードへコピーする （カードへコピー）.....	155
斜めから撮影した画像を補正する（斜め補正）.....	156
画像の明度、コントラストを補正する（レベル補正）.....	158
オートで補正する（AUTO）.....	158
マニュアルで補正する（MANUAL）.....	159
画像の色調を補正する（ホワイトバランス補正）.....	161
テレビの画面で見る.....	163

4 ダイレクトプリントで印刷する 165

ダイレクトプリント機能について.....	165
カメラとプリンターを接続する.....	166
静止画を印刷する.....	167
1枚またはすべての静止画を印刷する.....	167
複数の静止画を印刷する.....	169
帳票印刷する.....	171

5 カメラの設定を変える 172

セットアップメニューについて.....	172
セットアップメニューの操作方法.....	173
SDメモリーカードを使えるようにする（初期化 [カード]）.....	175
内蔵メモリーを初期化する（初期化 [内蔵メモリー]）.....	176
画像モニターの明るさを調節する（LCD輝度調節）.....	177
コンバージョンレンズの種類を設定する （コンバージョンレンズ）.....	178
自分好みの設定を登録する（マイセッティング登録）.....	180
ズームの焦点距離を固定する（ステップズーム）.....	182
ISO AUTO-HI の設定を変える（ISO AUTO-HI 設定）.....	183
Fn（ファンクションボタン）に機能を登録する （Fn1/2ボタン設定）.....	184
Fn（ファンクション）ボタンの機能をマイセッティングで保存す るかどうか設定する（Fn設定のMY登録）.....	186
操作音の設定を変える（操作音）.....	187
操作音の音量を変える（操作音音量設定）.....	188
ADJ.レバーに機能を登録する（ADJ.レバー設定）.....	189
ADJ.モード時にシャッターボタンで設定を確定する（ADJシャッ ターボタン確定）.....	190
水準器の確認方法を設定する（水準器設定）.....	191
AF補助光の設定を変える（AF補助光）.....	192
オートリサイズズームを使う（デジタルズーム切替）.....	193
オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）.....	195

再生画面の表示先を設定する（再生画面出力先）.....	196
画像確認時間を変える（画像確認時間）.....	197
再生画像の向きを自動補正する（縦横自動回転再生）.....	198
CL-BKT撮影時の記録画像を設定する（CL-BKT 白黒(TE)）.....	200
RAWモード時のJPEG画像の設定を変える （RAW同時記録設定）.....	201
ファイル名の設定を変える（カード連続NO.）.....	202
日付・時刻を設定する（日時設定）.....	204
表示言語を変える（Language / 言語）.....	205
テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）.....	206

6 画像をパソコンに取り込む 207

Windowsをご使用の場合.....	207
付属のCD-ROMを使うために必要な環境.....	208
CD-ROMの構成.....	209
[ソフトウェアのインストール] をクリックする.....	210
[使用説明書（ソフトウェア編）を見る] をクリックする.....	213
[CD-ROMの内容を見る] をクリックする.....	213
ソフトウェアを削除（アンインストール）する.....	217
RICOH Gate Laを使用して画像を一括取り込みする.....	219
RICOH Gate Laを使用せずに画像を取り込む.....	220
カメラとパソコンの接続を解除する.....	222
Macintoshをご使用の場合.....	223
画像をパソコンに取り込む.....	223
カメラとパソコンの接続を解除する.....	224

7 付録 225

お困りのときは.....	225
エラーメッセージが表示されたら.....	225
カメラ本体のトラブル.....	226
ソフトウェア/パソコンのトラブル.....	233
主な仕様.....	235
内蔵メモリー/SDメモリーカードの記録可能枚数.....	238
別売り品について.....	239
ACアダプター（別売り）を使う.....	240
外部フラッシュを使う.....	242
初期値/電源オフで初期値に戻る機能.....	244
海外でお使いのときは.....	246
使用上のご注意.....	247
お手入れと使用/保管場所について.....	248
アフターサービスについて.....	249
索引.....	250

基本編

はじめてお使いのときは
必ずお読みください

パッケージを確認する.....	14
カメラのシステム構成図.....	20
カメラの各部の名称.....	21
モードダイヤルの使い方	23
アップダウンダイヤル/ ADJ.レバーの使い方.....	24
画像モニターの表示.....	26
準備をする.....	30
撮影する.....	39
再生する.....	51
削除する.....	56
DISP.ボタンで画面表示を 切り替える.....	60

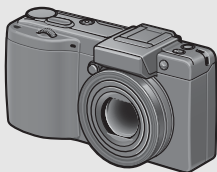
パッケージを確認する

パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。
※同梱品の形状は、実際とは異なる場合があります。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

GX200

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。



ホットシューカバー

カメラ本体に装着されています。



USBケーブル (miniBタイプ)

カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンターと接続するときに使用します。

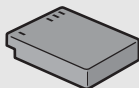


AVケーブル

テレビで画像を見るときに使用します。



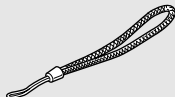
リチャージャブルバッテリー



バッテリーチャージャー



ハンドストラップ



レンズキャップ レンズキャップ用ひも



使用説明書（カメラ編）



(本書)

CD-ROM (P.207)

ソフトウェアと『使用説明書（ソフトウェア編）』などが含まれています。

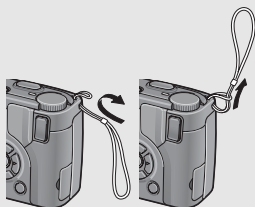
Macintoshでは、CD-ROMに含まれているソフトウェアを使用することはできませんが、『使用説明書（ソフトウェア編）』を表示することは可能です（パソコンにAcrobatがインストールされている場合のみ）。



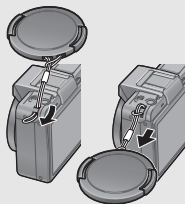
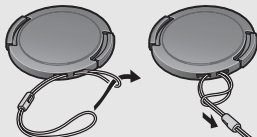
メモ

ハンドストラップのつけかた

ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。



レンズキャップ用ひものつけかた



はじめてお使いのときは必ずお読みください



GX200 VF KITについて-----

- GX200の同梱品の他に、以下のものが同梱されています。
 - 液晶ビューファインダー (VF-1)
 - VF-1のケース
 - VF-1の使用説明書
 - VF-1の保証書
- 液晶ビューファインダーを取り付けるときは、カメラの電源をオフにしてください。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

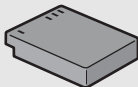
別売り品について

ACアダプター (AC-4c)

家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。長時間の再生、パソコンへの画像の転送時などにご利用ください。



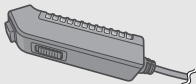
リチャージャブルバッテリー (DB-60)



バッテリーチャージャー (BJ-6)



ケーブルスイッチ (CA-1)



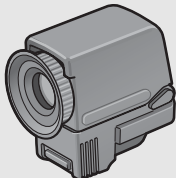
自動開閉式レンズキャップ (LC-1)

レンズのせり出しによって自動開閉します。



液晶ビューファインダー (VF-1)

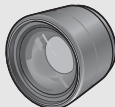
ホットシューに取り付ける、電子ビューファインダーです。GX200 VF KIT では、液晶ビューファインダー (VF-1) は同梱されています。使用方法は、VF-1の使用説明書を参照してください。



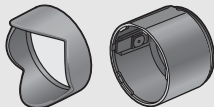
ワイドコンバージョンレンズ (DW-6)



テレコンバージョンレンズ (TC-1)



フード&アダプター (HA-2)



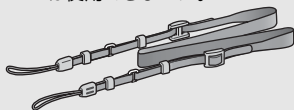
はじめてお使いのときは必ずお読みください

ソフトケース (SC-45)



ネックストラップ (ST-2)

ST-1は使用できません。

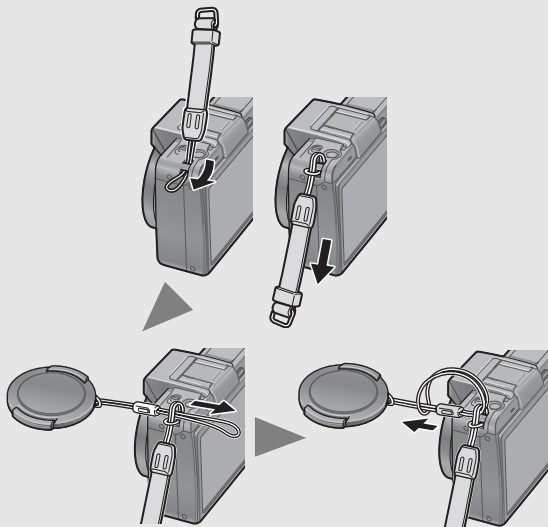


はじめてお使いのときは必ずお読みください



メモ

ネックストラップ (ST-2) とレンズキャップ (同梱品) のつけかた
ネックストラップ (ST-2) の先端を結合部より外し、図の様に取り付けます。



メモ

- 別売り品の詳細については、P.239をご覧ください。
- 別売り品の最新情報については、弊社ホームページ (<http://www.ricoh.co.jp/dc/>) をご覧ください。



リングキャップの取り付け・取り外し方-----

ワイドコンバージョンレンズ、テレコンバージョンレンズ、自動開閉式レンズキャップ、フード&アダプターを使用するときは、リングキャップを取り外します。

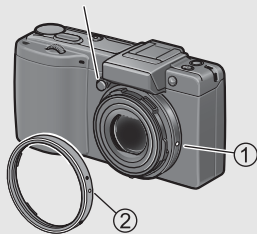
リングキャップの取り外し方

カメラ本体の電源がオフの状態
で、リングキャップ取外しボタ
ンを押しながら、リングキャ
ップを反時計回りに回し、カ
メラ本体から取り外します。

リングキャップの取り付け方

カメラ本体の電源がオフの状
態で、カメラ本体の目印①に
リングキャップの目印②を合
わせ、「カチッ」と音がする位
置まで時計方向に回します。

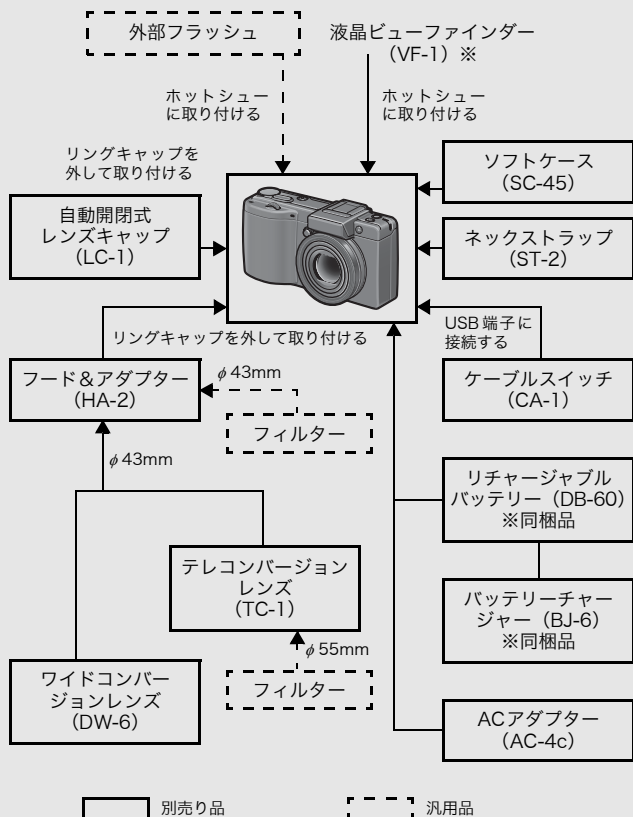
リングキャップ
取外しボタン



はじめてお使いのときは必ずお読みください

カメラのシステム構成図

はじめてお使いのときは必ずお読みください

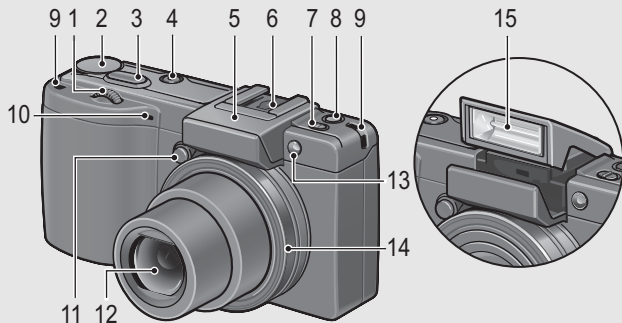


※ GX200 VF KITでは、液晶ビューファインダー (VF-1) は同梱されています。使用方法は、VF-1の使用説明書を参照してください。

カメラの各部の名称

カメラ本体

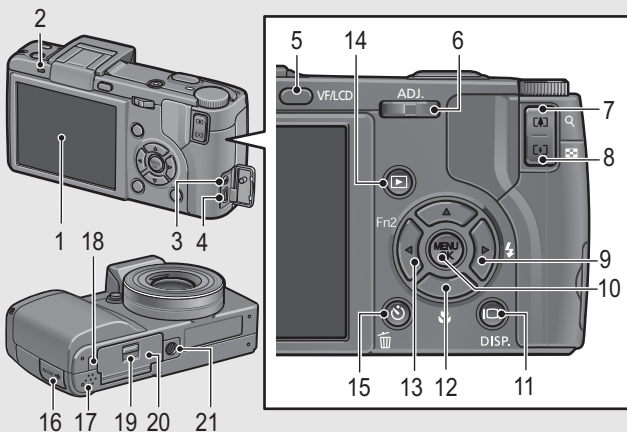
前面



	名称	参照先
1	アップダウンダイヤル	P.24
2	モードダイヤル	P.23
3	シャッターボタン	P.39
4	POWER (電源) ボタン	P.37
5	フラッシュカバー	P.47
6	ホットシュー	P.20、242
7	⚡OPEN (フラッシュオープン) スイッチ	P.47
8	Fn1 (ファンクション1) ボタン	P.73
9	ストラップ取り付け部	P.15
10	マイク	—
11	リングキャップ取外しボタン	P.19
12	レンズ	P.39
13	AF補助光	P.50、192
14	リングキャップ	P.19
15	フラッシュ発光部	P.47

はじめてお使いのときは必ずお読みください

背面



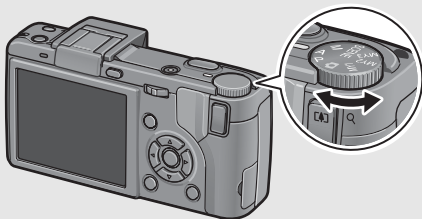
はじめてお使いのときは必ずお読みください

	名称	参照先
1	画像モニター	P.26
2	オートフォーカス/フラッシュランプ	P.37、42、47
3	AV出力端子	P.163
4	USB端子	P.166、219、220、223
5	VF/LCDボタン	P.60
6	ADJ.レバー	P.68
7	[Q] (望遠) / [Q] (拡大表示) ボタン	P.44、54
8	[AF-ON] (広角) / [AF-ON] (サムネイル表示) ボタン	P.44、53
9	[Fn2] / [Fn2] (フラッシュ) ボタン	P.47
10	MENU/OKボタン	P.97、145、173
11	[DISP.] (DISP.) ボタン	P.60
12	[Fn2] / [Fn2] (マクロ) ボタン	P.45
13	[Fn2] / [Fn2] (ファンクション2) ボタン	P.73
14	[Fn2] (再生) ボタン	P.51
15	[Fn2] (削除) / [Fn2] (セルフタイマー) ボタン	P.56、50
16	端子カバー	P.163、166、219、220、223
17	スピーカー	P.143
18	電源 (DC入力) ケーブルカバー	P.240
19	解除レバー	P.35、240
20	バッテリー/カードカバー	P.35、240
21	三脚ネジ穴	P.235

モードダイヤルの使い方

静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを切り替えてから行います。

- 1 モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせる



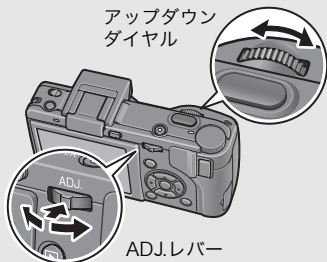
モードダイヤルのマークと働き

マーク	機能	働き	参照先
	オート撮影モード	被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。	P.41
P	プログラムシフトモード	絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できます。	P.86
A	絞り優先モード	絞り値を手動で設定でき、その絞り値に合わせて自動的にシャッタースピードが設定されます。	P.82
M	マニュアル露光モード	絞り値とシャッタースピードを手動で設定できます。	P.84
SCENE	シーンモード	撮影シーンに適した設定を選ぶことができます。また、動画を撮影できます。	P.88
MY1、 MY2、 MY3	マイセッティングモード	[マイセッティング登録] で設定した内容で撮影します。	P.93

はじめてお使いのときは必ずお読みください

アップダウンダイヤル / ADJ.レバーの使い方

アップダウンダイヤル、ADJ.レバーを使うと、▲▼◀▶ボタンで行うさまざまな操作を簡単に行うことができます。アップダウンダイヤルは図のように回して操作します。ADJ.レバーは中央を押したり、左右に押して操作します。



アップダウンダイヤル / ADJ.レバーでできる操作は、次のとおりです。

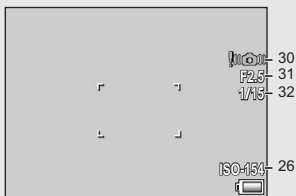
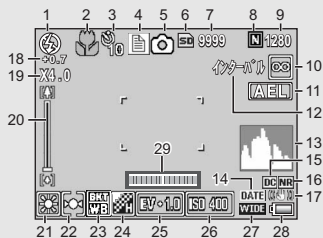
モード / 画面	働き		参照先
	アップダウンダイヤル	ADJ.レバー	
ADJ.モードに移行	—	中央を押す：ADJ.モードに移行	P.68
ADJ.モード	▲▼ボタンと同じ	左右にたおす：◀▶ボタンと同じ 中央を押す：MENU/OKボタンと同じ（確定）	P.68
絞り優先モード (A)	絞り値 (F値) の変更	—	P.82
マニュアル露光モード (M)	絞り値 (F値) の変更	シャッタースピードの変更	P.84
プログラムシフトモード (P)	絞り値 (F値) とシャッタースピードの組み合わせの変更	—	P.86
撮影 / 再生 / セットアップメニュー	▲▼ボタンと同じ	左右にたおす：◀▶ボタンと同じ 中央を押す：画面タブ (画面左)、または設定項目選択時は、各メニュータブ (画面上) に戻る	P.97、145、173

モード／画面	働き		参照先
	アップダウンダイヤル	ADJ.レバー	
シーンモード (シーンモード選 択画面)	▲▼ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.88
再生モード (通常再生画面)	表示倍率の変更	◀▶ボタンと同じ	P.54、 51
再生モード (一覧表示画面)	▲▼ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.53
再生モード (拡大再生画面)	表示倍率の変更	拡大した状態で、前の 画像／次の画像を表 示	P.54

はじめてお使いのときは必ずお読みください

画像モニターの表示

撮影するときの画面



静止画モード



動画モード

はじめてお使いのときは必ずお読みください

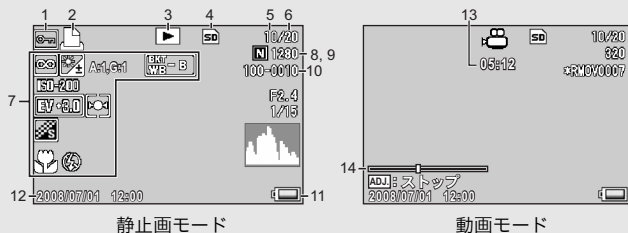
	名称	参照先		名称	参照先
1	フラッシュのモード	P.47	20	ズームバー	P.44
2	マクロ撮影	P.45	21	ホワイトバランスモード、ホワイトバランス補正	P.129、133
3	セルフタイマー	P.50			
4	シーンモード/連写	P.88、106	22	測光モード	P.105
5	撮影モードの種類	P.23	23	オートブラケット	P.118、119、120
6	記録先	P.32			
7	残り記録枚数	P.238	24	画像設定	P.110
8	画質	P.99	25	露出補正	P.128
9	画像サイズ	P.99	26	ISO感度	P.135
10	フォーカスモード	P.102	27	コンバージョンレンズの種類	P.178
11	AEロック	P.77			
12	インターバル撮影	P.124	28	電池マーク	P.29
13	ヒストグラム表示	P.66	29	水平インジケーター	P.63、191
14	日付入れ撮影	P.126			
15	ディストーション補正	P.114	30	手ブレ注意マーク	P.40
			31	絞り値	P.235
16	ノイズリダクション	P.122	32	シャッタースピード	P.84、86
17	手ブレ補正	P.127	33	フレームレート	P.141
18	フラッシュ調光補正、フラッシュマニュアル発光量	P.115、116	34	残り記録時間	P.238
			35	記録時間	P.142、P.238
19	デジタルズームの倍率	P.44			



メモ

- 残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なる場合があります。
- 残り記録枚数が1万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面



名称	参照先	名称	参照先
1 プロテクト	P.147	8 画質	P.99
2 DPOF	P.150	9 画像サイズ	P.99
3 モードの種類	—	10 ファイル番号	—
4 再生元	P.52	11 電池マーク	P.29
5 再生ファイル数	—	12 撮影した日付	P.204
6 総ファイル数	—	13 記録時間または経過時間	—
7 撮影時（記録時）の設定	—	14 インジケーター	—






メモ

- 7に表示される [ホワイトバランス補正] の設定値は、撮影時の [ホワイトバランス補正] の値です (P.133)。再生時の [ホワイトバランス補正] の値は表示されません。
- 使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

はじめてお使いのときは必ずお読みください





電池の残量表示

画像モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
 緑色	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の容量が減りはじめました。充電または新しい電池に交換することをお勧めします。
	電池の残量がわずかになりました。充電または新しい電池に交換してください。



注意

- 単四形ニッケル水素電池、単四形オキシライド乾電池をご使用の場合、電池の種類や条件によっては、表示が出なかったり、表示や表示がすぐに出ることがあります。あらかじめ、お手持ちの電池でご確認の上、ご使用ください。
- AC アダプターをご使用の場合、表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

準備をする

電源を入れて撮影できるように準備します。



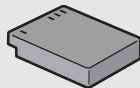
メモ

- すでに電源をオンにした場合は、電池を着脱する前に、電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.37をご覧ください。

電池について

リチャージャブルバッテリー DB-60 (付属)

リチウムイオン電池です。バッテリーチャージャーで充電して繰り返し使用できるので、経済的です。リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。



メモ

以下の電池も使用できます。

- **単四形アルカリ乾電池 (市販)**
どこでも入手しやすい電池です。ただし、寒冷地などの低温環境では、記録可能枚数が少なくなります。電池を手で温めるなどして使用してください。より長い時間カメラをご使用いただくには、リチャージャブルバッテリーの利用をお勧めします。
- **単四形オキシライド乾電池 (市販)**
充電式ではありませんが、デジタルカメラで使用した場合、単四形アルカリ乾電池に比べて持続時間が長く、便利です。
- **単四形ニッケル水素電池 (市販)**
充電して繰り返し使用できるので、経済的です。充電するときは、ご使用の電池に対応した充電器をご使用ください。



記録可能枚数

- 記録可能枚数（電池の持続）の目安

電池の種類	通常時の枚数
リチャージャブルバッテリー（DB-60）	約350枚 ^{*1}
単四形アルカリ乾電池（市販）	約45枚 ^{*2}

*¹液晶ビューファインダーを使用した場合は約350枚になります。

*²液晶ビューファインダーを使用した場合は約50枚になります。

- 撮影枚数はCIPA規格に準拠した測定条件によるものです。（温度23°C、画像モニターオン、30秒ごとに撮影、2回に1回フラッシュ発光、10枚撮影することに電源をオフ/オンを繰り返す）
- 単四形アルカリ乾電池の記録可能枚数は、松下電池工業株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用したときの枚数です。
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分記録可能時間（枚数）が短くなります。長時間ご使用になる場合は、予備電池の携帯をお勧めします。



注意

- 市販のニッケル水素電池はご購入時には充電されていません。ご使用前に充電してお使いください。
- ニッケル水素電池の場合、ご購入直後や1ヶ月以上使用しないで放置すると“不活性状態”となっている場合があります、そのときには電池本来の性能が発揮されません。このような場合には2～3回充電を繰り返してから再度ご使用ください。また、カメラを使用しないでも、自己放電により容量が徐々に低下するため、ご使用前には再度充電を行ってください。
- 単四形アルカリ乾電池の場合、電池の銘柄、製造日からの保存期間により電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、低温時には使用時間が極端に短くなります。
- マンガン乾電池およびニッカド電池は、ご使用になれません。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長い期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- リチウムイオン電池は、純正品（DB-60）をご使用ください。当社指定のリチャージャブルバッテリー以外は使用しないでください。

SDメモリーカード（市販）について

記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーか、SDメモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、約54MBです。

静止画・動画をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いSDメモリーカードを使うと便利です。

はじめてお使いのときは必ずお読みください



初期化について

新しいSDメモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。また、[使用できないカードです。]等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンや他のデジタルカメラで使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。（P.175）



記録先について

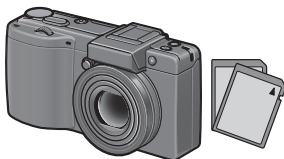
SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードに記録されます。

本体のみのとき



内蔵メモリーに記録

SDメモリーカードが
セットされているとき



SDメモリーカードに記録



注意

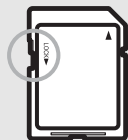
- SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SDメモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。





誤って記録データを消さないようにするには-----

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除も初期化もできるようになります。大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。

なお、「LOCK」の状態にするとSDメモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。



メモ-----

- 再生時のSDメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについては、P.52をご覧ください。
- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、SDメモリーカードの容量によって異なります。（ P.238）
- 内蔵メモリーに記録された画像を、SDメモリーカードにコピーすることができます。（ P.155）
- SDHCメモリーカード（16GBまで）も使用できます。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

リチャージャブルバッテリーを充電する

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは充電されていません。

1 バッテリーの⊕⊖印とバッテリーチャージャーの⊕⊖印を合わせてセットする

- この時、バッテリーの印刷面は上になっています。

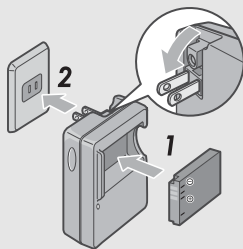


注意

- ⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 コンセントにバッテリーチャージャーを差し込む

- 充電には専用バッテリーチャージャー (BJ-6) をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。



充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	バッテリーチャージャーの端子汚れ、またはバッテリーチャージャー/バッテリーの異常 (バッテリーチャージャーをコンセントから抜いてバッテリーを取り外し、乾いた布や綿棒でバッテリーチャージャーの端子をふいてから再度セットしてください。それでも充電ランプが点滅する場合は、バッテリーチャージャーまたはバッテリーの異常が考えられます。バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外してください。)

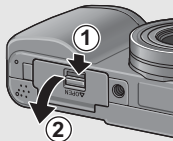
- バッテリーの残量により充電時間は異なります。

リチャージャブルバッテリーの充電時間	
DB-60	約2時間 (25°C)

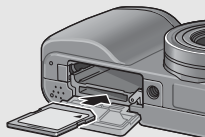
バッテリーとSDメモリーカードをセットする

リチャージャブルバッテリー（DB-60）は、本カメラで使用できる充電電池です。持続時間が長く、充電により繰り返し使用でき便利です。すでに電源をオンにした場合は、バッテリーとカードをセットする前、または取り出す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

- 1** 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける



- 2** SDメモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードを奥へ挿入する

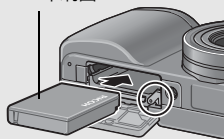


- 先にリチャージャブルバッテリーをセットしてもかまいません。

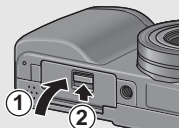
- 3** リチャージャブルバッテリーを挿入する

- バッテリー側面でロックツメを挿入部の外側に押しながら奥まで入れます。
- セットすると、ロックツメでロックされます。

ロゴ印刷面



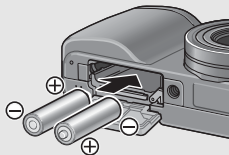
- 4** バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする



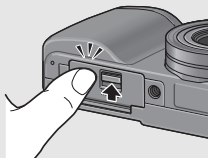
はじめてお使いのときは必ずお読みください

指定の乾電池（市販）の場合

電池の向きに気をつけて、図のように挿入します。



指で電池の入った箇所をふたの上から押さえながら解除レバーをスライドしてバッテリー／カードカバーを閉じてください。



SDメモリーカードを取り出すときには

解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。SDメモリーカードを一度押し込んで指を静かにはなすとSDメモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。

リチャージャブルバッテリーを取り出すときには

解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。ロックツメを押しながらずらすとバッテリーが押し出されますので、つまんで取り出します。このときバッテリーが落下しないよう十分に注意してください。

乾電池を取り出すときには

解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けて、乾電池を取り出します。このとき、乾電池が落下しないよう十分に注意してください。



注意

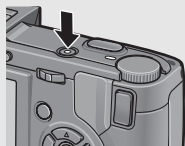
- バッテリー／カードカバーを閉めるときは、解除レバーをスライドさせて、確実にロックしてください。
- 長時間カメラをご使用にならない場合は、電池を抜いてカメラを保管してください。抜いた電池は涼しい場所に保管してください。

はじめてお使いのときは必ずお読みください




電源をオン/オフする

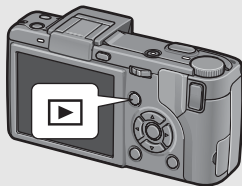
電源をオンにする

- 1 レンズキャップの両側のつまみを押しながら、レンズキャップを外す
- 2 POWER（電源）ボタンを押す
 - ・ 起動音が鳴って、オートフォーカス/フラッシュランプが数秒間点滅します。



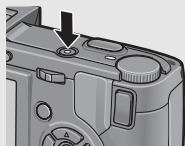
再生モードで使うときには

- ・ （再生）ボタンを約1秒以上押し続けると、再生モードの状態では電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- ・  ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度  ボタンを押すと、記録モードになります。




電源をオフにする

- 1 POWER（電源）ボタンを押す




注意

- ・ 初めて電源をオンにするときにコンバージョンレンズを装着している場合は、コンバージョンレンズの種類を選択する画面が表示されます。[WIDE [DW-6]] または [TELE [TC-1]] を選択して、MENU/OK ボタンを押してください。選択しないと撮影はできません。（ P.178）
- ・ フラッシュを使用する設定になっている場合は、フラッシュを使用しない設定の場合よりも、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くなる場合があります。



オートパワーオフについて

- ・ 設定した時間内にカメラのボタンを押す操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- ・ オートパワーオフの設定は変更することもできます。（ P.195）

はじめてお使いのときは必ずお読みください

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ▲▼◀▶ ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼で数値を変更し、◀▶で項目を移動します。
- DISP.ボタンを押すと、設定をキャンセルできます。



出荷時の設定

2 [書式] で日時の書式を選ぶ

- ▲▼で書式を選択します。

3 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- 日時が設定されます。



メモ

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、十分に残量のある電池をカメラに2時間以上セットしてください。
- 設定した日時は後で修正することができます。(P.204)
- 日時を入れて撮影することができます。(P.126)

はじめてお使いのときは必ずお読みください

撮影する

準備ができたなら、さっそく撮影してみましょう。

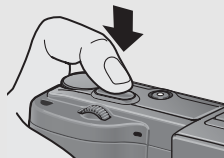
カメラの構えかた

カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

- 1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける



- 2 シャッターボタンに指を当てる



注意

指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。

はじめてお使いのときは必ずお読みください




手ブレを防ぐには -----

シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画が鮮明に撮れません（手ブレ）。

次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。

- フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
- ズームを使って撮る (P.44)
- 露光時間を長くして撮る (P.84)


画像モニターに  マークが表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。

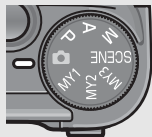
- 手ブレ補正機能を使う (P.127)
- フラッシュを [AUTO] または [強制発光] にする (P.47)
- ISO感度を上げる (P.135)
- セルフタイマーを使う (P.50)

はじめてお使いのときは必ずお読みください

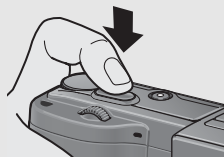
撮る

シャッターボタンを押す操作は、2段階になっています。シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押しきると撮影されます。被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

- 1** 電源をオンにして、モードダイヤルを  に合わせる

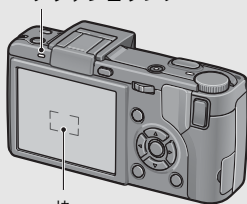


- 2** 画像モニターの中央に被写体をあわせ、シャッターボタンを半押しする



- ピント合わせが行われ、露出、ホワイトバランスが固定されます。
- ピントが合わない場合は、画像モニター中央部に赤い枠が表示され、オートフォーカス/フラッシュランプが緑色に点滅します。
- 最大9点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。

オートフォーカス/
フラッシュランプ

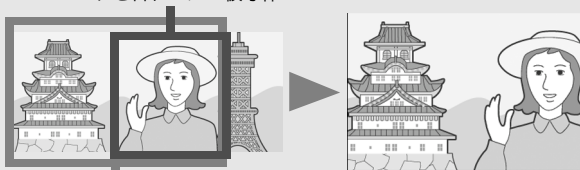


枠

はじめてお使いのときは必ずお読みください

3 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める

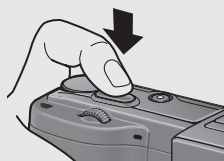
ピントを合わせたい被写体



撮影したい範囲

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 撮影した画像が画像モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。



ピント合わせについて

- ピント合わせの状態は、画像モニター中央の枠の色とオートフォーカス/フラッシュランプで確認することができます。




ピント合わせの状態	枠の色	オートフォーカス/ フラッシュランプ
ピント合わせ前	白	消灯
ピントが合ったとき	緑	緑点灯
ピントが合わなかったとき	赤	緑点滅

- 次のような被写体は、ピントを合わせられないことや、枠の色が緑になっていてもピントが合っていないことがあります。
 - コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
 - 横線だけで、凹凸のないもの
 - 動きの速いもの
 - 暗いところのもの
 - 強い逆光および反射光があるもの
 - 蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離の違う被写体にピントを固定するなどしてから撮影してください。



メモ

- 手ブレを防ぐために、シャッターボタンを押すときは、静かに押しましょう。
- マークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。
- フラッシュ発光時は、AE（自動露出）の精度を補助するため、予備発光します（フラッシュモードが [マニュアル発光] のときを除く  P.47）。
- 撮影後、画像モニターに画像が表示される時間を設定することができます。また、次にシャッターボタンを半押しするまで画像を表示し続けたり、撮影後は画像を表示しないなどの設定もできます。 ( P.197)

はじめてお使いのときは必ずお読みください

ズームを使って撮る

[▲] (望遠) ボタンを押すと、被写体を大きく写すことができます。

[□] (広角) ボタンを押すと、広い範囲を写すことができます。



広角



望遠

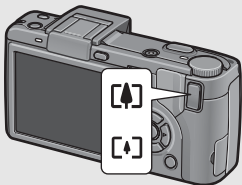


1 撮影できる状態で、[▲] ボタン や[□] ボタンを押す

- ・画像モニターのズームバーでズームの状況が確認できます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押しきる



デジタルズームを使う

デジタルズームを行うと、[▲] ボタンを押して設定した拡大倍率（最大3.0倍）より、さらに被写体を拡大できます（最大4.0倍まで）。

デジタルズームを使うには、ズームバー表示が[▲] 側の端まできたらいったん[▲] ボタンから指を離し、再び[▲] ボタンを押し続けます。

画質・サイズを4000×3000に設定している場合は、[デジタルズーム切替]で[オートリサイズ]を選択することもできます。（☞P.193）
[画質・サイズ]がRAWモードのときは、デジタルズームは使用できません。（☞P.99）



メモ

ズームの焦点距離を5段階に固定することができます。（☞P.182）

はじめてお使いのときは必ずお読みください

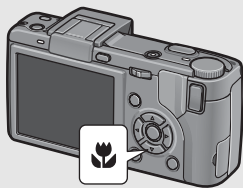
接写で撮る（マクロ撮影）

🌸（マクロ）ボタンを使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます（マクロ撮影）。

最短約1cm（レンズ先端より）まで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。

1 撮影できる状態で、🌸 ボタンを押す

- ・画像モニター中央に一瞬🌸が大きく表示され消えた後、上部に🌸が表示されます。



2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

- ・マクロモードを解除するには、もう一度🌸ボタンを押します。



メモ

- ・ズームを使用しているときには、次の距離までのマクロ撮影ができません。

	距離	撮影範囲
広角時	約1cm (レンズ先端より)	約29×22mm
望遠時	約4cm (レンズ先端より)	約25×19mm (デジタルズーム未使用時)
		約6.3×4.8mm (デジタルズーム4.0倍時)

- ・マクロ撮影で、より被写体を大きく撮りたいときには、シーンモードの【ズームマクロ】を使います。(P.92)



はじめてお使いのときは必ずお読みください


- ・ シーンモードでのマクロ撮影は、以下のとおりです。

シーンモード	マクロ撮影
動画	不可
ポートレート	不可
スポーツ	不可
遠景	不可
夜景	不可
文字	使用可
斜め補正	使用可
ズームマクロ	常時マクロ撮影

はじめてお使いのときは必ずお読みください

フラッシュを使って撮る








フラッシュを使うときは、 OPEN (フラッシュオープン) スイッチを外側にスライドさせて、フラッシュカバーを上げます (ポップアップ)。ポップアップしないと、フラッシュは発光しません。ポップアップした状態で、 (フラッシュ) ボタンを押すと、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時の初期設定は、[AUTO] です。

また、撮影設定メニューでは、フラッシュが発光するタイミングを [先幕] (露光時間の開始直後) か [後幕] (露光時間の終了直前) から選択することができます。購入時の初期設定は、[先幕] です。( P.117)

フラッシュモードが [AUTO] のときの、フラッシュの光が届く範囲 (ISO感度が [AUTO] または [ISO 400] の場合) P.135

広角時	約20cm～5.0m (レンズ先端より)
望遠時	約15cm～3.0m (レンズ先端より)

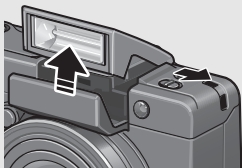
フラッシュモードの種類

	発光禁止	フラッシュを発光しません。
	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
	強制発光	必ずフラッシュを発光します。
	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をお勧めします。
	マニュアル発光	フラッシュの発光量を撮影設定メニューで設定できます。発光量は、最大発光量に対して、FULL、1/1.4、1/2、1/2.8、1/4、1/5.6、1/8、1/11、1/16、1/22、1/32から設定します。( P.116) シーンモードでは、[ズームマクロ] のときのみ使用できます。

1 撮影設定メニューの [フラッシュシンクロ設定] で、フラッシュ発光のタイミングを [先幕] または [後幕] から選択する

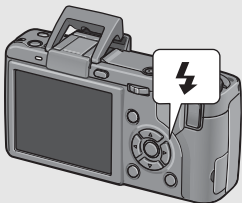
- 操作手順はP.117を参照してください。

2 4OPENスイッチを外側にスライドさせて、フラッシュカバーを上げる



3 4ボタンを押して、フラッシュモードを切り替える

- 画像モニター中央に、一瞬フラッシュモードのマークが大きく表示され消えた後、左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- [マニュアル発光] を選択した場合、フラッシュの発光量は、撮影設定メニューで設定している値になります。(P.116)
- フラッシュ充電中は、オートフォーカス/フラッシュランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、撮影が可能になります。



メモ

- フラッシュを使用しない場合は、フラッシュカバー中央部を指で押して戻します。
- 4ボタンを押して変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- 動画、連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケットでは、発光禁止になります。
- フラッシュの光量は調整することができます。(P.115)
- 単四形アルカリ乾電池、オキシライド乾電池、ニッケル水素電池をお使いの場合、フラッシュ充電中は画像モニターがオフになります。
- フラッシュ発光時は、AE (自動露出) の精度を補助するため、予備発光します (フラッシュモードが [マニュアル発光] のときを除く)。
- 外部フラッシュをご使用の場合は (P.242)、カメラの内蔵フラッシュを使用することはできません。

- ・ シーンモードでのフラッシュ撮影は以下のとおりです。

シーンモード	フラッシュ撮影
動画	発光禁止に固定
ポートレート	初期値：発光禁止
スポーツ	初期値：発光禁止
遠景	発光禁止に固定
夜景	強制発光は選択不可 初期値：オート
文字	初期値：発光禁止
斜め補正	初期値：発光禁止
ズームマクロ	初期値：発光禁止



注意

- ・ ワイドコンバージョンレンズ、テレコンバージョンレンズおよびフードをご使用の場合、カメラの内蔵フラッシュは使用できません。
- ・ 液晶ビューファインダーを傾けているときは、内蔵フラッシュは使用できません。液晶ビューファインダー装着時に内蔵フラッシュを使用する場合は、液晶ビューファインダーの角度を元に戻してください。
- ・ フラッシュモードが【マニュアル発光】の場合、発光量は自動的に調整されません。目の近くでフラッシュを発光したり（特に乳幼児）、運転者などに向かってフラッシュを発光したりしないでください。

☺セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10秒後、2秒後の2種類から選択できます。手ブレを防ぎたいときには2秒に設定すると便利です。

1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 ☺ (セルフタイマー) ボタンを押す

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある [10] は秒数を示しています。この状態でシャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。
- ☺ボタンは、1回押すごとに、10秒→2秒→セルフタイマー解除→10秒→2秒→・・・と切り替わります。



3 シャッターボタンを押す

- ピントが固定され、セルフタイマーがスタートするとAF補助光が発光します。



メモ

- 撮影した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、☺ボタンを押して、[セルフ オフ] に切り替えます。
- 2秒の場合は、AF補助光は発光しません。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

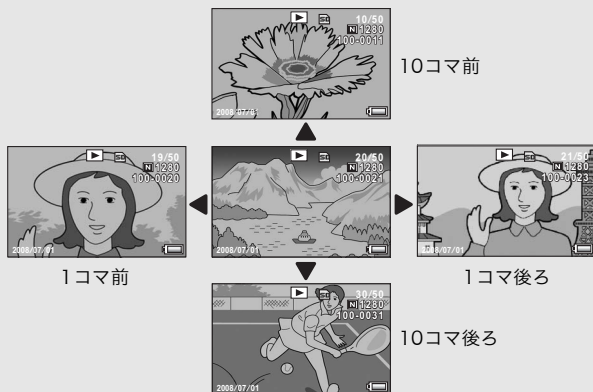
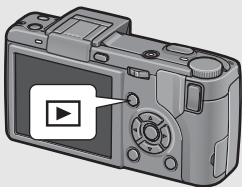
再生する

撮った静止画を見る

再生モードを使うと、撮った静止画を確認することができます。削除、拡大表示もできます。

1 □ (再生) ボタンを押す

- 再生モードに切り替わり、最後に撮ったファイルが表示されます。
- ◀▶ ボタンで、順番にファイルを見ることができます。
- ▲ ボタンを押すと、10 コマ前のファイルが表示されます。10コマ未満の場合は、先頭のファイルが表示されます。
- ▼ ボタンを押すと、10コマ後ろのファイルが表示されます。10コマ未満の場合は、最後のファイルが表示されます。
- 再生モードから撮影モードに戻るには、もう一度 □ ボタンを押します。



はじめてお使いのときは必ずお読みください



注意

[画質・サイズ] をRAWモードに設定して撮影した場合 (P.99)、DNGファイルと関連付けられたJPEGファイルが同時に記録されません。JPEGファイルをパソコン等で削除してしまった場合、カメラではDNGファイルのサムネイルは表示されますが、サムネイルを拡大することはできません。



メモ

- [画質・サイズ] をRAWモードに設定して撮影した画像 (RAW12M/R AW3:2/R AW1:1) を再生すると、同時記録されたJPEGファイルが表示されます。画面には、RAWモードを示すマークが表示されません。
- セットアップメニューの [再生画面出力先] を [VF] に設定すると、液晶ビューファインダー装着時は再生画面が液晶ビューファインダーに表示されます。(P.196)



撮影モードでの画像確認について

撮影モードでは、静止画を撮影した直後に、確認のために撮影した画像が表示されます。確認時間はセットアップメニューの [画像確認時間] で変更することができます (P.197) 。 [画像確認時間] を [HOLD] に設定すると、次にシャッターボタンを半押しするまで画像を表示し続けます。 [HOLD] に設定している場合は、確認中の画像を拡大表示したり削除したりすることもできます。(P.54、56)



再生モードでの電源オンについて

電源がオフの状態ですべてのボタンを約1秒以上押し続けると、電源がオンになり、再生モードの状態ですべてのボタンが起動します。
再生モードで電源をオンにした場合も、もう一度再生ボタンを押すと、撮影モードになります。



再生元について

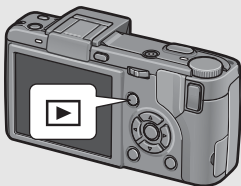
SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーから再生され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカードから再生されます。

一覧表示する（サムネイル表示）

再生画面は一覧表示（20枚ずつ）にすることができます。一覧表示では、ファイルを選択して、そのファイルを1枚表示にしたり、削除することができます。

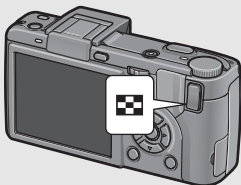
1 （再生）ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。



2 （サムネイル表示）ボタンを押す

- 画面が20分割されて、静止画が一覧表示されます。



1枚表示するには

● 一覧表示の場合

1 ▲▼◀▶ ボタンを押して静止画を選ぶ

2 Q ボタンを押す、またはMENU/OK ボタンを押す

はじめてお使いのときは必ずお読みください

静止画を拡大表示する

表示している静止画を拡大表示することができます。

画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
640×480	3.4倍
1280×960	6.7倍
上記以外の画像サイズ	16倍

1

▶ (再生) ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

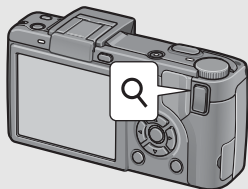
2

◀▶ ボタンを押して拡大表示したい静止画を表示する

3

Q (拡大表示) ボタンを押す、
またはアップダウンダイヤル
を回す

- 静止画が拡大されます。



画像拡大時の動作

Qボタン	静止画を拡大表示します。
⏏ボタン	拡大表示された静止画を元の大きさに戻します。
アップダウン ダイヤル	静止画を拡大表示します。また、拡大表示された 静止画を元の大きさに戻します。
MENU/OK ボタン	拡大表示中にMENU/OKボタンを押すと、静止画 を最大倍率で拡大して表示します。 最大倍率で表示されているときは、元の大きさに 戻します。
▲▼◀▶ボタン	拡大表示中に表示箇所を移動します。
ADJ.レバー	拡大表示した状態で、前の画像/次の画像を表示 します。動画、S連写、M連写を表示すると等倍 に戻ります。



メモ

- セットアップメニューで [画像確認時間] を [HOLD] に設定している場合 (P.197)、撮影後の確認画面で画像を拡大表示することもできます。
- 動画は拡大表示することができません。
- S連写、M連写の画像を拡大表示する方法については、P.109を参照してください。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

削除する

不要なファイルや失敗したファイルを、SDメモリーカードまたは内蔵メモリー内から削除することができます。

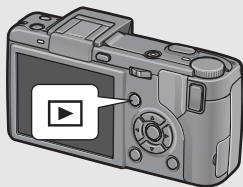


メモ

セットアップメニューで「画像確認時間」を「[HOLD]」に設定している場合（P.197）、撮影後の確認画面で画像を削除することもできます。

1ファイルを削除する

- 1 (再生) ボタンを押す
- 2 ボタンを使って削除したいファイルを表示する
- 3 (削除) ボタンを押す
- 4 ボタンを押して、「[1 ファイル削除]」を選ぶ
 - ボタンを使って削除するファイルを変更できます。
- 5 MENU/OKボタンを押す



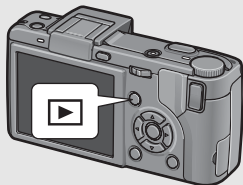
- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、手順4の画面に戻ります。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

すべてのファイルを削除する

1 ▶ (再生) ボタンを押す

2 𠂆 (削除) ボタンを押す



3 ▲▼ボタンを押して、[全削除] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 削除の確認画面が表示されるので、▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押します。

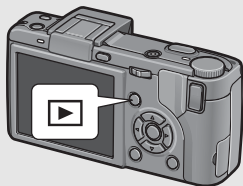


複数のファイルを一度に削除する

1 ▶ (再生) ボタンを押す

2 𠂆 (サムネイル表示) ボタンを押す


- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。



3 𠂆 (削除) ボタンを押す

はじめてお使いのときは必ずお読みください


● 削除するファイルを1つずつ指定する場合

4 ▲▼◀▶ ボタンを押して、削除したいファイルを選び、 (削除) ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。



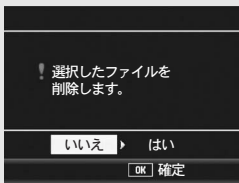
5 手順4を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して  (削除) ボタンを再度押すと解除できます。

6 MENU/OK ボタンを押す

7 ◀▶ ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。



● 削除する範囲を指定する場合

4 ADJ.レバーを押す

- もう一度ADJ.レバーを押すと、1ファイルずつ指定する画面に戻ります。

5 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したい範囲の始点になるファイルを選び、 (削除) ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。




6 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したい範囲の終点になるファイルを選び、 (削除) ボタンを押す

- 指定した範囲のファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。



7 手順5、6を繰り返して、削除したいファイルの範囲をすべて指定する

- 間違えて選択したときは、ADJ.レバーを押して1ファイルずつ指定する画面に戻り、ファイルを選択して (削除) ボタンを押すと解除できます。

8 MENU/OKボタンを押す

9 ◀▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

DISP.ボタンで画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

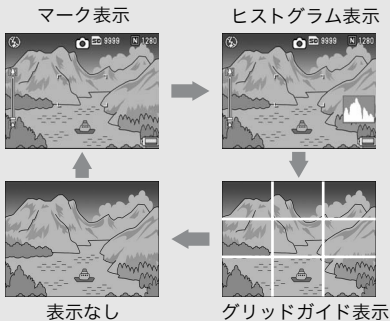


画像モニターをオン／オフするには-----

画像モニターが点灯しているときにVF/LCDボタンを押すと、画像モニターがオフになります。画像モニターがオフのときは、カメラ操作の一部ができません。もう一度VF/LCDボタンを押すと、画像モニターがオンになります。

また、液晶ビューファインダー装着時にVF/LCDボタンを押すと、液晶ビューファインダーと画像モニターが切り替わります。

● 撮影モード時



DISP.ボタンで切り替え



グリッドガイド表示-----

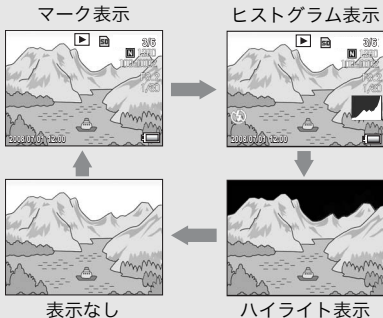
画像モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。



メモ

- [水準器設定] を [表示のみ] または [表示+音] に設定している場合は (P.191)、マーク表示とヒストグラム表示のときに水平インジケーターが表示されます。(P.63)
- 画像モニターオフ時 (液晶ビューファインダー装着時を除く) でも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
 - ADJ.レバー、MENU/OKボタン、▶ (再生) ボタンを押した場合
 - マニュアルフォーカス中 (P.103) に▲▼ボタンを押した場合
- 画像モニターオフ時でも、[コンバージョンレンズ] を [起動時選択] に設定している場合は、以下のときにコンバージョンレンズの種類を選択する画面が表示されます。[WIDE [DW-6]] または [TELE [TC-1]] を選択して、MENU/OKボタンを押してください。選択しないと撮影はできません。(P.178)
 - コンバージョンレンズを装着した状態で電源をオンにしたとき
 - コンバージョンレンズをカメラに装着したとき

●再生モード時



DISP.ボタンで切り替え



液晶ビューファインダーに再生画面を表示させるには -----

液晶ビューファインダー装着時にセットアップメニューの [再生画面出力先] を [VF] に設定すると、再生画面が液晶ビューファインダーに表示されます。(P.196)



ハイライト表示

ハイライト部分が黒く点滅します。ハイライトとは、被写体の特に明るい部分が真っ白に写り、色の濃淡を表す階調がなくなる状態です。階調がなくなると、撮影後に画像の修正ができません。直射日光を避ける、露出を一側に補正する（P.128）などして、撮り直すことをお勧めします。



メモ

ハイライト表示は、あくまでも目安です。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

電子水準器について

セットアップメニューまたはDISP.ボタンの長押しで〔水準器設定〕をオンにすると（P.191）、撮影する画像が水平かどうかを水平インジケータ―や水準器音で確認することができます。水平インジケータ―は、マーク表示とヒストグラム表示のときに表示されます。

風景や建物など、水平のとれた画像を撮影したい場合に使用します。地平線の入った構図等で特に有効です。

〔水準器設定〕の設定方法は、P.191を参照してください。

●〔水準器設定〕を〔表示のみ〕に設定している場合：

画像モニターに水平インジケータ―が表示されます。カメラが水平のときは、水平インジケータ―が緑色になり、目盛りが真中を指します。カメラが傾いている場合は、水平インジケータ―の目盛りがオレンジ色になり、カメラの傾きと反対側を指します。

●〔水準器設定〕を〔表示+音〕に設定している場合：

画像モニターに水平インジケータ―が表示されます。カメラが水平のときは、水平インジケータ―が緑色になって目盛りが真中を指し、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。カメラが傾いている場合は、水平インジケータ―の目盛りがオレンジ色になり、カメラの傾きと反対側を指します。

●〔水準器設定〕を〔音のみ〕に設定している場合：

カメラが水平のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。水平インジケータ―は表示されません。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

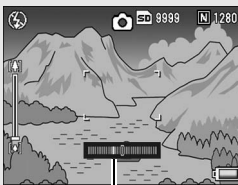
水平インジケーターの表示

水平の場合



緑色

右に傾いている場合



オレンジ色

水平かどうか検知できなかった場合



赤色

カメラを縦にしている場合



はじめてお使いのときは必ずお読みください



メモ

- カメラを左右に傾けすぎている場合は、水平インジケーターの目盛りが赤くなり、カメラの傾きと反対側の端を指します。
- カメラを縦にしている場合も、水平になっているかどうかを水準器で確認することができます。



注意

- カメラを前後方向に傾けすぎている場合、またはカメラが水平かどうか検知できなかった場合は、水平インジケーターが赤くなります。
- グリッドガイド表示、表示なし、画像モニターオフ（液晶ビューファインダー装着時を除く）のときは（ P.60）、水準器音は鳴りますが水平インジケーターは表示されません。[水準器設定]を[表示+音]に設定している場合は、水準器音のみ鳴ります。
- カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合、動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- 乗り物に乗っているなど、ゆれている場所にいる場合や、カメラがゆれている場合は、水準器の精度が低くなります。
- [水準器設定]を[表示+音]または[音のみ]に設定していても、[操作音音量設定]を[□□□]（なし）に設定している場合（ P.188）は、音は鳴りません。
- この機能は、本カメラで撮影する画像が水平かどうかを確認するための目安としてご使用ください。カメラ自体を水準器として使用した場合の水準器の精度は保証できません。

はじめてお使いのときは必ずお読みください

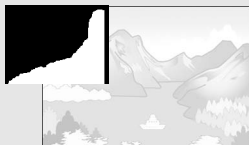
ヒストグラム表示について

はじめてお使いのときは必ずお読みください

ヒストグラム表示にすると、画像モニター画面の右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。

ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる画像モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白飛びや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムで、右側だけにグラフの山が盛り上がり、ほかには何もないとすると、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。



左側だけにグラフの山があると、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。露出補正時の参考にお使いください。



メモ

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- 撮影後に、ヒストグラムを調整しながら画像の明度、コントラストを補正することができます。(P.158)
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.128を参照してください。

応用編

目的に応じて必要なとき
にお読みください

- 1 いろいろな撮影 68
- 2 動画を撮影・再生する ...140
- 3 いろいろな再生 144
- 4 ダイレクトプリントで
印刷する 165
- 5 カメラの設定を変える.... 172
- 6 画像をパソコンに
取り込む 207
- 7 付録 225

1

2

3

4

5

6

7

ADJ.レバーの使い方

ADJ.レバーには、撮影設定メニューのうち4つの機能を登録することができます。5つ目の機能（AE/AFターゲット移動）は固定されており、変更することはできません。

ADJ.レバーを使うと、撮影設定メニューを表示することなく少ないボタン操作で設定ができるので、使用頻度の高い機能を登録しておくとう便利です。

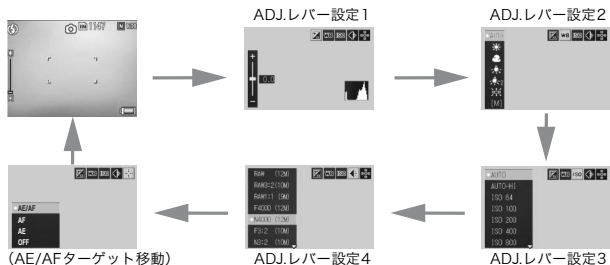
ご購入時には4つの機能（露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質）が登録されていますが、セットアップメニューで機能を変更することができます。機能変更の操作はP.189を参照してください。

ADJ.モードでの操作方法は、以下のとおりです。

1 撮影モードでADJ.レバーを押す

2 ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押して、設定したい項目を選択する

- 以下の画面は、セットアップメニューで[ADJ.レバー設定1]～[ADJ.レバー設定4]に[露出補正]、[ホワイトバランス]、[ISO]、[画質]の機能を登録した場合の画面例です。
- 5つ目のアイコン（AE/AFターゲット移動）は固定されており、セットアップメニューで変更することはできません。



3 ▲▼ボタンを押して設定を選択する

4 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押して確定する

[ADJ.レバー設定] で登録できる機能

露出補正、ホワイトバランス、WB補正、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正、マニュアル発光



メモ

- シーンモード時は、ADJ.レバーで設定できる機能が他の撮影モードと異なります。ADJ.レバーで設定できる項目は、以下のとおりです。以下の項目以外は、[ADJ.レバー設定] で登録はできますが、ADJ.レバーを押しても動作しません。

シーンモード	設定できる項目
[動画]	ホワイトバランス
[文字]	文字濃度 (P.70)
[動画]、[文字] 以外	露出補正、ホワイトバランス

- シャッターボタンの半押しでも、確定ができるよう設定できます。(P.190)

文字濃度を変える (シーンモード)

ADJ.レバーを押すと、シーンモードの[文字]で撮影する(☞P.88)場合の、文字の濃淡を変更することができます。濃淡は[濃い]、[標準]、[薄い]から選択できます。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」(☞P.97)を参照して操作してください。

1
いろいろな撮影

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- ・シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、[文字]を選び、MENU/OKボタンを押す



4 ADJ.レバーを押す

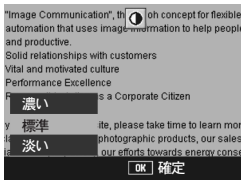
- ・文字濃度のメニューが表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、濃度を選ぶ

- ・この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

6 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す


- ・文字濃度の設定値は画面上には表示されません。



AEとAFのターゲットを移動する

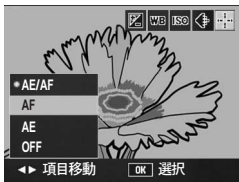
ADJ.レバーを押すと、撮影時にカメラを動かすことなく、AE（自動露出）とAF（オートフォーカス）の両方、またはどちらかのターゲットを移動することができます。三脚を使った撮影時などに便利です。

設定	内容
AE/AF	AEとAFはそれぞれスポットAE、スポットAFとなり、ターゲットを同時に移動できます。(スポットAEとスポットAFのターゲットは同じ位置になります。)
AF	AFがスポットAFとなり、ターゲットを移動できます。測光は撮影設定メニューの[測光]で選択した設定になります(☞P.105)。
AE	AEがスポットAEとなり、ターゲットを移動できます。フォーカスは撮影設定メニューの[フォーカス]で選択した設定になります(☞P.102)。

- 1 撮影モードでADJ.レバーを押す
- 2 ADJ.レバーを左右にたおして、を選択する

- 3 ▲▼ボタンを押して設定を選び、ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す

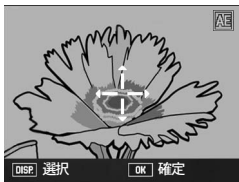
- ・ ターゲット移動画面が表示されます。



- 4 ▲▼◀▶ ボタンを押す、またはADJ.レバーを左右にたおして、ターゲットを合わせたい位置に十字を移動する

- ・ DISP.ボタンを押すと、手順3の画面に戻ります。

- 5 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す



6 シャッターボタンを半押しする

- [AE/AF] を選択している場合は、スポットAEとスポットAFの位置が表示されます。
- [AF] を選択している場合は、スポットAFの位置が表示されます。
- [AE] を選択している場合は、スポットAEの位置とピント合わせの枠が表示されます。

7 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる



メモ-----

- [Fn1/2 ボタン設定] で [ターゲット移動] を設定している場合は (☞P.184)、Fn1/Fn2 ボタンを押すと手順4の画面が表示されます。(☞P.80)
- ターゲットを移動した後に [AE]、[AF]、[AE/AF] の設定を変更すると、移動したターゲットの位置は中央に戻ります。
- [フォーカス] を [MF] に設定している場合は、AE/AF ターゲット移動機能は使用できません。(☞P.103)
- シーンモードでは、AE/AFターゲット移動機能は使用できません。

Fn (ファンクション) ボタンの使い方

セットアップメニューの [Fn1/2ボタン設定] で機能を登録すると (P.184)、2つあるFn (ファンクション) ボタンを押すだけで色々な機能を切り替えたり、少ないボタン操作で撮影設定メニューの項目を変更することができます。ご購入時は、[Fn1ボタン設定] は [AF/MF]、[Fn2ボタン設定] は [AEロック] に設定されています。

Fn1/Fn2ボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。それぞれの操作方法は各参照先をご覧ください。

[Fn1/2ボタン設定]	機能	参照先
AF/MF	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える	P.75
AF/スナップ	オートフォーカスとスナップを切り替える	P.76
AEロック	露出を固定する	P.77
JPEG→RAW	JPEGとRAWを切り替える	P.78
カラー→白黒	カラーと白黒*1を切り替える	P.79
カラー→TE	カラーと白黒(TE)*2を切り替える	P.79
ターゲット移動	AEとAFの両方、またどちらかのターゲットを移動する	P.80
露出補正、ホワイトバランス、WB補正、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正、マニュアル発光	各撮影設定メニューの項目を変更する	P.81

*1 [画像設定] の [白黒] で設定した画質 (P.111)

*2 [画像設定] の [白黒(TE)] で設定した画質 (P.112)

シーンモード時に設定可能な機能について

シーンモード時は、Fn1/Fn2ボタンで設定できる機能が他の撮影モードと異なります。Fn1/Fn2ボタンで設定できる項目は、以下のとおりです。○以外の項目は、[Fn1/2ボタン設定]で登録はできますが、Fn1/Fn2ボタンを押しても動作しません。

	シーンモード							
	動画	ポートレート	スポーツ	遠景	夜景	文字	斜め補正	ズームマクロ
AF/MF	○	—	—	—	—	—	○	○
AF/スナップ	○	○	○	—	○	—	○	—
AEロック	—	○	○	○	○	○	○	○
JPEG→RAW	—	○	○	○	○	—	—	○
カラー→白黒	—	—	—	—	—	—	○	○
カラー→TE	—	—	—	—	—	—	○	○
露出補正	—	○	○	○	○	—	○	○
ホワイトバランス	○	○	○	○	○	—	○	○
WB補正	○	—	—	—	—	—	—	—
ISO	—	—	—	—	—	—	○	○
画質	○	○	○	○	○	○	○	○
フォーカス	○	○	○	—	○	—	○	○
画像設定	—	—	—	—	—	—	○	○
測光	—	—	—	—	—	—	○	○
連写	—	—	—	—	—	—	—	○
オートブラケット	—	—	—	—	—	—	—	○
ターゲット移動	—	—	—	—	—	—	—	—
調光補正	—	○	○	—	○	—	○	○
マニュアル発光	—	—	—	—	—	—	—	○

オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える (AF/MF)

Fn1/Fn2ボタンに [AF/MF] を登録する (P.184) と、撮影時にFn1/Fn2ボタンを押して、オートフォーカス (AF) とマニュアルフォーカス (MF) を切り替えることができます。Fn1/Fn2ボタンを押すと、撮影設定メニューの [フォーカス] の設定 (P.102) によって以下のように切り替わります。

[フォーカス] 設定	Fn1/Fn2ボタンを押す
マルチAF	MF→マルチAF→MF…
スポットAF	MF→スポットAF→MF…
MF	(マルチAF/スポットAF) * →MF→ (マルチAF/スポットAF) *…

* 最後に設定したAFモード (マルチAF/スポットAF) に切り替わります。

1 セットアップメニューで [Fn1/2ボタン設定] を [AF/MF] に設定する

- 操作方法はP.184を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn1/Fn2 ボタンを押す

- [MF] に切り替わると、画面右上に [MF] マークが表示されます。
- [マルチAF] または [スポットAF] に切り替わると、[MF] マークが消えます。



注意

[フォーカス] の設定が [スナップ] または [∞] の場合 (P.102)、Fn1/Fn2ボタンを押してもAF/MFを切り替えることはできません。



メモ

- マニュアルフォーカスの操作方法は、P.103を参照してください。
- [フォーカス] の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。(P.102)

- Fn1/Fn2ボタンを押してAF/MFを切り替え、フォーカスロックした位置でピントを固定する（AFロック）ことができます。操作手順は以下のとおりです。
 - 1（オートフォーカスの状態で）シャッターボタンを半押しして距離を合わせたいものにピントを合わせます。（フォーカスロック）
 - 2 シャッターボタンから指をはなしてFn1/Fn2ボタンを押します。
 - 3 MFに設定され、フォーカスロックをした位置で撮影距離が固定されます。
 - AFに戻すには、再度Fn1/Fn2ボタンを押してください。

オートフォーカスとスナップを切り替える （AF/スナップ）

Fn1/Fn2ボタンに [AF/スナップ] を登録する（☞P.184）と、撮影時にFn1/Fn2ボタンを押して、オートフォーカス（AF）とスナップを切り替えることができます。Fn1/Fn2ボタンを押すと、撮影設定メニューの [フォーカス] の設定（☞P.102）によって以下のように切り替わります。

[フォーカス] 設定	Fn1/Fn2ボタンを押す
マルチAF	スナップ→マルチAF→スナップ...
スポットAF	スナップ→スポットAF→スナップ...
スナップ	(マルチAF/スポットAF)*→スナップ→(マルチAF/スポットAF)*...

*最後に設定したAFモード（マルチAF/スポットAF）に切り替わります。

1 セットアップメニューで [Fn1/2ボタン設定] を [AF/スナップ] に設定する

- 操作方法はP.184を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn1/Fn2ボタンを押す

- [スナップ] に切り替わると、画面右上にマークが表示されます。
- [マルチAF] または [スポットAF] に切り替わると、マークが消えます。



注意

[フォーカス] の設定が [MF] または [∞] の場合（☞P.102）、Fn1/Fn2ボタンを押してもAF/スナップを切り替えることはできません。

メモ

[フォーカス] の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.102）

露出を固定する (AEロック)

Fn1/Fn2ボタンに [AEロック] を登録する (P.184) と、撮影時にFn1/Fn2ボタンを押して、露出の固定 (AEロック)、解除を切り替えることができます。

1 セットアップメニューで [Fn1/2ボタン設定] を [AEロック] に設定する

- 操作方法はP.184を参照してください。

2 撮影できる状態にする

3 画像モニターの中央に露出を固定したい被写体を合わせ、Fn1/Fn2ボタンを押す

- 露出が固定され、画面にAELマーク、絞り値、シャッタースピードが表示されます。
- もう一度 Fn1/Fn2 ボタンを押すと、AEロックが解除されます。



メモ

- AEロックで撮影した後も、AEロックは保持されます。
- Fn1/Fn2ボタンに [AEロック] を登録しても、マニュアル露光モードではAEロックは働きません。Fn1/Fn2ボタンを押すと、適正露出付近 (露出値インジケータの中央部付近) に近づくよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。

JPEGをRAWに切り替える (JPEG→RAW)

Fn1/Fn2ボタンに [JPEG→RAW] を登録すると (P.184)、[画質・サイズ] でRAW以外を選択している場合 (P.99) に、Fn1/Fn2ボタンを押して以下のように同じ縦横比のRAWに切り替えることができます。もう一度Fn1/Fn2ボタンを押すと、元のJPEGに戻ります。

[画質・サイズ] の設定	Fn1/Fn2ボタンを押す
F4000(12M)/N4000(12M)/ N3264(8M)/N2592(5M)/N2048(3M) /N1280(1M)/N640 (VGA)	RAW(12M)→元の [画質・サイズ] →RAW(12M)...
F3:2(10M)/N3:2(10M)	RAW3:2(10M) →元の [画質・サ イズ] →RAW3:2(10M) ...
F1:1 (9M)/N1:1 (9M)	RAW1:1 (9M) →元の [画質・サイ ズ] →RAW1:1 (9M) ...
RAW(12M)/RAW3:2(10M)/ RAW1:1(9M)	動作しない

1 セットアップメニューで [Fn1/2 ボタン設定] を [JPEG→RAW] に設定する

- ・ 操作方法はP.184を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn1/Fn2ボタンを押す

- ・ 同じ縦横比のRAWに切り替わり、画面に [RAW] がオレンジ色で表示されます。
- ・ もう一度Fn1/Fn2ボタンを押すと、元のJPEGに戻ります。



注意

以下の場合、Fn1/Fn2ボタンを押してもJPEGに切り替えることはできません。

- ・ [画質・サイズ] でRAWを選択している場合 (P.99)
- ・ [連写] で [OFF] 以外を選択している場合 (P.106)
- ・ [オートブラケット] で [OFF] 以外を選択している場合 (P.118)

メモ

- ・ RAWに切り替わっているときに電源をオフにした場合、または [Fn1/2ボタン設定] を変更した場合は、元のJPEGに戻ります。
- ・ RAWモードで撮影する場合の注意事項は、P.100を参照してください。
- ・ JPEGとRAWは、撮影設定メニューでも変更できます。(P.99)

カラーを白黒または白黒(TE)に切り替える (カラー→白黒、カラー→TE)

Fn1/Fn2ボタンに [カラー→白黒] または [カラー→TE] を登録すると (P.184)、[画像設定] を [白黒] または [白黒(TE)] 以外に設定している場合に、Fn1/Fn2ボタンを押して [白黒] または [白黒(TE)] に切り替えることができます。もう一度Fn1/Fn2ボタンを押すと、元のカラーに戻ります。

1 セットアップメニューで [Fn1/2ボタン設定] を [カラー→白黒] または [カラー→TE] に設定する

- 操作方法はP.184を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn1/Fn2ボタンを押す

- [白黒] または [白黒(TE)] に切り替わり、画面にオレンジ色のマークが表示されます。
- もう一度Fn1/Fn2ボタンを押すと、元のカラーに戻ります。



注意-----

[画像設定] を [白黒] または [白黒(TE)] に設定している場合 (P.111、112) は、Fn1/Fn2ボタンを押してもカラーに切り替えることはできません。

メモ-----

- [白黒] または [白黒(TE)] に切り替わっているときに電源をオフにした場合は、元のカラーに戻ります。
- 色の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。(P.111、112)

AEとAFのターゲットを移動する

撮影時にカメラを動かすことなく、AE（自動露出）とAF（オートフォーカス）の両方、またはどちらかのターゲットを移動することができます。機能の内容は、ADJ.レバーでのAE/AFターゲット移動機能と同じです。機能についての詳細は、P.71を参照してください。

1
いろいろな撮影

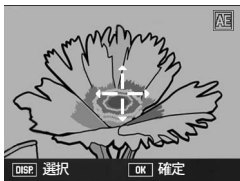
1 セットアップメニューで [Fn1/2ボタン設定] を [ターゲット移動] に設定する

- 操作方法はP.184を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn1/Fn2ボタンを押す

- ターゲット移動画面が表示されます。

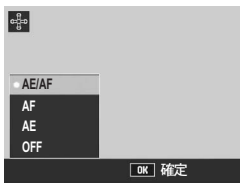
3 ▲▼◀▶ ボタンを押す、またはADJ.レバーを左右にたおして、ターゲットを合わせたい位置に十字を移動する



4 DISP.ボタンを押す

5 ▲▼ ボタンを押して設定を選び、ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す

- 各設定項目の詳細は、P.71を参照してください。
- ターゲット移動画面が再度表示されます。
- [OFF] を選択した場合は、撮影画面に戻ります。



6 ターゲットを合わせたい位置と十字が合っている場合は、MENU/OKボタンを押す

- 十字が合っていない場合は、十字を移動します。

7 シャッターボタンを半押しする

- [AE/AF] を選択している場合は、スポットAEとスポットAFの位置が表示されます。
- [AF] を選択している場合は、スポットAFの位置が表示されます。
- [AE] を選択している場合は、スポットAEの位置とピント合わせの枠が表示されます。

8 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

その他の機能を設定する

Fn1/Fn2ボタンに以下のいずれかを登録すると (P.184)、少ないボタン操作でそれぞれの設定を変更することができます。

露出補正、ホワイトバランス、WB補正、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正、マニュアル発光

1 セットアップメニューで [Fn1/2ボタン設定] を上記いずれかの項目に設定する

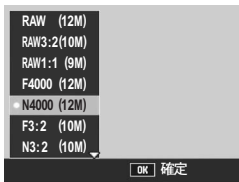
- 操作方法はP.184を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn1/Fn2 ボタンを押す

- それぞれの設定画面が表示されます。

3 ▲▼ ボタンを押して設定を選び、ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す

- [WB補正] の場合は、▲▼◀▶ ボタンを押すか、ADJ.レバーを左右にたおして、ホワイトバランス補正マップのポイントの位置を調整し、MENU/OKボタンを押してください。



メモ

それぞれの機能は、撮影設定メニューでも変更できます。(P.94)

絞り値を設定して撮影する (A：絞り優先モード)

モードダイヤルをA（絞り優先モード）に合わせると、絞り値を手動で設定できます。絞り値を設定すると、カメラが自動的に適正なシャッタースピードを設定して撮影します。

絞り値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかして被写体をハッキリ強調させることができます。絞り値を大きくする（絞りを絞る）と、手前から奥までクッキリと写した奥行きのある画像が撮影できます。

選択できる絞り値は、ズームの位置によって異なります。

広角時の絞り値：2.5～9.1

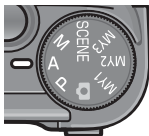
望遠時の絞り値：4.4～15.8



メモ

- 明るすぎる環境での撮影時などは、設定した絞り値によっては露出オーバーとなることがあり、[!AE] マークが表示されます。その場合は、絞り値を大きくする（絞りを絞る）か、[絞り自動シフト] を [ON] に設定してください（P.138）。[絞り自動シフト] を [ON] に設定すると、絞り優先モードのときにカメラが自動的に絞り値を大きくして、適正露出が得られるようにします。
- 絞り動作は、シャッターボタンを押しきったときに行われます。
- 設定した絞り値の変動範囲は最小限に抑えていますが、ズームの位置によっては、絞り値が変動してしまう場合があります。
- 絞り値によっては、設定できないシャッタースピードもあります。

1 モードダイヤルをAに合わせる



- 画像モニターにモードのマークが表示され、画面右端に現在の絞り値がオレンジ色で表示されます。

2 アップダウンダイヤルを回して、絞り値を変更する



3 シャッターボタンを半押しする

- シャッタースピードが決定され、画面に表示されます。

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる



絞り値とシャッタースピードを設定して撮影する (M: マニュアル露光モード)

モードダイヤルをM (マニュアル露光モード) に合わせると、絞り値とシャッタースピードを手動で設定して撮影できます。

シャッタースピードは、以下から選択できます。

1/2000	1/1600	1/1250	1/1000	1/800	1/640
1/500	1/400	1/320	1/250	1/200	1/160
1/125	1/100	1/80	1/60	1/50	1/40
1/30	1/25	1/20	1/15	1/13	1/10
1/8	1/6	1/5	1/4	1/3	1/2.5
1/2	1/1.6	1/1.3	1	2	4
8	15	30	60	120	180



メモ

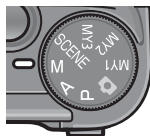
- 絞り値によっては、設定できないシャッタースピードもあります。
- 設定した絞り値の変動範囲は最小限に抑えていますが、ズームの位置によっては、絞り値が変動してしまう場合があります。

シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体が、一瞬止まったように撮影できます。シャッタースピードを遅くすると、動きを流れるように表現でき、動く被写体の軌跡を撮影できます。

絞り値の設定は、アップダウンダイヤルを使います。

シャッタースピードの設定は、ADJ.レバーを使います。

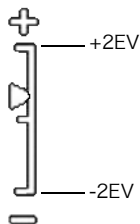
1 モードダイヤルをMに合わせる



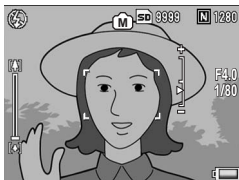
- 画像モニターにモードのマークが表示され、画面右側に現在の絞り値、シャッタースピード、露出値のインジケータが表示されます。



- 露出値が-2EVから+2EVの範囲にあるときは、露出値に応じて画像モニターが変化します。
- 露出値が-2EVから+2EVの範囲を超えると、インジケーターがオレンジ色になり、画像モニターは変化しません。



- 2 アップダウンダイヤルを回して絞り値を変更する
- 3 ADJ.レバーを左右にたおして、シャッタースピードを変更する
- 4 シャッターボタンを半押しする
- 5 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる





メモ

- 露光時間を長くしたいときは、シャッタースピードを遅く設定します。その場合、手ブレを起こすことがあります。カメラを両手でしっかり固定させるか、三脚等を使用して撮影してください。
- シャッタースピードを遅く設定して撮影した場合、撮影中は画像モニターがオフになります。
- マニュアル露光モードでISO感度を[AUTO]または[AUTO-HI]に設定した場合、ISO100に固定されます。(P.135)
- Fn1/Fn2ボタンに[AEロック]を登録しても、マニュアル露光モードではAEロックは動きません。Fn1/Fn2ボタンを押すと、適正露出付近(露出値インジケーターの中央部付近)に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。



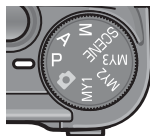
注意

- シャッタースピードを15秒以上に設定した場合、長時間露光に対応したノイズ除去機能が働きます。そのため、画像の記録完了までに、設定したシャッタースピードの約2倍の時間がかかります。この機能は、[ノイズリダクション]の設定に関わらず働きます。
- シャッタースピードを1秒以上に設定した場合は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でシャッタースピードを1秒以上に設定すると、がに切り替わります。

絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して撮影する (P：プログラムシフトモード)

モードダイヤルをP（プログラムシフトモード）に合わせると、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して撮影できます。
プログラムシフトモードでの設定は、アップダウンダイヤルを使います。

1 モードダイヤルをPに合わせる



- 画像モニターにモードのマークが表示されます。



2 シャッターボタンを半押しする

- 画面に現在の絞り値とシャッタースピードの組み合わせが表示されます。

3 シャッターボタンから指を離す



4 アップダウンダイヤルを回して、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更する

- 絞り値とシャッタースピードの組み合わせの表示は、10秒間表示されます。その間にアップダウンダイヤルで値を変更します。



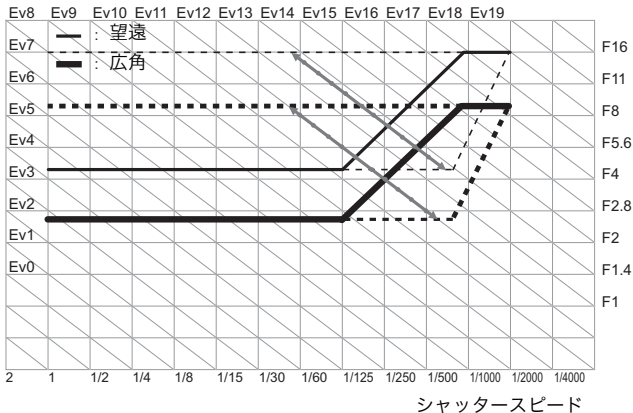
86 5 シャッターボタンを押して撮影する



メモ









プログラム線図は以下のとおりです。


- フラッシュを [発光禁止]、ISO感度を [ISO 100] に設定した場合の例です。
- グレーの部分はシフト可能な範囲の目安です。Ev（露出値）によって変化します。



撮影シーンに合わせて撮影する (SCENE : シーンモード)

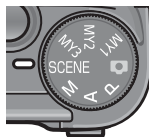
モードダイヤルをSCENEに合わせて、以下のモードを選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

シーンモードの種類	内容
 動画	音声付き動画を撮影します。 詳しい操作手順はP.140で説明しています。
 ポートレート	人物を撮るときに使います。
 スポーツ	動きのあるものを撮るときに使います。
 遠景	緑や青空の多い風景を撮るときに使います。
 夜景	夜景を撮るときに使います。 人物を入れた撮影もできます。 夜景モードでは、以下の条件がそろったときにフラッシュを発光します。 <ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュ設定が [AUTO] のとき ・周囲が暗くフラッシュが必要と判断したとき ・近い距離に人物などの被写体があるとき
 ズームマクロ	ズーム位置を自動的に最適化し、通常のマクロ撮影よりも被写体をより大きく撮影できます。 光学ズームは使用できません。 詳しい操作手順はP.92で説明しています。
 斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。 詳しい操作手順はP.91で説明しています。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> 斜め補正モードでは、[画質・サイズ]は、[N1280]、[N640]から選択できます。(P.99)

シーンモードの種類	内容
 文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録されます。 文字の濃淡を変えることもできます。(P.70) 画像サイズは、4000×3000、2048×1536から選択できます。(P.99)

メモ-----
 シーンモード時の撮影設定メニュー項目については、P.96を参照してください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる



- ・撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。



2 シーンモードを変更したい場合は、MENU/OKボタンを押す

- ・シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ ボタンを押して、シーンモードを選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- ・画像モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する





シーンモードで撮影設定メニューや

セットアップメニューの設定を変更したい場合には -----

撮影モードでMENU/OKボタンを押し、▲ボタンを1回または2回押し
て [MODE] タブを選択します。その後▶ボタンを1回押すと撮影設定
メニュー、2回押すとセットアップメニューが表示されます。各項目の
設定方法は、P.97、P.173を参照してください。

● 通常の撮影モードに戻るには

1 モードダイヤルを📷に合わせる

1

いろいろな撮影

斜め補正モードを使うには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- ・撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MENU/OKボタンを押す

- ・シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、[斜め補正] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- ・処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- ・エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- ・別の補正エリアを選択する場合は、▶ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- ・変換をキャンセルする場合は、▲ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

6 MENU/OKボタンを押す

- ・処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

🚫 注意 -----

[斜め補正] に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- ・被写体がなるべく大きくなるように、被写体の全体が画像モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- ・以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
 - ・ピンぼけの画像
 - ・被写体の4辺がはっきり見えない
 - ・被写体と背景の区別がつきにくい
 - ・背景が複雑な構図
- ・変換前と変換後、2枚の画像が記録されます。記録可能枚数が2枚未満の場合には、撮影できません。

📌 メモ -----

- ・撮影済みの静止画を斜め補正することもできます。(📖P.156)
- ・RAW モード (📖P.99) で撮影した画像は、同時記録された JPEG ファイルが斜め補正されます。DNG ファイルは斜め補正されません。

ズームマクロで撮影するには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- ・撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MENU/OKボタンを押す

- ・シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、[ズームマクロ] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 [⬆] (望遠) ボタンや[⬇] (広角) ボタンを押す

- ・画像モニターに倍率が表示されます。

6 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

7 シャッターボタンを押し切る



メモ

- ・ズームマクロを使用しているときは、次の距離までのマクロ撮影ができます。

約1cm (レンズ先端より)	撮影範囲：約17×13mm (デジタルズーム未使用時)
	撮影範囲：約4.2×3.2mm (デジタルズーム4.0倍時)

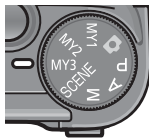
- ・[画質・サイズ] を4000×3000に設定している場合は、[デジタルズーム切替] で [オートリサイズ] を選択すると、オートリサイズズームが有効になります。(P.193)

自分好みの設定で撮影する (MY1/MY2/MY3:マイセッティングモード)

モードダイヤルをMY1/MY2/MY3に合わせると、あらかじめ登録した設定で撮影できます。MY1/MY2/MY3の設定は、セットアップメニューの[マイセッティング登録]で登録します。(P.180)

1 モードダイヤルを MY1/MY2/MY3に合わせる

- MY1に合わせると、[マイセッティング登録]の[MY1]の設定になります。MY2に合わせると[MY2]、MY3に合わせると[MY3]の設定になります。



2 シャッターボタンを押して撮影する

[マイセッティング登録]で登録した撮影モードのマーク



メモ

- マイセッティングモード時に、カメラの設定を変更することができます。モードダイヤルを回すか電源をオフにすると、もとのMY1/MY2/MY3の設定に戻ります。
- マイセッティングモード時に、モードダイヤルを回すことなく撮影モードを切り替えることができます。(P.139)

撮影設定メニューについて

撮影モードでMENU/OKボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、次の項目を設定して撮影することができます。

モードダイヤルがSCENE以外のとき


1

いろいろな撮影

設定項目	選択肢 [購入時の初期設定値]	参照先
画質・サイズ	RAW(12M)、RAW3:2(10M)、RAW1:1(9M)、F4000(12M)、[N4000(12M)]、F3:2(10M)、N3:2(10M)、F1:1(9M)、N1:1(9M)、N3264(8M)、N2592(5M)、N2048(3M)、N1280(1M)、N640(VGA)	P.99
フォーカス	[マルチAF]、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.102
測光	[マルチ]、中央、スポット	P.105
連写	[OFF]、連写、S連写、M連写	P.106
画像設定	自動レベル、硬調、[普通]、軟調、白黒、白黒(TE)、設定1、設定2	P.110
ディストーション補正	ON、[OFF]	P.114
フラッシュ調光補正	-2.0～+2.0	P.115
フラッシュマニュアル発光量	FULL、1/1.4、[1/2]、1/2.8、1/4、1/5.6、1/8、1/11、1/16、1/22、1/32	P.116
フラッシュシンクロ設定	[先幕]、後幕	P.117
オートブラケット	[OFF]、ON ±0.3、ON ±0.5、WB-BKT、CL-BKT	P.118
ノイズリダクション	[OFF]、ISO401以上、ISO801以上、ISO1600、ON	P.122
インターバル撮影	[0秒]、5秒～3時間	P.124
日付入れ撮影	[OFF]、日付、日時	P.126
手ブレ補正	OFF、[ON]	P.127
露出補正 ^(*)	-2.0～+2.0	P.128
ホワイトバランス	[AUTO]、  (屋外)、  (曇天)、  (白熱灯)、  (蛍光灯)、  (手動設定)、  (詳細設定)	P.129
ホワイトバランス補正	_____	P.133

設定項目	選択肢 [購入時の初期設定値]	参照先
ISO感度	[AUTO]、AUTO-HI、ISO 64、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600	P.135
撮影設定初期化 ^(*2)	—————	P.137
絞り自動シフト ^(*3)	ON、[OFF]	P.138
撮影モード切替 ^(*4)	オート撮影モード、プログラムシフトモード、絞り優先モード、マニュアル露光モード	P.139

(*1) モードダイヤルがMのときは、表示されません。

(*2) モードダイヤルが  のときのみ表示されます。

(*3) モードダイヤルがAのときのみ表示されます。

(*4) モードダイヤルが MY1/MY2/MY3 のときのみ表示されます。ただし、[マイセッティング登録] (P.180) でシーンモードを保持した場合は、モードダイヤルをMY1/MY2/MY3に合わせても [撮影モード切替] は表示されません。

モードダイヤルがSCENEのとき

モードダイヤルがSCENEのときは、シーンモードの種類によって表示される項目が異なります。以下を参照してください。

設定項目	動画	ポートレート	スポーツ	遠景	夜景	文字	斜め補正	ズームマクロ	参照先
画質・サイズ	—	○	○	○	○	—	○	○	P.99
文字濃度	—	—	—	—	—	○	—	—	P.70
サイズ	—	—	—	—	—	○	—	—	—
動画・サイズ	○	—	—	—	—	—	—	—	P.99
フレームレート	○	—	—	—	—	—	—	—	P.141
フォーカス	○	○	○	—	○	—	○	○	P.102
測光	—	—	—	—	—	—	○	○	P.105
連写	—	—	—	—	—	—	—	○	P.106
画像設定	—	—	—	—	—	—	○	○	P.110
ディストーション補正	—	○	○	○	○	—	○	○	P.114
フラッシュ調光補正	—	○	○	○	—	—	○	○	P.115
フラッシュマニュアル発光量	—	—	—	—	—	—	—	—	P.116
フラッシュシンクロ設定	—	○	○	—	○	—	○	○	P.117
オートブラケット	—	—	—	—	—	—	—	○	P.118
ノイズリダクション	—	—	—	—	—	—	—	○	P.122
インターバル撮影	—	—	—	—	—	—	—	—	P.124
日付入れ撮影	○	○	○	○	○	○	○	○	P.126
手ブレ補正	—	○	○	○	○	○	○	○	P.127
露出補正	—	○	○	○	○	—	○	○	P.128
ホワイトバランス	○	○	○	○	○	—	○	○	P.129
ホワイトバランス補正	○	—	—	—	—	—	—	—	P.133
ISO感度	—	—	—	—	—	—	○	○	P.135
撮影設定初期化	—	—	—	—	—	—	—	—	P.137

○ 設定可能 — 設定不可



メモ

撮影設定メニューからセットアップメニューを表示することができません。(P.172)

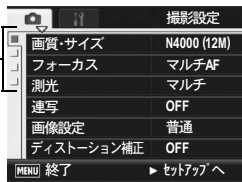
メニューの操作方法

本文中では、メニュー選択確定の操作（以下手順5）は「MENU/OKボタンを押す」と説明していますが、◀ボタンを押しても、設定が確定してメニュー画面に戻ります。

1 撮影モードで MENU/OK ボタンを押す

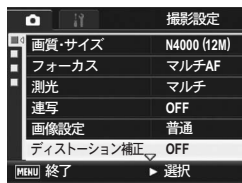
- 撮影設定メニューが表示されます。
- シーンモードの場合は、▲ボタンを1回または2回押して [MODE] タブを選択し、▶ボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。

設定画面が4画面あることを示しています。



2 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- この画面でADJ.レバーまたはDISP.ボタンを押すと、手順1の画面に戻ります。
- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。



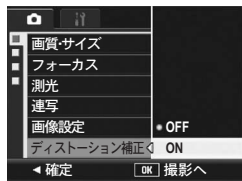
3 ▶ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す

- 設定が確定し、撮影設定メニューが消えて撮影できる状態になります。
- 手順5で◀ボタンを押すと、設定が確定して手順2の画面に戻ります。





画面の切り替え

◀ ボタンを押すと、画面左にあるタブが選択できる状態になります。

(この画面でADJ.レバーまたはDISP.ボタンを押すと、手順1の画面に戻ります。)

- ▲▼ ボタンを押して画面を切り替えます。
- ▶ ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。



画質モード／画像サイズを選ぶ (画質・サイズ)

撮影した静止画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの組み合わせによって決まります。動画の場合は動画サイズを選択します。太枠内は画面に表示されるときにの名称です。

静止画の場合

画像サイズ	画質モード	画質・サイズ	備考
4000×3000	RAW	RAW(12M)	<ul style="list-style-type: none"> パソコンに取り込んで高度な画像補正・編集を行う
3984×2656		RAW3:2(10M)	
2992×2992		RAW1:1(9M)	
4000×3000	F (Fine) N (Normal)	F4000(12M) N4000(12M)	<ul style="list-style-type: none"> 大きくプリントする パソコンに取り込んでトリミングなどの加工を行う
3984×2656	F (Fine) N (Normal)	F3:2(10M) N3:2(10M)	
2992×2992	F (Fine) N (Normal)	F1:1(9M) N1:1(9M)	
3264×2448	N (Normal)	N3264(8M)	<ul style="list-style-type: none"> プリントする
2592×1944	N (Normal)	N2592(5M)	
2048×1536	N (Normal)	N2048(3M)	
1280×960	N (Normal)	N1280(1M)	<ul style="list-style-type: none"> 枚数を多く撮る
640×480	N (Normal)	N640(VGA)	

- シーンモードの [斜め補正] の場合は、1280×960、640×480から選択できます。
- シーンモードの [文字] の場合は、4000×3000、2048×1536から選択できます。
- [RAW3:2]、[F3:2]、[N3:2] に設定すると、撮影範囲に合わせて、画像モニターの上下に黒い帯部分が付加されます。
- [RAW1:1]、[F1:1]、[N1:1] に設定すると、撮影範囲に合わせて、画像モニターの左右に黒い帯部分が付加されます。

動画の場合

画像サイズ	動画サイズ
640×480	640
320×240	320

- 動画の場合、さらにフレーム数を選択することができます。
(P.141)



メモ

- 内蔵メモリー／SDメモリーカードに記録できる枚数は、[画質・サイズ]によって異なります。(P.238)
- 画質モードはNormalモード (N)、Fineモード (F)、RAWモードの3種類があります。

Normalモード： 画像の圧縮率は高くファイルサイズは小さくなります。通常はこのモードで撮影します。

Fineモード： 画像の圧縮率は低くファイルサイズは大きくなります。Normalモードより高画質です。

RAWモード： 撮影したままの生データがRAW形式ファイル(.DNGファイル)として保存されます。同時にJPEG形式のファイルも記録されます。撮影時の高品質を保ったまま、画像処理ソフト等で好みの画像に加工することができます。



RAWモードで撮影する

通常、撮影した画像はカメラ内で画像処理され、圧縮してファイルサイズの小さいJPEG形式で保存されます。

RAWモードで撮影した場合は、カメラ内で画像処理が行われません。RAWモードで撮影したときに作成されるDNGファイルには、カメラのセンサーから取り込んだ生データが保存されます。DNGファイルとは、RAW画像ファイル形式の1つで、アドビシステムズ社が提唱する標準ファイル形式です。このオリジナルに近いデータを、DNGファイル形式に対応した画像ソフトを使用して、パソコンで加工することができます。Windowsをご使用の場合は、付属のIrodio Photo & Video StudioでDNGファイルの簡単な加工が可能です。Macintoshをご使用の場合は、Irodio Photo & Video Studioを使用することができません。DNGファイルを加工できる市販のソフトウェアをご使用ください。

RAWモードで撮影する場合は、以下の点にご注意ください。

- RAWモードでは、一部の撮影機能が使用できません。各機能の制約事項をご確認ください。
- [日付入れ撮影]を設定した場合、DNGファイルに日付は入りません。同時記録されるJPEGファイルには、日付が入ります。
- RAWモードで撮影すると、撮影メニューで設定した[画像設定]は、同時記録されるJPEGファイルにのみ反映されます。
- RAWモード時に同時記録されるJPEGファイルは、セットアップメニューの[RAW同時記録設定]で、画質・サイズを変更することができます。(P.201)

1 撮影設定メニューを表示する

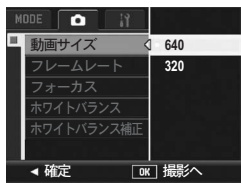
- 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して [画質・サイズ] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



静止画の場合



動画の場合

4 MENU/OKボタンを押す




- 画面に設定値が表示されます。

ピント合わせの方式を変える（フォーカス）

ピント合わせの方式を初期設定のまま撮影すると、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行われます。

ピント合わせ（フォーカス）の方式には、次の5種類があります。

選択できるピント合わせの方式

マーク	方式	内容
なし	マルチAF	9箇所のAFエリアから測距し、最も近い位置にピントを合わせます。中抜けを防止し、ピンボケの少ない撮影ができます。
なし	スポットAF	このAFエリアを画像モニター中央の1箇所に固定し、ピントを合わせます。
	MF（マニュアルフォーカス）	手動でピントを合わせるときに使います。
	スナップ	近距離（約2.5m）にピントを固定します。
	∞（無限遠）	無限遠にピントを固定します。 無限遠は、遠くの風景などを撮影するときに使います。

1 撮影設定メニューを表示する

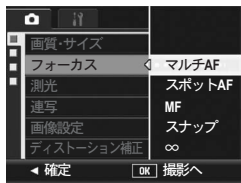
- ・ 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して【フォーカス】を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- ・ [MF]、[スナップ]、[∞] を選択した場合は、画面にマークが表示されます。



メモ

- ・ [Fn1/2ボタン設定] で [AF/MF] を設定する (P.184) と、Fn1/Fn2 ボタンでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます (P.73)。
- ・ [Fn1/2 ボタン設定] で [AF/スナップ] を設定する (P.184) と、Fn1/Fn2ボタンでオートフォーカスとスナップを切り替えることができます (P.73)。

手動でピントを合わせて撮影する (MF)

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます (MF: マニュアルフォーカス)。マニュアルフォーカスでは、撮影距離を固定して撮影することができます。



メモ

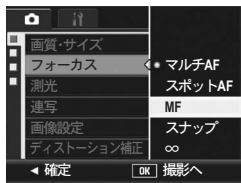
- ・シーンモードでは、[ズームマクロ]、[斜め補正] のときマニュアルフォーカスが使用できません。
- ・マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。
- ・[Fn1/2ボタン設定] で [AF/MF] を設定する (P.184) と、Fn1/Fn2 ボタンでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます (P.73)。

1 撮影設定メニューを表示する

- ・操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して [フォーカス] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[MF] を選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

- ・画面に [MF] とフォーカスバーが表示されます。
- ・フォーカスバーに表示される距離は、あくまでも目安です。



5 必要に応じて、MENU/OKボタンを長押しする

- MENU/OKボタンを長押しすると、画面中央部のみ拡大表示されます。
- 再度 MENU/OK ボタンを長押しすると、拡大表示から通常表示に戻ります。



6 ▲▼ボタンを押してピントを合わせる

- ▲ボタンを押すと遠距離方向に移動します。
- ▼ボタンを押すと近距離方向に移動します。



7 シャッターボタンを押して撮影する

測光モードを変える（測光）

露出値を決めるときの測光モード（どの範囲で測光するか）を変更することができます。

測光モードには、次の3種類があります。

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
(マーク表示なし)	マルチ	撮影範囲全体を256に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
	中央	中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。 中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
	スポット	中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。 逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

1

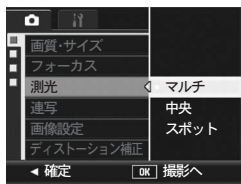
いろいろな撮影

1 撮影設定メニューを表示する

- ・操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して[測光]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

- ・[中央]、[スポット]を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

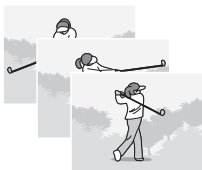


連写で撮る（連写/S連写/M連写）

連写に設定すると、連続撮影ができます。
連写には次の3種類があります。

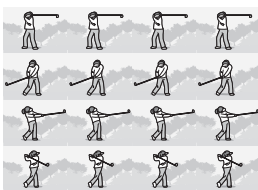
連写

シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。
静止画は通常の撮影時と同じように、1枚ずつ記録します。



S（ストリーム）連写

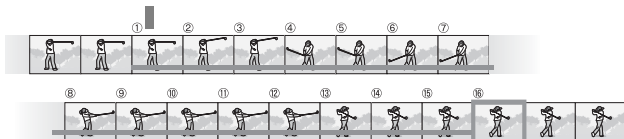
シャッターボタンを押しきった瞬間から撮影間隔1/7.5秒で16枚（約2秒間）連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル（4000×3000ピクセル）として記録します。



M（メモリー逆戻り）連写

シャッターボタンを離れた瞬間からさかのぼった約2秒を連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル（4000×3000ピクセル）として記録します。

②約2秒間さかのぼって記録



①ここでシャッターを離すと・・・

- 1 撮影設定メニューを表示する
 - ・操作手順は、P.97を参照してください
- 2 ▼ボタンを押して[連写]を選び、▶ボタンを押す
- 3 ▲▼ボタンを押して、[連写]、[S連写]、[M連写]のいずれかを選ぶ
- 4 MENU/OKボタンを押す
 - ・画面にマークが表示されます。



📷 連写のとき

- 5 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする
 - ・シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。
- 6 シャッターボタンを離して連写を終了する
 - ・連写で撮影した静止画を再生するには、再生モードにして(☞P.51)、◀▶ボタンで再生したい静止画を選択します。

📷 S 連写のとき

- 5 構図を決めて、シャッターボタンを押す
 - ・自動的に16枚連続して撮影されます。

📷 M 連写のとき

- 5 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする
 - ・カメラが被写体を記憶(メモリー)します。
- 6 シャッターボタンを離す
 - ・連写が終了し、直前の約2秒間(16枚)を1枚の静止画として記録します。



注意

- ・[画質・サイズ]がRAWモードのときは、S連写/M連写は使用できません。通常の連写は5枚まで可能です。
- ・S連写/M連写のときは、セットアップメニューの[デジタルズーム切替]を[オートリサイズ]に設定していても、デジタルズームが有効になります。
- ・シーンモードでは、[ズームマクロ]のときのみ連写を設定できます。
- ・内蔵メモリ使用時は、記録完了までに時間がかかる場合があります。
- ・最大連続撮影可能枚数は、999枚です。残容量が1000枚以上ある場合でも、画像モニターには999と表示されます。



メモ

- 通常の1枚ごとの撮影に戻したいときには、手順3で [OFF] を選択してMENU/OKボタンを押します。
- M連写では、シャッターボタンを押しはじめてから、2秒以内にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが撮影記録され、連続撮影枚数は16枚より少なくなります。
- フラッシュは、発光禁止になります。
- 連写を設定すると、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で連写を設定すると、 が に切り替わります。(P.127)
- 連写時は、フォーカスと露出値が固定されます。
- [カード連続NO.] を [ON] に設定している場合 (P.202)、連写撮影中にファイル番号の下4桁が「9999」を超えると、SDメモリーカード内に別フォルダが作成されて連写が継続されます。
- S 連写 / M 連写のときは、ISO 感度を [ISO 64]、[ISO 100]、[ISO 200] に設定しても [AUTO] になります。
- 連写を使って撮影するときの連続記録可能枚数は、画像サイズにより異なります。
- 内蔵メモリーを使用した場合の連続記録可能枚数は、下記の表のとおりです。

[画質・サイズ]	[RAW同時記録設定]	連続記録可能枚数
RAW(12M)	FINE	2枚
	NORMAL	2枚
	N640	3枚
RAW3:2(10M)	FINE	2枚
	NORMAL	3枚
	N640	3枚
RAW1:1(9M)	FINE	3枚
	NORMAL	3枚
	N640	4枚
F4000(12M)、N4000(12M)、 F3:2(10M)、N3:2(10M)、F1:1(9M)、 N1:1(9M)、N3264(8M)、N2592(5M)、 N2048(3M)	-	8枚
N1280(1M)、N640(VGA)	-	20枚

S連写/M連写した静止画を拡大して見る

S連写、M連写で撮影した静止画（16枚1組になった画像ファイル）を表示している際、16枚の中の1枚（コマ）を拡大表示することができます。拡大表示後は、1コマずつコマ送りすることもできます。

S連写、M連写で撮影した1コマを拡大表示して見るには、次のように操作します。

1 □（再生）ボタンを押す

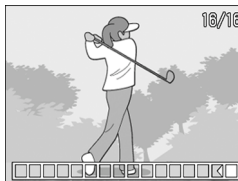
- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ▲▼◀▶ ボタンを使ってS連写またはM連写で撮影した静止画を表示する



3 Q（拡大表示）ボタンを押す

- 連写した先頭の1コマが拡大表示されます。画像モニターの下部にはコマ位置を示すバーが表示されます。
- ◀▶ ボタンを押すと、コマを移動することができます。16枚の表示に戻すには、MENU/OKボタンを押します。



メモ

- DISP.ボタンを押すたびに、画像モニター下部のバーの表示、グリッドガイド表示、表示なしを切り替えることができます。（参照P.60）
- 通常の静止画を拡大表示した状態でADJ.レバーを左右にたおし、前の画像/次の画像を表示する場合、S連写/M連写の画像を表示すると等倍に戻ります。

画質と色を設定する（画像設定）

コントラスト、シャープネス、色、色の濃さなど画像の画質を変更できます。

画質は、以下の8種類から選択できます。

選択できる画像設定の種類

種類	内容
自動レベル	明暗差のある画像でも、白飛びや黒つぶれを低減して適切な明るさになるように、カメラが自動的に階調を補正して記録します。
硬調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを高めにすることによって、硬い感じの画質にします。
普通	通常の画質です。
軟調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを低めにすることによって、軟らかい感じの画質にします。
白黒	白黒の画像です。[コントラスト]、[シャープネス]をそれぞれ5段階から選択できます。(P.111)
白黒(TE)*	白黒画像に色味をつけることができます。[調色]、[色の濃さ]、[コントラスト]、[シャープネス]をそれぞれ5段階から選択できます。[調色]は、[セピア]、[アカ]、[ミドリ]、[アオ]、[ムラサキ]から選択できます。(P.112)
設定1	[コントラスト]、[シャープネス]、[色の濃さ]を5段階から
設定2	選択できます。(P.113)

* Toning effect

1 撮影設定メニューを表示する

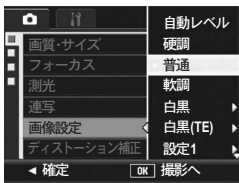
- 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して[画像設定]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、画質を選ぶ

- [白黒]、[白黒(TE)]、[設定1]、[設定2]の場合は、値を設定します。(P.111、112、113)

すでに値を設定している場合は、[白黒]、[白黒(TE)]、[設定1]、[設定2]のいずれかを選択するだけで、画質が設定できます。



4 MENU/OKボタンを押す

- [普通]以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。



メモ

[自動レベル]では、露出補正の効果が得られにくい場合や、[画像設定]の他の設定に対して色合いが部分的に異なる場合があります。



白黒の画質を設定する（白黒）

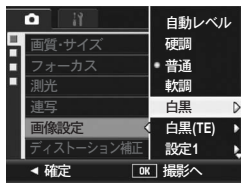
1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して [画像設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[白黒] を選び、▶ボタンを押す

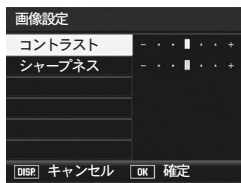
- [画像設定] 画面が表示されます。



4 ▲▼ボタンを押して、[コントラスト]、[シャープネス] を選び、◀▶ボタンを押して値を設定する

5 MENU/OKボタンを押す

- [白黒] の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。



6 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



メモ

[ファンクション1/2ボタン設定] で [カラー→白黒] を設定する (P.184) と、Fn1/Fn2ボタンでカラーと白黒を切り替えることができます。(P.73)

白黒画像に色味をつける（白黒(TE)）

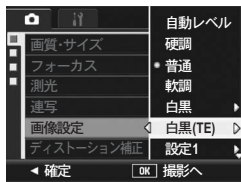
1 撮影設定メニューを表示する

・ 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して [画像設定] を選び、▶ボタンを押す

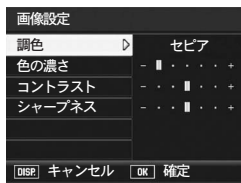
3 ▲▼ボタンを押して、[白黒(TE)] を選び、▶ボタンを押す

・ [画像設定] 画面が表示されます。



4 ▲▼ボタンを押して [調色] を選び、▶ボタンを押す

5 ▲▼ボタンを押して [セピア]、[アカ]、[ミドリ]、[アオ]、[ムラサキ]から色味を選び、MENU/OKボタンまたは◀ボタンを押す



6 ▲▼ボタンを押して、[色の濃さ]、[コントラスト]、[シャープネス] を選び、◀▶ボタンを押して値を設定する

7 MENU/OKボタンを押す

・ [白黒(TE)] の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。

8 MENU/OKボタンを押す

・ 画面にマークが表示されます。



メモ

[Fn1/2ボタン設定] で [カラー→TE] を設定する (P.184) と、Fn1/Fn2ボタンでカラーと白黒(TE)を切り替えることができます。(P.73)

オリジナルの画質を設定する（設定1、2）

1 撮影設定メニューを表示する

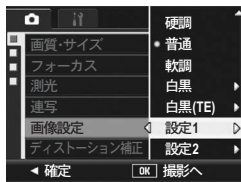
- ・ 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して「画像設定」を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、「設定1」または「設定2」を選ぶ

4 ▶ボタンを押す

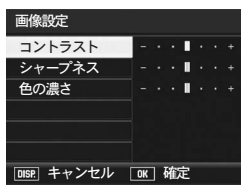
- ・ 「画像設定」画面が表示されます。



5 ▲▼ボタンを押して、「コントラスト」、「シャープネス」、「色の濃さ」を選び、◀▶ボタンを押してそれぞれの値を設定する

6 MENU/OKボタンを押す

- ・ 「設定1」または「設定2」の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。



7 MENU/OKボタンを押す

- ・ 画面にマークが表示されます。



撮影時に画像のゆがみを補正する (ディストーション補正)

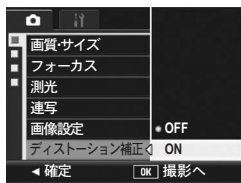
[ディストーション補正] を [ON] に設定すると、撮影時に画像のゆがみを自動的に補正して撮影することができます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して [ディストーション補正] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[ON] を選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



注意

- [画質・サイズ] がRAWモードのときは、DNGファイル、JPEGファイルともにディストーション補正することはできません。
- S連写、M連写、動画を撮影するときは、ディストーション補正することはできません。
- [ディストーション補正] を [ON] に設定すると、画角が変わります。
- ズーム位置などによっては、ディストーション補正が不要な場合があります。その場合は、[ディストーション補正]を[ON]に設定しても、補正は行いません。ただし、ディストーション補正を行わなかった場合でも、再生画像にはディストーション補正のマークが表示されません。
- [ディストーション補正] を [ON] に設定しても、画像モニターの表示に補正結果は反映されません。

フラッシュの光量を調整する (フラッシュ調光補正)

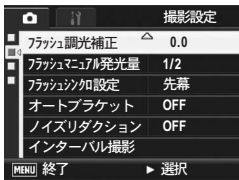
内蔵フラッシュの光量を調整することができます。光量は、-2.0EV
～+2.0EVの間で、1/3EV間隔で設定できます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して[フラッシュ調光補正]を選び、▶ボタンを押す

- フラッシュ調光補正バーが表示されます。

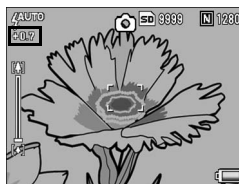


3 ▲▼ボタンを押して、値を設定する



4 MENU/OKボタンを押す

- フラッシュモードを[発光禁止]、[マニュアル発光]以外に設定している場合に、画面に設定値が表示されます。



メモ

- フラッシュモードが[マニュアル発光]の場合は、[フラッシュマニュアル発光量]の設定値(☞P.116)が有効となり、[フラッシュ調光補正]の設定値は無効になります。
- フラッシュを使用して撮影する場合の操作方法は、P.47を参照してください。

注意

フラッシュの撮影距離範囲外(☞P.47)では補正されない場合があります。

マニュアル発光モードのときの発光量を設定する（フラッシュマニュアル発光量）

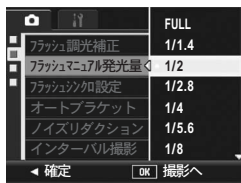
フラッシュモードを [マニュアル発光] に設定した場合（P.47）の、内蔵フラッシュ発光量を設定します。発光量は、最大発光量に対して、FULL、1/1.4、1/2、1/2.8、1/4、1/5.6、1/8、1/11、1/16、1/22、1/32から設定できます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

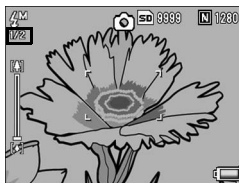
2 ▼ボタンを押して [フラッシュマニュアル発光量] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

- フラッシュモードを [マニュアル発光] に設定している場合に、画面に設定値が表示されます。



メモ

- [フラッシュマニュアル発光量] で設定した値は、フラッシュモードを [マニュアル発光] に設定しているときのみ有効です。（P.47）
- フラッシュモードが [マニュアル発光] の場合は、[フラッシュマニュアル発光量] の設定値が有効となり、[フラッシュ調光補正] の設定値は無効になります。
- [フラッシュマニュアル発光量] の設定値と実際の発光量は多少異なる場合があります。

注意

フラッシュモードが [マニュアル発光] の場合、発光量は自動的に調整されません。目の近くでフラッシュを発光したり（特に乳幼児）、運転者などに向かってフラッシュを発光したりしないでください。

フラッシュ発光のタイミングを設定する (フラッシュシンクロ設定)

フラッシュが発光するタイミングを、以下の2種類から選択できます。ご購入時は、[先幕] に設定されています。

設定	内容
先幕	露光開始直後にフラッシュが発光します。通常の撮影ではこちらを選択してください。
後幕	露光終了直前にフラッシュが発光します。先に通常光部分を露光し、露光が終わる直前のタイミングで発光するため、動いている被写体を低速のシャッタースピードで撮影するときなどに、光跡や被写体の軌跡をより自然に表現することができます。

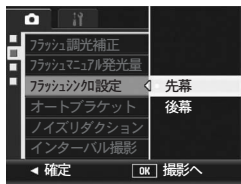
1 撮影設定メニューを表示する

- ・ 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して、[フラッシュシンクロ設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



メモ

フラッシュを使用して撮影する場合の操作方法は、P.47を参照してください。

露出を変化させて連続撮影する (オートブラケット)

オートブラケットは、設定されている露出を基準に3段階の露出で、自動的に3枚連続して撮影する機能です。露出差は「-0.3EV、±0、+0.3EV」と「-0.5EV、±0、+0.5EV」の2種類から選ぶことができます。

1 撮影設定メニューを表示する

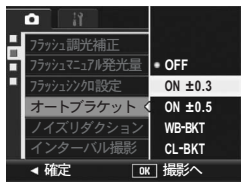
- ・操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して【オートブラケット】を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[ON ± 0.3] または [ON ± 0.5] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- ・画面にマークが表示されます。



5 シャッターボタンを押して撮影する

- ・右は [ON ± 0.3] を選択したときの画面です。
設定されている露出補正值を基準に、±0、-0.3EV、+0.3EVで3枚連続撮影されます。
撮影直後に画像モニターに表示される3枚の静止画は、左から-0.3EV（暗い）、基準の補正值、+0.3EV（明るい）です。



メモ

- ・露出補正值は、撮影設定メニューで変更できます。(P.128)
- ・連写を設定している場合は使用できません。
- ・フラッシュは発光禁止になります。
- ・オートブラケットでは、露出補正以外にホワイトバランスまたは色を変更して撮影することもできます。選択できるのは、ひとつだけです。

ホワイトバランスを変化させて連続撮影する (WB-BKT : ホワイトバランスブラケット)

設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の3枚が自動的に記録されます。

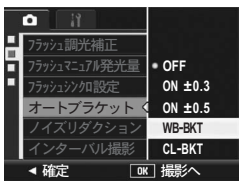
適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

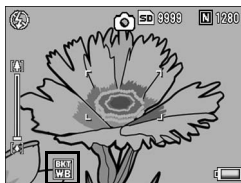
2 ▼ボタンを押して [オートブラケット] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[WB-BKT] を選ぶ



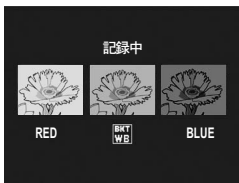
4 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



5 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で3枚記録されます。





メモ

- [画質・サイズ] がRAWモードのときは、使用できません。
- 連写を設定している場合は使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- [画像設定] を [白黒] に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは、設定することはできませんが動作しません。
- ホワイトバランスは、撮影設定メニューで変更できます。(P.129)

1

色を変えて連続撮影する (CL-BKT : カラーブラケット)

いろいろな撮影

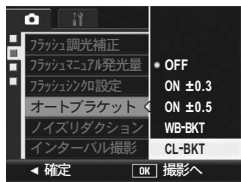
[CL-BKT] を選択して静止画を撮影すると、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚、または白黒、カラーの2枚の画像を自動的に記録します。あらかじめセットアップメニューの [CL-BKT 白黒(TE)] で、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録するか、白黒、カラーの2枚の画像を記録するかを設定しておきます (P.200)。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

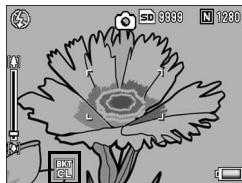
2 ▼ボタンを押して [オートブラケット] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[CL-BKT] を選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



5 シャッターボタンを押して撮影する

- [CL-BKT 白黒(TE)] を [ON] に設定している場合 (P.200) は、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録します。



- [CL-BKT 白黒(TE)] を [OFF] に設定している場合 (P.200) は、白黒、カラーの2枚の画像を記録します。

※ 撮影設定メニューの [画像設定] で [白黒(TE)] を選択しているときは、[CL-BKT 白黒(TE)] を [OFF] に設定していても、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録します。



メモ

- [画質・サイズ] がRAWモードのときは、使用できません。
- 連写を設定している場合は使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、色の濃さについて

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、色の濃さについては、[画像設定] の設定値が以下のとおり反映されます。

- カラーブラケット撮影の白黒画像：
[画像設定] の [白黒] の設定値が反映されます。
- カラーブラケットの白黒 (TE) 画像：
[画像設定] の [白黒TE] の設定値が反映されます。
- カラーブラケットのカラー画像：
[画像設定] で選択している項目の設定値が反映されます。ただし、[画像設定] で [白黒] または [白黒TE] を選択している場合、[画像設定] の [普通] の設定値が反映されます。

ノイズを軽減する（ノイズリダクション）

静止画の撮影時に、ノイズ軽減を優先した画像処理を行います。

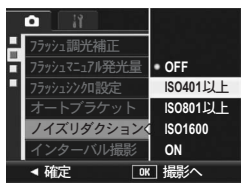
設定	内容
OFF	ノイズ軽減を優先した画像処理は行いません。
ISO401以上	ISO感度が401以上の場合に、ノイズ軽減を優先した画像処理を行います。
ISO801以上	ISO感度が801以上の場合に、ノイズ軽減を優先した画像処理を行います。
ISO1600	ISO感度が1600の場合に、ノイズ軽減を優先した画像処理を行います。
ON	ISO感度の値にかかわらず、ノイズ軽減を優先した画像処理を行います。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して【ノイズリダクション】を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。





メモ

- [ノイズリダクション] を設定すると、ノイズ軽減を優先した画像処理を行うため、被写体によっては解像感が落ちる場合があります。
- シーンモードでは、[ズームマクロ] のときのみノイズリダクションを使用できます。
- [画質・サイズ] をRAWモードに設定して撮影した場合、DNGファイルに対してはノイズ軽減処理を行いません。DNGファイルと同時記録されるJPEGファイルに対してのみ、ノイズ軽減処理を行います。
- [ノイズリダクション]を[OFF]以外に設定していても、ISO感度の値によりノイズリダクションが働かない場合は、画面にノイズリダクションのマークは表示されません。また、ノイズリダクションが働かなかった場合は、再生画像にノイズリダクションのマークは表示されません。

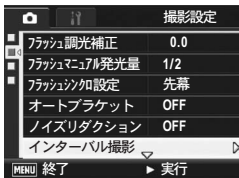
一定間隔で自動撮影する (インターバル撮影)

設定した時間間隔で、自動的に撮影することができます。
撮影間隔は、5秒～3時間の間で5秒単位で設定できます。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して[インターバル撮影]を選び、▶ボタンを押す



3 ▲▼ボタンを押して時間を設定する

4 ▶ボタンを押して分の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、分を設定する

- ▲▼ボタンを押し続けると、高速で分の数値を増減させることができます。

5 ▶ボタンを押して秒の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、秒を設定する

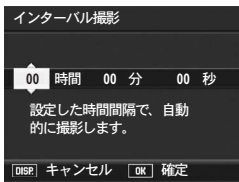
6 MENU/OKボタンを押す

- 画面に「インターバル」と表示されます。

7 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定した間隔で、次々に撮影されます。

8 撮影を中止するときは、MENU/OKボタンを押す



⚠ 注意

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなる場合があります。その場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。
- シーンモードでは、インターバル撮影はできません。

📌 メモ

- 電池残量によっては、途中で電池切れになることがあります。十分に残量のある電池またはACアダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。ただし、インターバル撮影モードはそのまま保持されます。最後の撮影の後、インターバル撮影で設定した時間が経過すると次の撮影が行われます。
- インターバル撮影を設定すると、連写が [連写] または [M連写] に設定されていても、自動的に [OFF] に切り替わります。
- 十分に空き容量のあるSDメモリーカードまたは高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

静止画に日付を入れるには（日付入れ撮影）

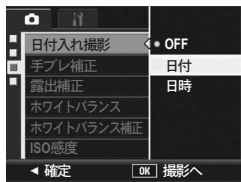
静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日時：分）を入れることができます。

1 撮影設定メニューを表示する

• 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して、[日付入れ撮影]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[日付]または[日時]を選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

• 画面にマークが表示されます。



メモ

- 日付・時刻が設定されていないと [日付入れ撮影] はできません。まず、日付・時刻を設定してください。(P.204)
- 動画に日付を入れることはできません。
- RAWモードで撮影した場合、DNGファイルに日付を入れることはできません。DNGファイルと同時記録されるJPEGファイルには、日付が入ります。
- 画像に入れた日付を削除することはできません。

手ブレ補正機能で手ブレを防ぐ (手ブレ補正)

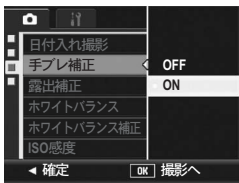
[手ブレ補正] をONに設定すると、手ブレが起きにくくなります。ご購入時は、[ON] に設定されています。

1 撮影設定メニューを表示する

- 操作手順は、P.97を参照してください

2 ▼ボタンを押して、[手ブレ補正] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[ON] を選ぶ







4 MENU/OKボタンを押す


- 画面にマークが表示されます。



注意

- 連写、またはマニュアル露光モードでシャッタースピードを1秒以上に設定した場合は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態で連写を設定した場合、またはマニュアル露光モードでシャッタースピードを1秒以上にした場合、がに切り替わります。
- 動画モード時は、手ブレ補正機能は使えません。シーンモードから [動画] を選ぶと、の表示が消えます。
- 被写体ブレ (被写体が風などで揺れてぶれる) は、手ブレ補正機能で防ぐことはできません。
- 手ブレ補正機能は、ご使用の環境により効果が変化します。

メモ

手ブレがしやすい状態だとマークが表示されます。(P.40)

露出を変える（露出補正）

静止画の写りを全体的に明るくしたり、暗くしたりするのが露出の設定です。通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。

次のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときは、露出を変更して撮影することができます。露出は、 $-2.0EV \sim +2.0EV$ の間で設定できます。露出は、+になるほど明るくなり、-になるほど暗くなります。

逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）になってしまうことがありますので、+側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合

全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、+側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合

全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、-側に調整します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。(P.68) 撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」(P.97)を参照して操作してください。

1 撮影モードでADJ.レバーを押す

2 露出補正バーが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。



注意






- マニュアル露光モードでは使用できません。
- 明るすぎる環境での撮影時などでは、露出オーバーとなり露出補正もできないことがあります。その場合は、[IAE]のマークが表示されます。

自然光や照明光を使う（ホワイトバランス）

白い被写体が白く写るように調整を行います。

購入時、ホワイトバランスモードは「オート」（自動）に設定されています。通常は変更の必要はありませんが、単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合にくい場合には、設定を変更します。

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
AUTO	オート	自動的に調整します。
	屋外	屋外（晴天）での撮影時
	曇天	曇天や日影等での撮影時
	白熱灯	白熱灯の下での撮影時
	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時
	手動設定	手動設定を行います。☞P.131
	詳細設定	白熱灯－晴天－曇天の付近を含む16段階から、設定値を選択できます。☞P.132

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。（☞P.68）
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.97）を参照して操作してください。

- 1 撮影モードでADJ.レバーを押す
- 2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す
- 3 ▲▼ボタンを押して、[M]、[CT] 以外の設定を選ぶ
 - ・この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



注意

[画像設定] を [白黒] または [白黒TE] に設定している場合、またはシーンモードの [文字] の場合は使用できません。



メモ

- [ホワイトバランス] で設定したホワイトバランスモードの色調を補正することができます (P.133)。また、撮影後に色調を補正することもできます (P.161)
- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、[AUTO] 以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、[AUTO] を選択してフラッシュ撮影をしてください。

ホワイトバランスを手動設定する（手動設定）

- 1 撮影モードでADJ.レバーを押す
- 2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す
- 3 ▲▼ボタンを押して、[M]を選ぶ
- 4 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける
- 5 DISP.ボタンを押す
 - ・ ホワイトバランスが設定されます。
- 6 MENU/OKボタンを押す
 - ・ 画面にマークが表示されます。
 - ・ 手順5で設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。



メモ

手動設定を解除するには、上記の手順3で [M] 以外を選択します。

ホワイトバランスを詳細設定する（詳細設定）

- 1 撮影モードでADJ.レバーを押す
- 2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す

- 3 ▲▼ボタンを押して、[CT] を選び、DISP.ボタンを押す

- ホワイトバランスの詳細設定画面が表示されます。



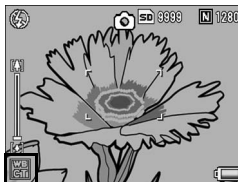
- 4 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

- 5 MENU/OKボタンを押す



- 6 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



メモ

手動設定を解除するには、上記の手順3で [CT] 以外を選択します。

ホワイトバランスモードの色調を補正する (ホワイトバランス補正)

[ホワイトバランス] (P.129) で設定しているホワイトバランスモードの色調を、グリーン、マゼンタ、ブルー、アンバーそれぞれの色合いに補正することができます。補正の値は、その後ホワイトバランスモードを変更しても、変更後のホワイトバランスモードに対して同じ値で適用されます。

1 撮影設定メニューを表示する

- ・ 操作手順は、P.97を参照してください

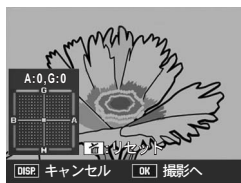
2 ▼ボタンを押して[ホワイトバランス補正]を選び、▶ボタンを押す

- ・ [ホワイトバランス補正] 画面になり、左下にホワイトバランス補正マップが表示されます。



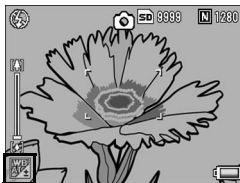
3 ▲▼◀▶ボタンを押す、またはADJ.レバーを左右にたおして、ホワイトバランス補正マップのポイントの位置を調整し、色調を補正する

- ・ ▲▼◀▶ ボタンを押すと、ホワイトバランス補正マップのポイントが移動します。[G] はグリーン、[A] はアンバー、[M] はマゼンタ、[B] はブルーを示し、ポイントの動きに合わせて、それぞれの色合いの色調に補正されます。
- ・ 補正の値がホワイトバランスマップの上に表示されます。
- ・ ホワイトバランス補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。
- ・ 補正中の色調をリセットしたい場合は、リセットボタンを押します。
- ・ この画面でシャッターボタンを押しても、補正中のホワイトバランスで撮影することができます。



4 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。



注意

- ADJ. レバーでホワイトバランス補正を行う場合は、設定画面で [WB補正] を選び、MENU/OKボタンを押すと、ホワイトバランス補正マップが表示されます。設定画面で [リセット] を選んでMENU/OKボタンを押すと、補正值がリセットされます。



- [画像設定] を [白黒] または [白黒TE] に設定している場合は使用できません。
- シーンモードでは、[動画] のときのみ使用できます。
- 被写体によっては、補正効果が得られにくい場合があります。
- 再生モードの [ホワイトバランス補正] とは補正值が異なります。
(P.161)

メモ

- 撮影した静止画の色調を、後から補正することもできます。
(P.161)

撮影感度を設定する (ISO感度)

ISO感度は、フィルムの光に対する敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。

ISO感度は、次の設定から選択できます。

AUTO、AUTO-HI、ISO 64、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600

ISO感度が [AUTO] の場合には、距離/明るさ/マクロ/画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。通常は、[AUTO] のままで撮影します。

[AUTO-HI] (高感度設定オート) も、撮影の状況に合わせて感度が自動的に設定されますが、[AUTO] よりも感度の上限を高く設定できます。また、暗い被写体等を撮影した場合、シャッタースピードが [AUTO] より速くなるので、手ブレや被写体ブレが起こりにくくなります。[AUTO-HI] のISO感度の上限は、セットアップメニューで設定します。(P.183)

ISO感度の値を変化させたくない場合は、[AUTO]、[AUTO-HI] 以外を選択します。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。(P.68)
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」(P.97)を参照して操作してください。

- 1 撮影モードでADJ.レバーを押す
- 2 ISO感度のメニューが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す
- 3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ
- 4 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す
 - ・画面に設定値が表示されます。





メモ

- ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。
- ISO感度の値によって、ノイズ軽減処理を行うことができます。
(参照P.122)
- [AUTO] に設定した場合のISO感度の範囲は下表のとおりです。
フラッシュを使用しない場合

画素数	定常感度	最小感度	最大感度
640	64	64	283
1280	64	64	238
2048	64	64	176
2592	64	64	154
3264	64	64	154
4000	64	64	154

フラッシュを使用する場合

ズーム	定常感度	最小感度	最大感度
広角	100	100	400
望遠	238	100	400

- ISO感度を [AUTO] または [AUTO-HI] に設定している場合、シャッターボタン半押し時にISO感度が表示されますが、実際のISO感度は異なる場合があります（フラッシュ使用時など）。

撮影設定メニューの設定を元に戻す (撮影設定初期化)

撮影設定メニューの設定を初期値に戻すには、次のように操作します。

- 1** モードダイヤルを📷に合わせる
- 2** MENU/OKボタンを押す
 - ・ 撮影設定メニューが表示されます。
- 3** ▲▼ボタンを押して [撮影設定初期化] を選び、▶ボタンを押す
 - ・ 確認のメッセージが表示されます。
- 4** ▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押す
 - ・ 初期化中のメッセージが表示され、完了すると撮影モードの画面に戻ります。



メモ

電源をオフにしても設定値が保持される機能については、P.244を参照してください。

絞り優先モード時に絞り値を自動的に変更する（絞り自動シフト）

明るすぎる環境での撮影時などは、設定した絞り値によっては露出オーバーとなることがあり、[!AE] マークが表示されます。その場合は、絞り値を大きくする（絞りを絞る）か、[絞り自動シフト] を [ON] に設定してください。[絞り自動シフト] を [ON] に設定すると、絞り優先モードのときにカメラが自動的に絞り値を大きくして、適正露出が得られるようになります。（P.82）


- 1 モードダイヤルをAに合わせる
- 2 撮影設定メニューを表示する
 - 操作手順は、P.97を参照してください
- 3 ▼ボタンを押して [絞り自動シフト] を選び、▶ボタンを押す
- 4 ▲▼ボタンを押して、[ON] を選ぶ
- 5 MENU/OKボタンを押す



メモ

モードダイヤルをA以外に合わせているときは、[絞り自動シフト] は表示されません。

マイセッティングモード時に撮影モードを変更する（撮影モード切替）

マイセッティングモード時（ P.93）に、モードダイヤルを回すことなく撮影モードを変更することができます。

1 モードダイヤルを MY1/MY2/MY3に合わせる

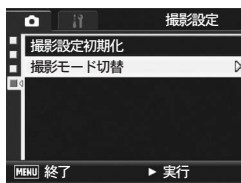
- ・ [マイセッティング登録] で登録した撮影モードのマークが表示されます。

2 撮影設定メニューを表示する

- ・ 操作手順は、P.97 を参照してください

3 ▼ボタンを押して[撮影モード切替]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ




5 MENU/OKボタンを押す

- ・ 撮影モードが切り替わり、画面にマークが表示されます。



メモ

- ・ モードダイヤルをMY1/MY2/MY3以外に合わせているときは、[撮影モード切替] は表示されません。
- ・ [マイセッティング登録]（ P.180）でシーンモードを保持した場合は、モードダイヤルをMY1/MY2/MY3に合わせても [撮影モード切替] は表示されません。

2 動画を撮影・再生する

📷動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。

画像サイズは、640×480、320×240のいずれかが選択できます。また、1秒間に撮影するフレーム数（フレームレート）は、30フレームまたは15フレームから選択できます。

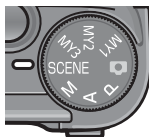
撮影した動画は、1つのAVIファイルとして記録されます。

2

動画を撮影・再生する

1 モードダイヤルを SCENE に合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。



2 MENU/OKボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して📷 [動画] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して動画撮影を開始する

- 次にシャッターボタンを押すまで撮影されます。

6 シャッターボタンを押して動画撮影を終了する



🚫 注意

- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1回あたりの撮影可能時間は、ご使用のカードにより異なります。(P.142) また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- 動画モード時は、手ブレ補正機能は使えません。手ブレ補正機能がオンの状態でモードダイヤルを📷 (動画モード) に合わせると、📷の表示が消えます。

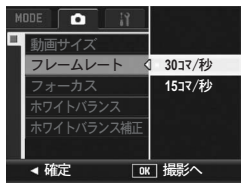
**メモ**

- ・フラッシュは発光禁止になります。
- ・動画撮影中、ズーム機能は、デジタルズームのみ使用できます。(P.44)
- ・手順5でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われず。
- ・残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- ・動画の画像サイズやフレーム数は、撮影設定メニューで設定します。
- ・動画モード時には、撮影設定メニュー項目が異なります。(P.96)
- ・電池残量によっては、途中で電池切れになることがあります。長時間撮影される場合は、十分に残量のある電池またはACアダプター(別売り)のご使用をお勧めします。
- ・長時間撮影される場合は、十分に空き容量のある高速SDメモリーカードのご使用をお勧めします。

フレーム数を設定する(フレームレート)

動画モードで1秒間に撮影されるフレーム数(フレームレート)を設定します。

- 1 シーンモードで [動画] を選ぶ
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - ・シーンモード選択画面が表示されます。
- 3 ▲ボタンを押す
- 4 ►ボタンを押す
 - ・撮影設定メニューが表示されます。
- 5 ▼ボタンを押して [フレームレート] を選び、►ボタンを押す
- 6 ▲▼ボタンを押して、[30コマ/秒] または [15コマ/秒] を選ぶ
- 7 MENU/OKボタンを押す
 - ・画面に設定値が表示されます。

**動画のフレーム**

動画のフレームはコマともいいます。動画はたくさんのフレームで構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。



メモ

- 動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 記録可能時間の合計の目安は、以下のとおりです。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。

	内蔵	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB
640×480 (15コマ/秒)	1分 22秒	12分 19秒	24分 2秒	48分 13秒	94分 40秒	193分 30秒	394分 53秒
640×480 (30コマ/秒)	41秒	6分 14秒	11分 59秒	24分 23秒	47分 54秒	97分 55秒	199分 49秒
320×240 (15コマ/秒)	2分 40秒	24分 5秒	46分 19秒	94分 11秒	184分 57秒	378分 2秒	771分 25秒
320×240 (30コマ/秒)	1分 22秒	12分 19秒	24分 2秒	48分 13秒	94分 40秒	193分 30秒	394分 53秒

動画を再生する

動画を再生するには、次のように操作します。

1 再生ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。
- 動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

2 ▲▼◀▶ ボタンで見たい動画にする

- ▶ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。
- ◀ボタンを押すと、1つ前のファイルを表示できます。
- ▲ボタンを押すと、10コマ前のファイルを表示します。
- ▼ボタンを押すと、10コマ後ろのファイルを表示します。



3 ADJ.レバーを押す

- 再生が始まります。
画像モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中にQボタンを押す
巻き戻し	再生中にRボタンを押す
一時停止/再生	ADJ.レバーを押す
スロー再生	一時停止中にQボタンを押し続ける
スロー戻し	一時停止中にRボタンを押し続ける
次のフレームの表示	一時停止中にQボタンを押す
前のフレームの表示	一時停止中にRボタンを押す
音量を調節する	再生中に▲▼ボタンを押す



メモ

静止画を拡大表示した状態でADJ.レバーを左右にたおし、前の画像/次の画像を表示する場合、動画を表示すると等倍に戻ります。

3 いろいろな再生

再生設定メニューについて

再生モードでMENU/OKボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、次の項目の機能が設定できます。

設定項目	選択肢	参照先
スライドショー	_____	P.146
プロテクト	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、 複数ファイル選択	P.147
DPOF	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、 複数ファイル選択	P.150
画像サイズ変更	1280、640	P.153
カードヘコピー	_____	P.155
斜め補正	_____	P.156
レベル補正	AUTO、MANUAL	P.158
ホワイトバランス補正	_____	P.161



メモ

再生設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。(P.172)

メニューの操作方法

1 再生ボタンを押して、再生モードにする

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

設定画面が2画面あることを示しています。



3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- この画面でADJ.レバーまたはDISP.ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。
- 一番下の項目で▼ボタンを押すと、次の設定画面が表示されます。

4 ▶ボタンを押す

- 各設定項目の画面が表示されます。



画面の切り替え

◀ボタンを押すと、画面左にあるタブが選択できる状態になります。(この画面でADJ.レバーまたはDISP.ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。)

- ▲▼ ボタンを押して画面を切り替えます。
- ▶ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。



3

いろいろな再生

自動的に順に表示する（スライドショー）

撮影した静止画や動画を、順番に画像モニターに表示することができます。この機能をスライドショーと呼びます。スライドショーで見るには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ ボタンを押して、[スライドショー]を選び、▶ボタンを押す

- スライドショーが開始され、ファイルが順に再生されます。
- 途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。



メモ

- 静止画は3秒間表示されます。
- 動画は1フレームだけではなく、撮影した内容がすべて表示されます。

削除できないように設定する（プロテクト）

記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。



注意

プロテクトしたファイルは、削除することはできませんが、初期化を行うとプロテクト設定の有無にかかわらず、すべて消去されます。

1 ファイルをプロテクトする

1 ▶（再生）ボタンを押す

・最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ▲▼◀▶ ボタンを押してプロテクトしたいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

・再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す



5 [1ファイル]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す



・プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。





メモ

プロテクトを解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべてのファイルをプロテクトする

すべてのファイルにプロテクトを設定するには、次のように操作します。

- 1 (再生) ボタンを押す
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - ・再生設定メニューが表示されます。
- 3 ▼ボタンを押して、[プロテクト] を選び、▶ボタンを押す



- 4 ▲▼ ボタンを押して、[全ファイル] を選ぶ
- 5 [選択] が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す
 - ・プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。



メモ

すべてのプロテクトを解除するには、手順5で [解除] を選択します。

複数のファイルを一度にプロテクトする

選択したファイルに対して、一度にプロテクトの設定を行うには、次のように操作します。

1 (再生) ボタンを押す

2 (サムネイル表示) ボタンを押す

- 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ボタンを押して、プロテクトしたい1枚目のファイルを選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ボタンを押して、[プロテクト]を選び、 ボタンを押す

- ファイルの右上にプロテクト設定のマークが表示されます。

6 ボタンを押して、次にプロテクトの設定をしたいファイルを選び、MENU/OKボタンを押す



7 手順6を繰り返して、プロテクトの設定をしたいファイルをすべて選択する

- 間違えた場合は、そのファイルを選択した状態でMENU/OKボタンを再度押すとプロテクトを解除できます。

8 DISP.ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。



メモ

- 複数のファイルのプロテクトを解除するには、上記の手順で、解除したいファイルを選択してDISP.ボタンを押します。
- 一度にすべてのプロテクトを解除することもできます。(P.148)

プリントサービスを利用する (DPOF：ディーポフ)

SDメモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお持ちいただくと、プリントすることができます。プリントサービスを利用するには、プリントに必要な情報を設定する必要があります。その設定をDPOF（ディーポフ）設定と呼びます。

DPOF設定を行うと、1静止画につき1枚印刷するという情報が設定されます。一覧表示でDPOF設定を行うと、印刷枚数を指定することもできます。(P.152)



メモ

RAWモードで撮影した画像は、JPEGファイルにのみDPOF設定されます。

3

いろいろな再生

表示している静止画にDPOF設定する

- 1 (再生) ボタンを押す
- 2 ボタンを押して設定したい静止画を表示する
- 3 MENU/OKボタンを押す
 - ・再生設定メニューが表示されます。
- 4 ボタンを押して、[DPOF] を選び、 ボタンを押す



- 5 [1ファイル]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す
 - ・DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。





メモ

DPOF設定を解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべての静止画にDPOF設定する

すべての静止画に対してDPOF設定をするには、次のように操作します。

- 1 (再生) ボタンを押す
- 2 MENU/OKボタンを押す
 - ・再生設定メニューが表示されます。
- 3 ボタンを押して、[DPOF] を選び、 ボタンを押す
- 4 ボタンを押して、[全ファイル] を選ぶ
- 5 [選択] が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す
 - ・DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。



メモ

すべてのDPOF設定を解除するには、手順5で [解除] を選択します。

複数の静止画にDPOF設定する

選択した静止画に対して、一度にDPOF設定を行うには、次のように操作します。

- 1** (再生) ボタンを押す
 - 2** (サムネイル表示) ボタンを押す
 - 画面が20分割されて、ファイルが一覧表示されます。
 - 3** ボタンを押して、DPOF設定したい1枚目の静止画を選ぶ
 - 4** MENU/OKボタンを押す
 - 再生設定メニューが表示されます。
 - 5** ボタンを押して、[DPOF] を選び、 ボタンを押す
 - 6** ボタンを押して印刷枚数を指定する
 - ボタンを押すと枚数が増え、 ボタンを押すと枚数が減ります。
 - 7** ボタンを押して、次にDPOF設定をしたい静止画を選ぶ
 - 8** ボタンを押して印刷枚数を指定する
 - ボタンを押すと枚数が増え、 ボタンを押すと枚数が減ります。
 - 9** 手順7～8を繰り返して、DPOF設定をしたい静止画をすべて選択する
 - 10** MENU/OKボタンを押す
 - 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。
- メモ**-----
- 複数のファイルのDPOF設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を [0] に指定してMENU/OKボタンを押します。
 - 一度にすべてのDPOF設定を解除することもできます。(P.151)



画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
F4000 / N4000 / F3:2 / N3:2 / F1:1 / N1:1 / N3264 / N2592 / N2048	N1280	N640
N1280	N640	



注意

- 画像サイズ変更ができるのは、静止画のみです。動画は、画像サイズ変更できません。
- RAWモードで撮影した画像は、画像サイズ変更できません。



メモ

- [F3:2]、[N3:2] の画像は、横と縦の比率が3:2です。この画像をリサイズした場合、上下に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- [F1:1]、[N1:1] の画像は、横と縦の比率が同じです。この画像をリサイズした場合、左右に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- 撮影時に画像サイズを変更することができます。（P.99）

画像サイズを変更するには、次のように操作します。

1 （再生）ボタンを押す

2 ボタンを押して画像サイズを変更したいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ボタンを押して、[画像サイズ変更] を選び、 ボタンを押す



5 ▲▼ボタンを押して、[1280] または [640] を選ぶ


6 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、画像サイズ変更後の画像が記録されます。変更前の画像も残ります。



内蔵メモリーの内容をカードへコピーする (カードへコピー)

内蔵メモリーの内容をSDメモリーカードへコピーすることができます。

- 1 電源をオフにする
- 2 SDメモリーカードをセットする
- 3 電源をオンにする
- 4  (再生) ボタンを押す
- 5 MENU/OKボタンを押す
 - ・再生設定メニューが表示されます。
- 6 ▼ボタンを押して、[カードへコピー] を選び、▶ボタンを押す
 - ・処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。



3

いろいろな再生





メモ

- ・コピー先のSDメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合は、[はい] を選んでMENU/OKボタンを押してください。コピーを取り消す場合は、[いいえ] を選んでMENU/OKボタンを押してください。
- ・SDメモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。

斜めから撮影した画像を補正する (斜め補正)



斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換することができます。



1  (再生) ボタンを押す

2  ボタンを押して、斜め補正したいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4  ボタンを押して、[斜め補正]を選び、 ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジ枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、 ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、 ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。



5 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意

- 斜め補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、斜め補正することはできません。
- RAWモード (P.99) で撮影した画像は、同時記録された JPEG ファイルが斜め補正されます。DNGファイルは斜め補正されません。



メモ

- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくこと（ P.153）、処理速度を早くすることができます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、下記のとおりです。

画像サイズ	補正時間
4000×3000	約60秒
2592×1944	約24秒
2048×1536	約14秒
1280×960	約6秒
640×480	約2秒

- 撮影時にシーンモードの「斜め補正」を選択すると、撮影直後の画像を斜め補正することができます。（ P.91）

画像の明度、コントラストを補正する (レベル補正)

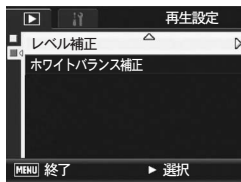
撮影した静止画の明度、コントラストを [AUTO] または [MANUAL] で補正して記録することができます。[MANUAL] では、ヒストグラムを調整しながら画像を補正します。



メモ

ヒストグラム表示の詳細については、P.66を参照してください。

- 1 (再生) ボタンを押す
- 2 ボタンを押して、補正したいファイルを表示する
- 3 MENU/OKボタンを押す
・再生設定メニューが表示されます。
- 4 ボタンを押して、[レベル補正] を選び、 ボタンを押す



オートで補正する (AUTO)

- 5 ボタンを押して、[AUTO] を選び、 ボタンを押す



- [レベル補正] 画面が表示されます。左上に元画像、右に補正画像が表示されます。
- レベル補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。



6 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

マニュアルで補正する (MANUAL)

5 ▲▼ボタンを押して、[MANUAL]を選び、▶ボタンを押す

- [レベル補正]画面が表示されます。左上に元画像、左下にヒストグラム、右に補正画像が表示されます。
- レベル補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP.ボタンを押します。



6 ADJ.レバーを押して、ヒストグラム下のポイントを切り替える

- ヒストグラムの縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を表しています。ADJ.レバーを押すたびに、左端、真中、右端のポイントを切り替えることができます。



7 ◀▶ボタンを押して、ポイントの位置を調整し、画像を補正する

- 左右のポイントの位置を移動すると、真中のポイントも移動します。



補正方法例

- 例1) 画像の全体的な明るさを調整したい場合：

真中のポイントを選択して左に移動すると、画像が全体的に明るくなります。

真中のポイントを右に移動すると、画像が全体的に暗くなります。



- 例2) 露出オーバーまたは露出アンダーの画像を補正したい場合：

露出オーバーの場合は、左側のポイントを右に移動し、ヒストグラムの山の左端に合わせます。

露出アンダーの場合は、右側のポイントを左に移動し、ヒストグラムの山の右端に合わせます。

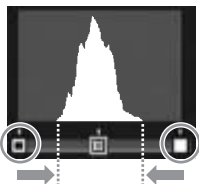
この状態で真中のポイントを左右に調整すると、全体的な明るさを調整することができます。



露出オーバーの場合

- 例3) 画像のコントラストをはっきりさせたい場合：

コントラストのはっきりしない画像の場合、ヒストグラムの山は中央寄りに集中しています。左右のポイントを移動してそれぞれヒストグラムの山の両端に合わせると、明るい部分と暗い部分をはっきりした画像になります。この状態で真中のポイントを左右に調整すると、全体的な明るさを調整することができます。



8 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。




注意

- レベル補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、レベル補正することはできません。
- シーンモードの【文字】で撮影した画像、【画像設定】を【白黒】または【白黒 (TE)】に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- レベル補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

画像の色調を補正する (ホワイトバランス補正)



撮影した静止画の色調を、グリーン、マゼンタ、ブルー、アンバーそれぞれの色合いに補正して記録することができます。

1  (再生) ボタンを押す

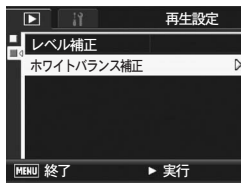
2   ボタンを押して、補正したいファイルを表示する



3 MENU/OK ボタンを押す




- 再生設定メニューが表示されます。

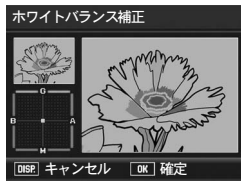
4  ボタンを押して、[ホワイトバランス補正] を選び、 ボタンを押す

- [ホワイトバランス補正] 画面が表示されます。左上に元画像、左下にホワイトバランス補正マップ、右に補正画像が表示されます。
- ホワイトバランス補正できないファイルを選択している場合は、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。



5   ボタンを押す、または ADJ.レバーを左右にたおして、ホワイトバランス補正マップのポイントの位置を調整し、色調を補正する

-   ボタンを押すと、ホワイトバランス補正マップのポイントが移動します。[G] はグリーン、[A] はアンバー、[M] はマゼンタ、[B] はブルーを示し、ポイントの動きに合わせて、それぞれの色合いの色調に補正されます。
- ホワイトバランス補正をキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- 補正中の色調をリセットしたい場合は、 ボタンを押します。



6 MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。



注意

- ホワイトバランス補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、ホワイトバランス補正することはできません。
- シーンモードの [文字] で撮影した画像、[画像設定] を [白黒] または [白黒 (TE)] に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- ホワイトバランス補正は繰り返し実行できますが、実行により画像を再圧縮するため、画質は劣化します。
- 撮影時にホワイトバランス補正することもできます。(P.133)

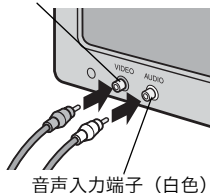
テレビの画面で見る

撮影したファイルを、テレビの画面に表示して見ることができます。テレビの画面には画像モニターと同じ内容が表示されます。テレビの画面に表示するには、カメラに付属しているAVケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。ファイルをテレビで見るとは、次のように操作します。

1 テレビのビデオ入力端子にAVケーブルをしっかりと接続する

- AVケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

映像入力端子（黄色）



2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

3 端子カバーを開ける

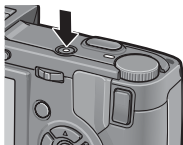


4 AV出力端子にAVケーブルをしっかりと接続する

5 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

6 POWER（電源）ボタンを押す、または▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けて、電源をオンにする




3

いろいろな再生

注意

- AVケーブルで本機を接続している間は画像モニターおよび液晶ビューファインダーの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
- AVケーブルは無理に差し込まないでください。
- AVケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- AVケーブルの使用中は、AVケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ

- ビデオのビデオ入力端子にAVケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。（ P.206）
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

4 ダイレクトプリントで印刷する

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接USBケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。



注意

- 動画 (.AVI) は、印刷できません。
- RAWモードで撮影した画像は、同時記録されたJPEGファイルが印刷されます。DNGファイルは印刷できません。



メモ

- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格であるPictBridge (ピクトブリッジ) を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターがPictBridgeに対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。

カメラとプリンターを接続する

カメラとプリンターの接続には、付属のUSBケーブルを使います。

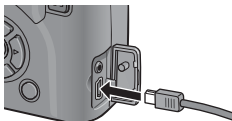
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 端子カバーを開ける



3 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- 自動的にカメラの電源がオンになります。
- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。



注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ

カメラとプリンターの接続を外すときは、印刷終了後にカメラの電源がオフになったことを確認してからUSBケーブルを外してください。

静止画を印刷する

PictBridge対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリー内の静止画が印刷され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の静止画が印刷されます。



注意

印刷が完了するまで、USBケーブルを外さないでください。



メモ

- ・ 送信中に [プリンターエラー] のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。
- ・ プリンターに接続しているのに、パソコン接続のメッセージが表示された場合は、再接続を行い、接続後2秒以内にADJ.レバーを押してください。

1枚またはすべての静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- ・ [接続待ち...] 画面が表示されます。

2 ADJ.レバーを押す

- ・ ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

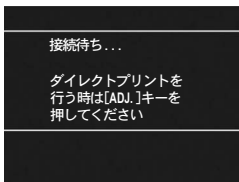
3 ▲▼◀▶ ボタンで、印刷したい静止画を表示する

4 ADJ.レバーを押す

5 ▲▼ ボタンを押して、[1ファイル] または [全ファイル] を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す

- ・ ダイレクトプリントのメニューが表示されます。



7 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

- ・ [接続中・・・] と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると [接続中・・・] が消え、[ダイレクトプリント] と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- ・ 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ有効です。



項目名	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1枚に何コマ印刷するかを設定します。1枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップモードの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。
印刷部数※	印刷部数を設定します。
トナーセーブ※	印刷を薄めにして、トナーを節約するかどうかを設定します。
片面/両面※	両面で印刷するかどうかを設定します。[両面] に設定すると、両面で印刷されます。両面印刷をする場合は、各静止画の印刷枚数は1枚となります。P.169の手順6で印刷枚数を複数枚設定しても、1枚のみ印刷されます。

※各項目に対応しているリコープリンターと接続しているときのみ有効です。

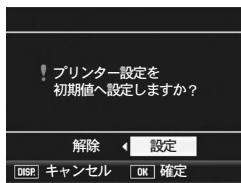
8 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ・ ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

9 手順7と8を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

メモ

- 手順7の画面でADJ.レバーを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値として設定することができます。右の画面が出たら、◀▶ボタンを押して[設定]を選び、MENU/OKボタンを押してください。
- [解除]を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。



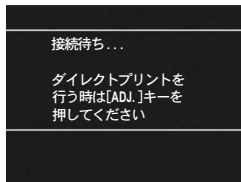
10 MENU/OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、[送信中] 画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- [接続待ち...] 画面が表示されます。



2 ADJ.レバーを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 [サムネイル表示] ボタンを押す

- 画面が20分割されて、静止画が一覧表示されます。

4 ▲▼◀▶ ボタンを押して、印刷したい静止画を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す

6 ▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。



7 ◀▶ボタンを押して次に印刷したい静止画を選ぶ

8 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

9 手順7と8を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択して、印刷枚数を指定する

10 MENU/OKボタンを押す

- ・ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

11 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

- ・[接続中・・・]と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると「接続中・・・」が消え、[ダイレクトプリント]と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- ・選択できる項目については、P.168をご覧ください。



12 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ・ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

13 手順11と12を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

14 MENU/OKボタンを押す

- ・静止画がプリンターに送られ、[送信中] 画面が表示されます。
- ・送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- ・すべての静止画の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。



メモ

- ・プリンターのマーク (🖨️) が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- ・1枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- ・選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- ・詳細項目で [プリンター指定] を選ぶと、プリンター側の設定値 (初期値) で印刷されます。

帳票印刷する

ダイレクトプリントのメニューで[帳票印刷]を設定してください。
[帳票印刷]は、[用紙サイズ]を[A4]に設定し、PictBridgeに対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ有効です。

選択できるレイアウトは、接続するプリンターによって異なります。レイアウトはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

選択できるレイアウト例

1コマ罫線あり	2コマ罫線あり	3コマ罫線あり	4コマ罫線あり
1コマ罫線なし	2コマ罫線なし	3コマ罫線なし	4コマ罫線なし
工事写真1	記事欄付1	追加帳票1～10	

帳票印刷の例



1コマ罫線あり



2コマ罫線あり



工事写真1

5 カメラの設定を変える

セットアップメニューについて

撮影設定メニュー (P.94) や再生設定メニュー (P.144) からセットアップメニューを表示して、カメラの設定変更ができます。

セットアップメニューを使うと、次の表にある項目を設定することができます。

設定項目	選択肢 [購入時の初期設定値]	参照先
初期化 [カード]	_____	P.175
初期化 [内蔵メモリー]	_____	P.176
LCD輝度調節	_____	P.177
コンバージョンレンズ	OFF、WIDE[DW-6]、 TELE[TC-1]、[起動時選択]	P.178
マイセッティング登録	[MY1]、MY2、MY3	P.180
ステップズーム	ON、[OFF]	P.182
ISO AUTO-HI 設定	AUTO 200、[AUTO 400]、AUTO 800、 AUTO1600	P.183
Fn1 ボタン設定* ¹ Fn2 ボタン設定* ²	OFF、[AF/MF] * ¹ 、AF/スナップ、[AE ロック] * ² 、JPEG → RAW、カラー → 白 黒、カラー → TE、露出補正、ホワイトバ ランス、WB補正、ISO、画質、フォーカ ス、画像設定、測光、連写、オートブラ ケット、ターゲット移動、調光補正、マ ニュアル発光	P.184
Fn設定のMY登録	ON、[OFF]	P.186
操作音	[すべて]、水準器音、シャッター音	P.187
操作音音量設定	なし (□□□)、小 (■□□)、 中 [(■□□)]、大 (■□□)	P.188
ADJ.レバー設定1* ¹ ADJ.レバー設定2* ² ADJ.レバー設定3* ³ ADJ.レバー設定4* ⁴	OFF、[露出補正] * ¹ 、[ホワイトバランス] * ² 、 WB補正、[ISO] * ³ 、[画質] * ⁴ 、フォーカス、 画像設定、測光、連写、オートブラケット、 調光補正、マニュアル発光	P.189
ADJシャッターボタン 確定	ON、[OFF]	P.190
水準器設定	[OFF]、表示のみ、表示+音、音のみ	P.191
AF補助光	[ON]、OFF	P.192
デジタルズーム切替	[通常]、オートリサイズ	P.193
オートパワーオフ	OFF、[1分]、5分、30分	P.195
再生画面出力先	[LCD]、VF	P.196

設定項目	選択肢 [購入時の初期設定値]	参照先
画像確認時間	OFF、[0.5秒]、1秒、2秒、3秒、HOLD	P.197
縦横自動回転再生	[ON]、OFF	P.198
CL-BKT 白黒(TE)	[ON]、OFF	P.200
RAW同時記録設定	[FINE]、NORMAL、N640	P.201
カード連続NO.	[ON]、OFF	P.202
日時設定	_____	P.204
Language/言語*	日本語、English	P.205
ビデオ方式*	NTSC、PAL	P.206

* 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

セットアップメニューの操作方法

本文中では、メニュー選択確定の操作（以下手順6）は「MENU/OKボタンを押す」と説明していますが、◀ボタンを押しても、設定が確定してメニュー画面に戻ります。

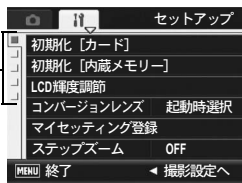
1 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ▶ボタンを押す

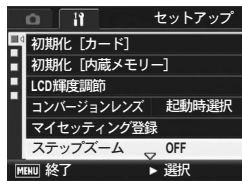
- セットアップメニューが表示されます。
- シーンモードの場合は、▲ボタンを1回または2回押して [MODE] タブを選択し、▶ボタンを2回押すと、セットアップメニューが表示されます。

設定画面が5画面あることを示しています。



3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- この画面でADJ.レバーまたはDISP.ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。
- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。



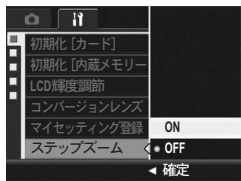
4 ▶ ボタンを押す

- ・ 設定項目の選択肢が表示されます。

5 ▲▼ ボタンを押して、選択肢を選ぶ

6 MENU/OK ボタンを押す

- ・ セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- ・ 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、再度MENU/OK ボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。
- ・ 手順6で◀ ボタンを押すと、設定が確定して手順3の画面に戻ります。



メモ

機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

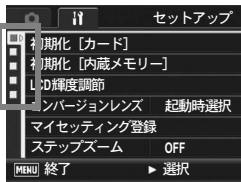


画面の切り替え

◀ ボタンを押すと、画面左にあるタブが選択できる状態になります。

(この画面でADJ.レバーまたはDISP. ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。)

- ・ ▲▼ ボタンを押して画面を切り替えます。
- ・ ▶ ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。



5

SDメモリーカードを使えるようにする (初期化 [カード])

[使用できないカードです。] 等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンや他のデジタルカメラなどで使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。初期化とは、画像データが書き込める状態にする処理のことです。



注意

画像が記録されているカードを初期化すると、内容がすべて消えてしまいます。

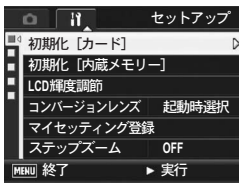
初期化するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [初期化 [カード]] を選び、▶ボタンを押す

- 初期化の確認画面が表示されます。



3 ◀▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。
- SDメモリーカードが入っていない場合は、メッセージが表示されます。いったん電源をオフしてから、SDメモリーカードをセットして、再度初期化の操作を行ってください。

4 MENU/OKボタンを押す



誤って画像を消さないようにするには

- カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、撮影や画像の削除、初期化ができなくなります。(P.33)
- スイッチを元の位置に戻し、「LOCK」を解除すると、削除も初期化もできるようになります。

内蔵メモリーを初期化する (初期化 [内蔵メモリー])

[内蔵メモリーを初期化してください。] というエラーメッセージが表示された場合は、内蔵メモリーを初期化する必要があります。



注意

内蔵メモリーを初期化すると、内蔵メモリーに記録されているデータはすべて消去されます。消去したくない画像があるときは、SDメモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください。(P.155)

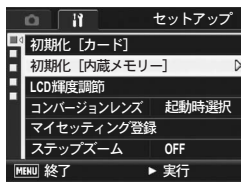
初期化するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [初期化 [内蔵メモリー]] を選び、▶ボタンを押す

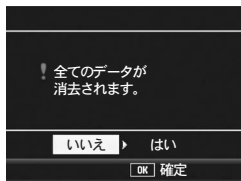
- 初期化の確認画面が表示されます。



3 ◀▶ボタンを押して [はい] を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。

4 MENU/OKボタンを押す



画像モニターの明るさを調節する (LCD輝度調節)

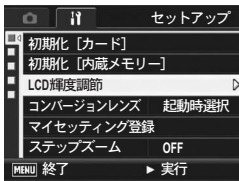
画像モニターの明るさを調整するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[LCD 輝度調節] を選び、▶ボタンを押す

- 輝度設定用の画面が表示されます。



3 ▲▼ボタンを押して、明るさを調節する

- LCD 輝度調節バーの目盛りを下側に変更すると、暗くなります。上側に変更すると、明るくなります。画面の明るさが、バーの目盛り位置にともなって変化します。



4 設定したい明るさになったら、MENU/OKボタンを押す

- セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す



注意

液晶ビューファインダーの明るさを調節することはできません。

コンバージョンレンズの種類を設定する (コンバージョンレンズ)

別売りのワイドコンバージョンレンズ (DW-6) またはテレコンバージョンレンズ (TC-1) を使用する場合、どちらのレンズを使用するのか設定しておく必要があります。

設定	内容
OFF	コンバージョンレンズをカメラに装着しても、カメラはコンバージョンレンズが装着されていないと認識します。
WIDE [DW-6]	コンバージョンレンズをカメラに装着した場合は、ワイドコンバージョンレンズ (DW-6) が装着されたと認識します。
TELE [TC-1]	コンバージョンレンズをカメラに装着した場合は、テレコンバージョンレンズ (TC-1) が装着されたと認識します。
起動時選択 ※購入時の設定	以下のときに、コンバージョンレンズの種類を選択する画面が毎回表示されます。DW-6、TC-1の両方を頻繁に使用する場合に便利です。 <ul style="list-style-type: none">• コンバージョンレンズを装着した状態で電源をオンにしたとき• コンバージョンレンズをカメラに装着したとき

5

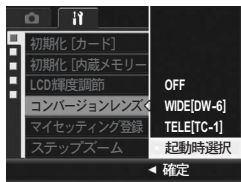
カメラの設定を変える

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください

2 ▼ボタンを押して【コンバージョンレンズ】を選び、▶ボタンを押す

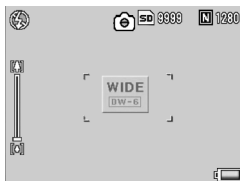
3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ



4 MENU/OKボタンを押す

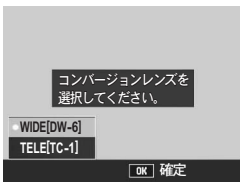
[WIDE [DW-6]] または [TELE [TC-1]] を選択した場合：

- コンバージョンレンズを装着した状態で電源をオンにした際、およびコンバージョンレンズを装着した際に、画像モニター中央に一瞬コンバージョンレンズの種類を示すマークが大きく表示され、その後右下にマークが表示されます。



[起動時選択] を選択した場合：

- コンバージョンレンズを装着した状態で電源をオンにした際、およびコンバージョンレンズを装着した際に、コンバージョンレンズの種類を選択する画面が表示されます。▲▼ボタンを押して、設定を選び、MENU/OKボタンを押してください。画像モニター中央に一瞬コンバージョンレンズの種類を示すマークが大きく表示され、その後右下にマークが表示されます。



❗ 注意

- [コンバージョンレンズ] を [TELE [TC-1]] に設定している場合は、ワイドコンバージョンレンズ (DW-6) を装着しても、テレコンバージョンレンズ (TC-1) が装着されていると認識します。また、逆の場合も同様です。
- [コンバージョンレンズ] の設定と異なるレンズを装着した場合、撮影機能が正しく動作しません。

自分好みの設定を登録する (マイセッティング登録)

マイセッティング機能を使うと、簡単に自分好みの設定で撮影することができます。

マイセッティングは3種類登録できます。モードダイヤルをMY1に合わせると、[MY1]で登録した設定で撮影できます。モードダイヤルをMY2に合わせると [MY2]、MY3に合わせると [MY3]で登録した設定で撮影できます。(P.93)

現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録するには、次のように操作します。

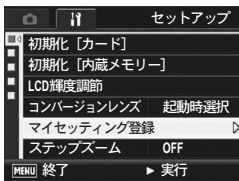
1 カメラの設定を、マイセッティングとして登録したい値に変更する

2 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

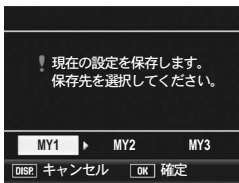
3 ▼ボタンを押して、[マイセッティング登録]を選び、▶ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。



4 設定を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP. ボタンを押してください。



5 MENU/OKボタンを押す

マイセッティングで保存できる設定

撮影モード (📷/P/A/M/SCENE)
マニュアルフォーカス時のフォーカス位置
シーンモード
マクロ
フラッシュモード
ズーム位置
セルフタイマー
DISP.モード
画質・サイズ
フォーカス
測光
連写
画像設定
フラッシュ調光補正
フラッシュマニュアル発光量
オートブラケット
WB-BKT
CL-BKT
日付入れ撮影
手ブレ補正
露出補正
ホワイトバランス
ISO感度
文字濃度
フレームレート
ステップズーム
ISO AUTO-HI設定
Fn1/2ボタン設定*
水準器設定
デジタルズーム切替
CL-BKT白黒 (TE)

* [Fn1/2ボタン設定] は、[Fn設定のMY登録] を [ON] に設定した場合のみ、マイセッティングで保存されます。

ズームの焦点距離を固定する (ステップズーム)

ズームの焦点距離を、5段階（24mm、28mm、35mm、50mm、72mm相当*）に固定する設定をステップズームといいます。

* 35mm判カメラ換算値です。

設定

ON（ステップズームを使用する）

OFF（ステップズームを使用しない）※購入時の設定

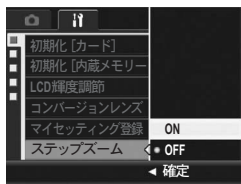
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ステップズーム] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[ON] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



メモ

- ワイドコンバージョンレンズ装着時のズーム焦点距離は、19mm、22mm、28mm、40mm、57mm相当になります。
- テレコンバージョンレンズ装着時のズーム焦点距離は、45mm、53mm、64mm、92mm、135mm相当になります。ただし、135mm（望遠端）以外の焦点距離にズームしているときは、画像周辺にケラレ（画像の四隅が暗くなる現象）が発生します。

ISO AUTO-HI の設定を変える (ISO AUTO-HI 設定)

撮影設定メニューの [ISO感度] で設定する [AUTO-HI] (高感度設定オート) (P.135) のISO感度の上限を変更することができます。

設定できる値

AUTO 200

AUTO 400 ※購入時の設定

AUTO 800

AUTO1600

高感度設定オートの設定を変更するには、次のように操作します。

- 1** セットアップメニューを表示する
・ 操作手順は、P.173を参照してください。
- 2** ▼ボタンを押して、[ISO AUTO-HI 設定] を選び、▶ボタンを押す
- 3** ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ
- 4** MENU/OKボタンを押す



メモ

ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。

Fn (ファンクションボタン) に機能を登録する (Fn1/2ボタン設定)

2つあるFn (ファンクション) ボタンに機能を登録すると、Fn1/Fn2 ボタンを押すだけで色々な機能を切り替えたり、少ないボタン操作で撮影設定メニューの項目を変更することができます。Fn1 ボタンを押すと、[Fn1 ボタン設定] で登録した機能を使用できます。Fn2 ボタンを押すと、[Fn2 ボタン設定] で登録した機能を使用できます。

Fn1/Fn2 ボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。Fn1/Fn2 ボタンの操作方法は、各参照先を参照してください。

設定できる値	機能	参照先
AF/MF ※購入時 [Fn1 ボタン設定] の設定	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える	P.75
AF/スナップ	オートフォーカスとスナップを切り替える	P.76
AEロック ※購入時 [Fn2 ボタン設定] の設定	露出を固定する	P.77
JPEG→RAW	JPEGとRAWを切り替える	P.78
カラー→白黒	カラーと白黒 ^{*1} を切り替える	P.79
カラー→TE	カラーと白黒(TE) ^{*2} を切り替える	P.79
ターゲット移動	AEとAFの両方、またはどちらかのターゲットを移動する	P.80
露出補正、ホワイトバランス、WB補正、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正、マニュアル発光	各撮影設定メニューの項目を変更する	P.81

*1 [画像設定] で [白黒] に設定した画質 (☞P.111)

*2 [画像設定] で [白黒(TE)] に設定した画質 (☞P.112)

Fn1/Fn2ボタンに機能を登録するには、次のように操作します。

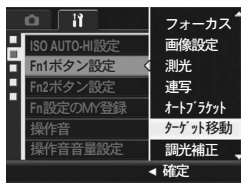
1 セットアップメニューを表示する

• 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[Fn1 ボタン設定] または [Fn2ボタン設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



Fn (ファンクション) ボタンの機能をマイセッティングで保存するかどうか設定する (Fn設定のMY登録)

[Fn1/2ボタン設定]でFn1/Fn2ボタンに登録した機能(☞P.73)を、[マイセッティング登録] (☞P.180) で保存するかどうか設定できます。

設定できる値	内容
ON	Fn1/Fn2ボタンに登録した機能を [マイセッティング登録] で保存する
OFF ※購入時の設定	Fn1/Fn2ボタンに登録した機能は [マイセッティング登録] で保存しない

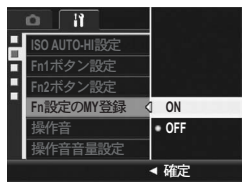
1 セットアップメニューを表示する

・ 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [Fn設定のMY登録] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



5

カメラの設定を変える

操作音の設定を変える（操作音）

カメラの操作中は、以下の5種類の操作音が鳴ります。

- 起動音 : カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。
シャッター音 : シャッターボタンを押したときに鳴ります。
フォーカスが合ったときの音 : シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに合ったときの音 「ピピッ」という音が鳴ります。
警告音 : 実行できない動作を行おうとしたときに「ピピピピピ」という音が鳴ります。
水準器音 : [水準器設定] を [表示+音] または [音のみ] に設定している場合 (P.191)、撮影モードでカメラが水平状態のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。

設定できる値	内容
すべて ※購入時の設定	すべて鳴らす
水準器音	水準器音のみ鳴らす
シャッター音	シャッター音、水準器音のみ鳴らす



メモ

実行できない動作を行おうとしたときは、[操作音] の設定にかかわらず、警告音が鳴ります。

1

セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2

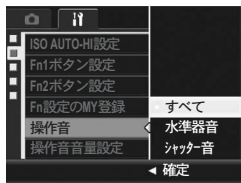
▼ボタンを押して、[操作音] を選び、▶ボタンを押す

3

▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4

MENU/OKボタンを押す



メモ

操作音の音量は変更することができます。(P.188)

操作音の音量を変える（操作音音量設定）

操作音の音量を変更できます。

設定できる値

- (なし)
- (音量小)
- (音量中) ※購入時の設定
- (音量大)

操作音の音量を変更するには、次のように操作します。

- 1** セットアップメニューを表示する
・ 操作手順は、P.173を参照してください。
- 2** ▼ボタンを押して、[操作音音量設定] を選び、▶ボタンを押す
- 3** ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ
- 4** MENU/OKボタンを押す



5

カメラの設定を変える



メモ

[操作音音量設定] を [] (なし) に設定している場合は、[水準器設定] を [表示+音] または [音のみ] に設定しても (P.191)、水準器音は鳴りません。

ADJ.レバーに機能を登録する (ADJ.レバー設定)

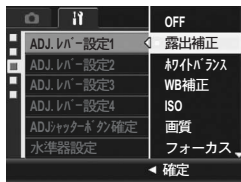
ADJ.レバーに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく、簡単な操作で撮影に関するいろいろな設定画面を表示できます。[ADJ.レバー設定1]～[ADJ.レバー設定4]で、ADJ.レバーを押して表示できる機能を登録します。

ADJ.モードでの操作方法は、P.68を参照してください。

設定できる値	参照先
OFF	—
露出補正 ※購入時 [ADJ.レバー設定1] の設定	P.128
ホワイトバランス ※購入時 [ADJ.レバー設定2] の設定	P.129
WB補正	P.133
ISO ※購入時 [ADJ.レバー設定3] の設定	P.135
画質 ※購入時 [ADJ.レバー設定4] の設定	P.99
フォーカス	P.102
画像設定	P.110
測光	P.105
連写	P.106
オートブラケット	P.118
調光補正	P.115
マニュアル発光	P.116

[ADJ.レバー設定1]～[ADJ.レバー設定4]に機能を登録するには、次のように操作します。

- 1** セットアップメニューを表示する
・ 操作手順は、P.173を参照してください。
- 2** ▼ボタンを押して、[ADJ.レバー設定1]、[ADJ.レバー設定2]、[ADJ.レバー設定3]、[ADJ.レバー設定4]のいずれかを選び、▶ボタンを押す
- 3** ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ
- 4** MENU/OKボタンを押す



ADJ.モード時にシャッターボタンで設定を確定する (ADJシャッターボタン確定)

ADJ.モードの場合 (P.68)、通常はMENU/OKボタンまたはADJ.レバーを押して設定を確定します。

[ADJ.シャッターボタン確定] を [ON] に設定すると、シャッターボタンの半押しでも設定を確定することができます。

設定できる値	内容
ON	ADJ. レバーまたは MENU/OK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると設定が確定します。
OFF ※購入時の設定	ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押すと設定が確定します。

シャッターボタンの設定を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ADJシャッターボタン確定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[ON] を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



水準器の確認方法を設定する（水準器設定）

[水準器設定] をオンにすると、撮影する画像が水平かどうかを撮影時に水平インジケータや水準器音で確認することができます。確認方法は以下の中から設定できます。撮影時の水準器の使用方法については、P.63を参照してください。

設定	内容
OFF ※購入時の設定	水平インジケータは表示されません。水準器音も鳴りません。
表示のみ	水平インジケータが表示されます。水準器音は鳴りません。
表示+音	水平インジケータが表示され、カメラが水平状態のときに水準器音が鳴ります。
音のみ	水平インジケータは表示されません。カメラが水平状態のときに水準器音が鳴ります。

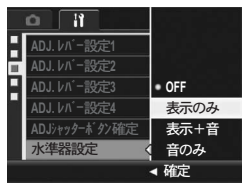
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。
- 撮影できる状態でDISP.ボタンを長押しした場合でも、設定画面を表示できます。DISP.ボタンを長押しした場合は手順3へ進んでください。

2 ▼ボタンを押して [水準器設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



5

カメラの設定を変える



メモ

- 撮影時の水準器の使用方法については、P.63を参照してください。
- 動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- [操作音音量設定] を [□□□] (なし) に設定している場合、[水準器設定] を [表示+音] または [音のみ] に設定しても、水準器音は鳴りません。

AF補助光の設定を変える（AF補助光）

オートフォーカスでの撮影時に、AF補助光を発光するかしないかを設定できます。

[AF補助光] を [ON] に設定すると、周囲が暗く、オートフォーカスでの測距が難しいときにAF補助光が発光し、AF測距を行います。

AF補助光の設定を変えるには、次のように操作します。

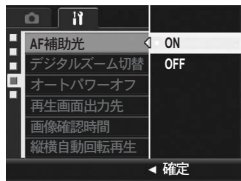
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[AF補助光] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



オートリサイズズームを使う (デジタルズーム切替)

撮影する画像から必要な部分を切り出して記録します。通常のデジタルズームは、設定した画像サイズまで画像の一部を拡大して保存するのに対し、オートリサイズズームは切り出した部分をそのまま記録するので、拡大による画質の劣化がありません。記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。

オートリサイズズームは、[画質・サイズ] を4000×3000に設定しているときのみ働きます。(P.99)

選択できる設定

設定	内容
通常 ※購入時の設定	通常のデジタルズームです。[画質・サイズ] で設定した画像サイズで記録します。
オートリサイズ	自動的に画像サイズを変更して記録します。



メモ

[画質・サイズ] が4000×3000以外の場合、デジタルズームが有効になります。

ズーム倍率と記録する画像サイズの関係

ズーム倍率	焦点距離	画像サイズ
1.0倍	72mm (*)	4000×3000 (12M)
約1.2倍	88mm (*)	3264×2448 (8M)
約1.5倍	111mm (*)	2592×1944 (5M)
約2.0倍	141mm (*)	2048×1536 (3M)
約3.1倍	225mm (*)	1280×960 (1M)
約6.3倍	450mm (*)	640×480 (VGA)

(*) 35mm判カメラ換算値です。

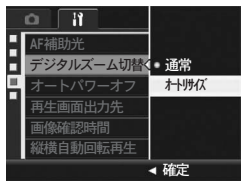
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [デジタルズーム切替] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ ボタンを押して、[オートリサイズ] を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す



5 撮影できる状態で、Q (拡大表示) ボタンを押す

- Q ボタンを押すごとに、1段階ずつ画像サイズが変更されます。
- 記録する画像サイズがズームバーの上に表示されます。



! 注意

- S 連写、M 連写、シーンモードの [斜め補正] の場合は、[オートリサイズ] に設定していてもデジタルズームが有効になります。
- [画質・サイズ] がRAWモードのときは、使用できません。
- 画質をFineモードに設定してオートリサイズズームを使用すると、記録時にNormalモードに変換されます。

オートパワーオフの設定を変える (オートパワーオフ)

設定した時間内にカメラの操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。

購入時のオートパワーオフは1分に設定されていますが、この設定を変更することができます。

設定できる値

OFF（オートパワーオフ機能は働きません）

1分 ※購入時の設定

5分

30分

オートパワーオフの設定を変更するには、次のように操作します。

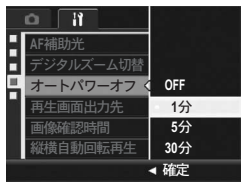
1 セットアップメニューを表示する

- ・ 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[オートパワーオフ] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



メモ

- ・ オートパワーオフで電源がオフになったとき、引き続きカメラを使用したい場合は、POWER（電源）ボタンを押して電源をオンにします。▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けても電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- ・ オートパワーオフは、パソコンまたはプリンターと接続しているときは働きません。
- ・ インターバル撮影をするときは、[オートパワーオフ] の設定は無効になり、オートパワーオフは働きません。

再生画面の表示先を設定する (再生画面出力先)

液晶ビューファインダー (VF-1) 装着時に、再生画面を画像モニターと液晶ビューファインダーのどちらに表示するか設定します。液晶ビューファインダーを装着していない場合は、[再生画面出力先] の設定にかかわらず、再生画面は画像モニターに表示されます。

設定	内容
LCD ※購入時の設定	再生画面を画像モニターに表示します。
VF	液晶ビューファインダー装着時は、再生画面を液晶ビューファインダーに表示します。

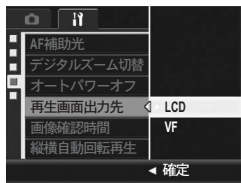
1 セットアップメニューを表示する

・ 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[再生画面出力先] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



メモ

液晶ビューファインダー装着時にVF/LCDボタンを押すと、液晶ビューファインダーと画像モニターが切り替わります。

画像確認時間を変える（画像確認時間）

シャッターボタンを押して撮影した直後に、撮影した静止画が確認のために表示されます。確認時間は、購入時には0.5秒に設定されていますが、設定を変更することができます。

設定できる値

OFF（確認のための表示を行わない）

0.5秒 ※購入時の設定

1秒

2秒

3秒

HOLD（次にシャッターボタンを半押しするまで、確認画像を表示し続ける）

確認時間を変更するには、次のように操作します。

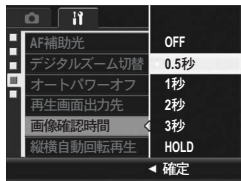
1 セットアップメニューを表示する

- ・ 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[画像確認時間]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



メモ

- ・ [HOLD] に設定すると、確認表示中の画像を拡大表示したり（☞P.54）、削除したり（☞P.56）することができます。
- ・ [画質・サイズ]がRAWモードのときは、[画像確認時間]を[HOLD]に設定している場合のみ、画像の記録完了後に確認画像が表示されます。[HOLD]以外に設定している場合は、記録完了後、すぐに撮影画面に戻ります。

再生画像の向きを自動補正する (縦横自動回転再生)

カメラの向きが撮影時と再生時で異なる場合に、再生画像の向きを自動補正するかどうか設定します。

設定	内容
ON ※購入時の設定	再生画像の向きを自動補正します。
OFF	再生画像の向きは補正しません。

[縦横自動回転再生] を [ON] に設定すると、再生画像の向きは以下ようになります。

カメラを横向きに置いて再生する場合：

カメラを横にして撮影した画像は、そのままの向きで表示します。カメラを縦にして撮影した画像は、自動的に回転して縦に表示します。

カメラを縦向きに置いて再生する場合：

カメラを縦にして撮影した画像は、そのままの向きで表示します。カメラを横にして撮影した画像、自動的に回転して横に表示します。

再生中にカメラの向きを変えた場合でも、再生画像はカメラの向きに応じて自動回転されます。

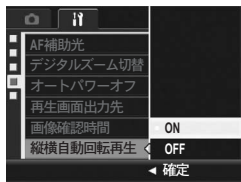
1 セットアップメニューを表示する

・ 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [縦横自動回転再生] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

4 MENU/OKボタンを押す





注意

- 以下の場合は、[縦横自動回転再生]を[ON]に設定しても、再生画像は自動回転されません。
 - 動画、S連写、M連写で撮影した画像
 - 一覧表示の場合 (P.53)
 - カメラを前後に傾け過ぎている状態で撮影した画像
 - カメラを上下逆さま (シャッターボタンが下向きになっている) にして撮影または再生した場合
 - 拡大再生中にカメラの向きを変えた場合
 - 再生モードで斜め補正処理中 (補正エリアが表示されている) の画像 (P.156)
- [縦横自動回転再生]を[ON]に設定しても、スライドショー、テレビ再生中は、カメラを横向きに置いているものと認識されます。カメラを縦向きに置いて再生しても、横向きで撮影した画像は自動回転されません。また、再生中にカメラの向きを変えても、再生画像は自動回転されません。



メモ

連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケットで撮影した画像は、1枚目の画像の向きによって自動回転されません。

CL-BKT撮影時の記録画像を設定する (CL-BKT 白黒(TE))

[オートブラケット] で [CL-BKT] を選択して静止画を撮影すると (P.120)、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚、または白黒、カラーの2枚の画像を自動的に記録します。あらかじめセットアップメニューの [CL-BKT 白黒(TE)] で、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録するか、白黒、カラーの2枚の画像を記録するかを設定しておきます。

設定	内容
ON ※購入時の設定	撮影設定メニューの [オートブラケット] を [CL-BKT] に設定すると、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録します。
OFF	撮影設定メニューの [オートブラケット] を [CL-BKT] に設定すると、白黒、カラーの2枚の画像を記録します。

1 セットアップメニューを表示する

・ 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して [CL-BKT 白黒(TE)] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

4 MENU/OKボタンを押す



メモ

[CL-BKT 白黒(TE)] を [OFF] に設定しても、撮影設定メニューの [画像設定] を [白黒(TE)] に設定している場合は、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録します。

RAWモード時のJPEG画像の設定を変える (RAW同時記録設定)

[画質・サイズ] をRAWモードに設定して撮影した場合 (P.99)、RAW形式ファイル (.DNGファイル) と関連付けられたJPEGファイルが同時に記録されます。このJPEGファイルの画質・サイズの設定を変更することができます。

設定	内容
FINE ※購入時の設定	画質：Fineモード、画像サイズ：RAW形式ファイルと同じサイズで記録します。
NORMAL	画質：Normalモード、画像サイズ：RAW形式ファイルと同じサイズで記録します。
N640	画質：Normalモード、画像サイズ：640×480で記録します。ただし、[RAW3:2] のときは640×424 (3:2)、[RAW1:1] のときは480×480 (1:1) になります。

JPEGファイルの画質・サイズの設定を変更するには、次のように操作します。

- 1 セットアップメニューを表示する
・ 操作手順は、P.173を参照してください。
- 2 ▼ボタンを押して、[RAW同時記録設定] を選び、▶ボタンを押す
- 3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ
- 4 MENU/OKボタンを押す



ファイル名の設定を変える (カード連続NO.)

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録されます。

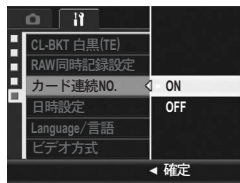
SDメモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

設定できる値	内容
ON (連番にする) ※購入時の設定	撮影した静止画に、R0010001.jpg~R9999999.jpgまでの、「R」の後に7桁の通し番号が付いたファイル名が、自動的に付きます。 SDメモリーカードを別のカードに替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF (連番にしない)	新しいSDメモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg~RIMG9999.jpgまでのファイル名が付きます。 ファイル名がRIMG9999になると、それ以上は記録できません。

5 ファイル名の設定を変更するには、次のように操作します。

カメラの設定を変える

- 1 セットアップメニューを表示する
・ 操作手順は、P.173を参照してください。
- 2 ▼ボタンを押して、[カード連続NO.] を選び、▶ボタンを押す
- 3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ
- 4 MENU/OKボタンを押す



**メモ**

- 内蔵メモリーに記録する場合には、常に [カード連続NO.] が [OFF] の設定の場合と同じにファイル名が付けられます。
- RICOH Gate Laを使ってパソコンに転送する (P.219) 際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。また、[カード連続NO.] を [ON] に設定していても、ファイル名は「RIMG****.jpg」(****は番号) で保存されます。

**注意**

ファイル名がRIMG9999またはR9999999になると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。この場合、SDメモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SDメモリーカードを初期化してお使いください。

日付・時刻を設定する（日時設定）

静止画に日付や時刻を入れて撮影することができます。

ここでは、セットアップメニューからの日付・時刻の設定方法を説明します。

1 セットアップメニューを表示する

- ・ 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[日時設定]を選び、▶ボタンを押す



3 ▲▼◀▶ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ・ ▲▼ボタンを押し続けると、高速で数値を増減させることができます。
- ・ ◀▶ボタンを押すと、次の項目へ移動することができます。



4 [書式] で日時の書式を選ぶ

5 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- ・ 日時が設定されて、セットアップメニューに戻ります。



6 MENU/OKボタンを押す



メモ

- ・ 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- ・ 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに2時間以上セットしてください。

表示言語を変える (Language/言語)

画像モニターに表示される言語を変更することができます。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値

日本語

English

表示言語を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[Language/言語] を選び、▶ボタンを押す

- 言語選択画面が表示されます。

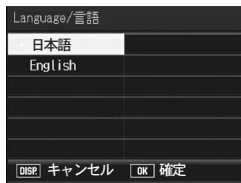


3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 言語が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す



5

カメラの設定を変える

テレビで見るときの再生方式を変える (ビデオ方式)

付属のAVケーブルでカメラをテレビに接続して、テレビの画面で静止画や動画を見ることができます。(P.163)

テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。

購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値

NTSC

PAL

ビデオ方式を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

・ 操作手順は、P.173を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ビデオ方式] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す



メモ

SECAM方式には対応していません。

6 画像をパソコンに取り込む

画面の表示は、ご使用のパソコンのOSによって異なります。

Windowsをご使用の場合

Macintoshをご使用の場合はP.223をご覧ください。

画像をパソコンに取り込むには、以下の2種類の方法があります。

- 付属のソフトウェアRICOH Gate Laを使用して、自動的に画像の一括取り込みを行う。この場合は、付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールしておく必要があります。
- RICOH Gate Laを使用せずに画像を取り込む。



注意

本カメラからWindows 98/98 SEに画像を取り込むことはできません。



メモ

- 画像をパソコンに取り込む方法の詳細については、CD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編）』の表示方法については、P.213を参照してください。
- 付属のCD-ROMに収められているCaplio Softwareは、リコーデジタルカメラGX200、GR DIGITALなどと共通のソフトウェアです。

付属のCD-ROMを使うために必要な環境

付属のCD-ROMを使うためには、次の環境が必要です。
ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応OS	Windows 2000 Professional Service Pack 4 (日本語版) Windows Me (日本語版) Windows XP Home Edition Service Pack 2 (日本語版) / Professional Service Pack 2 (日本語版) Windows Vista Service Pack 1 (日本語版)
CPU	Windows 2000/Me/XP : Pentium® III 500MHz以上 Windows Vista : Pentium® III 1GHz以上
メモリー	Windows 2000/Me/XP : 256MB以上 Windows Vista : 512MB以上
インストール時のハードディスクの空き容量	160MB以上
ディスプレイの解像度	1024×768ドット以上
ディスプレイの表示色	65000色以上
CD-ROMドライブ	上記パソコン本体で使用可能なCD-ROMドライブ
USBポート	上記パソコン本体で使用可能なUSBポート



注意

- 64ビット版には対応していません。
- Windows 98/98 SEには対応していません。
- OSをアップグレードしたパソコンの場合、正常にUSB機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OSのシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能 (PCIバスなど) を利用して増設したUSBポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお勧めします。

CD-ROMの構成

付属のCD-ROMをパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。



項目名	内容	参照先
ソフトウェアのインストール	パソコンで画像の一括取り込みや編集を行うときに必要なソフトウェアを一括でインストールできます。	P.210
使用説明書（ソフトウェア編）を見る	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF）を表示することができます。	P.213
CD-ROMの内容を見る	付属のCD-ROM内のファイル一覧を表示することができます。	P.213
RICOH ホームページへ	リコーのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	—
RICOHデジタルカメラホームページへ	リコーのデジタルカメラのホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	—
お客様登録・変更	リコーのお客様登録のホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	—
Adobe Digital Imaging ホームページへ	アドビシステムズ株式会社のホームページを表示することができます。（インターネットに接続できる状態の場合）	—

【ソフトウェアのインストール】をクリックする

次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	説明
RICOH Gate La	画像をパソコンに一括取り込みします。
Irodio Photo & Video Studio	撮影した画像を閲覧・管理・編集することができます。
USBドライバー	リコーの過去機種とWindows 98 SE/Me/2000を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。
WIAドライバー	リコーの過去機種とWindows XP/Vistaを接続するときに使います。本カメラでは使用しません。

注意

- ・ インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- ・ 従来機種の付属CD-ROMからすでにソフトウェアをインストールしている場合は、新たにソフトウェアをインストールしようとすると、従来機種のソフトウェアをアンインストールしてからインストールするようメッセージが表示されます。
この場合は、メッセージに従って従来機種のソフトウェアをアンインストールし、新しいソフトウェアをインストールしてください。従来機種のソフトウェアもこれまでと同様にお使いいただけます。
DU-10がインストールされている場合は、Caplio Viewer (DU-10の機能強化版) に置き換わります。メッセージが表示される前に従来機種のソフトウェアをアンインストールした場合は、新しいソフトウェアをインストールしてもCaplio Viewerはインストールされません。(アンインストール方法) P.217
- ・ Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- ・ RICOH Gate Laはネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。



メモ

本機は、パソコン内の画像を表示、編集するソフトウェアIrodio Photo & Video Studioを付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使いかたについては、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。

Irodio Photo & Video Studioについての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ (http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/) を参照してください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

1 パソコンを起動し、CD-ROM ドライブに、付属の CD-ROM をセットする

Windows Vista以外のOSの場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- 自動再生画面が表示されます。
- [Autorun.exeの実行] を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。



2 [ソフトウェアのインストール] をクリックする

Windows Vista以外のOSの場合

- しばらくすると [設定言語の選択] 画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

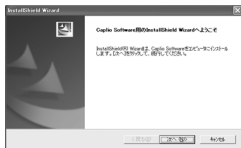
- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。
- コンピュータへのアクセス要求の [許可] を選択してください。しばらくすると [設定言語の選択] 画面が表示されます。

3 言語を選択し、[OK] をクリックする

- [Caplio Software用のInstallShield Wizardへようこそ] 画面が表示されます。

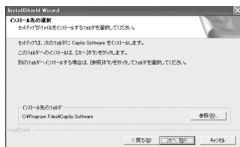
4 [次へ] をクリックする

- [インストール先の選択] 画面が表示されます。



5 インストール先を確認して [次へ] をクリックする

- [プログラムフォルダの選択] 画面が表示されます。



6 プログラムフォルダを確認して [次へ] をクリックする

- 続けてIrodio Photo & Video Studioのインストーラが起動します。画面の指示に従ってインストールしてください。パソコンによっては、次の画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- Irodio Photo & Video Studioのインストールが完了すると、すべてのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。



7 [完了] をクリックする

- Caplio Softwareのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

8 再起動を促すメッセージが表示されたら、[はい、今すぐコンピュータを再起動します。]を選択して、[完了] をクリックする

- パソコンが再起動します。
- 再起動後に Windows セキュリティの重要な警告画面が表示されます。

9 RICOH Gate La for DSCの [ブロックを解除する] ボタンをクリックする

- **メモ**-----
インストールしたソフトウェアをパソコンから削除（アンインストール）することができます。（[P.217](#)）

【使用説明書（ソフトウェア編）を見る】をクリックする

CD-ROM内の『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）を表示します。

すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合は、クリックするだけで表示できます。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールする必要があります。（P.214）

【CD-ROMの内容を見る】をクリックする

CD-ROM内のフォルダやファイルを確認できます。CD-ROMには、[ソフトウェアのインストール] をクリックしてインストールされるソフトウェア以外に、次のソフトウェアが収められています。Windows環境では、これらのソフトウェアをインストールできます。

ソフトウェア名	説明
Acrobat Reader	『使用説明書（ソフトウェア編）』を読むために必要なソフトウェアです。
Ridoc Desk Navigator Lt	ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。



注意

- インストールは、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続した状態では行わないでください。
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。



メモ

- Acrobat Readerについては、Acrobat Readerのヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltについては、Ridoc Desk Navigator Ltに付属の『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。
- 「Irodio Photo & Video Studio」フォルダ内のIrodio Photo & Video Studio.exeをダブルクリックすると、Irodio Photo & Video Studioのみをインストールすることができます。

Acrobat Reader

Acrobat Readerは、使用説明書（PDFファイル）を表示するためのソフトウェアです。

Windowsをご使用の場合には、Acrobat Readerをインストールすることができます。すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。



注意

CD-ROMに同梱のAcrobat Readerは、Windows Vistaで使用すると警告が表示される場合があります。その場合は、アドビシステムズ社のホームページから最新版をダウンロードしてください。

1

パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする

Windows Vista以外のOSの場合

- ・パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- ・自動再生画面が表示されます。
- ・[Autorun.exeの実行]を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。



2

[CD-ROMの内容を見る] をクリックする

- ・CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3

[Acrobat] フォルダをダブルクリックする

4

[Japanese] フォルダをダブルクリックする

5

[ar505.jpn] (ar505.jpn.exe) をダブルクリックする

- ・Windows Vistaをご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。[続行]を選択してください。

6

表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Acrobat Readerをインストールする

Ridoc Desk Navigator Lt

ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。デジタルカメラで撮影した静止画だけでなく、スキャナから読み取った文書やアプリケーションで作成した文書、イメージファイルなど、さまざまな文書を管理することができます。異なるファイル形式のものを1つの文書にまとめて保管することも可能です。



メモ

- Ridoc Desk Navigator Ltは日本国内向けのアプリケーションです。他の言語環境では使用できません。
(Ridoc Desk Navigator Lt is only available in Japanese. Other languages are not supported.)
- Ridoc Desk Navigator Ltの使用方法については、Ridoc Desk Navigator Ltと同時にインストールされる『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMをセットする

Windows Vista以外のOSの場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- 自動再生画面が表示されます。
- [Autorun.exe の実行] を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 [CD-ROMの内容を見る] をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 [Ridoc Desk] フォルダをダブルクリックする

4 [RDLaunch.exe] をダブルクリックする

5 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする

- インストールが完了すると、自動的にWindowsが再起動します。



注意

- Ridoc Desk Navigator Ltは、Ridoc Desk Navigator、Ridoc Desk 2000 Lt、Ridoc Desk 2000、Job Binderと共存することができません。Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする場合は、元のアプリケーションをアンインストールしてから行ってください。そのとき、元のアプリケーションで使用していたデータはそのまま保存され、引き続き使用することができます。ただし、元のアプリケーションがRidoc Desk 2000の場合、いくつかの機能が使用できなくなりますので、ご注意ください。
- カメラをパソコンに接続し、Ridoc Desk Navigator Ltを開いたままカメラの電源をオフ/オンした場合は、パソコンを再起動して再度接続してください。

ソフトウェアを削除（アンインストール）する



注意

- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり、保存していないデータがある場合は、データを保存し、ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

Caplio Software

- 1** Windowsのタスクバーから [スタート] をクリックする
- 2** [設定] - [コントロールパネル] (XP、Vistaの場合は [コントロールパネル]) を選択する
- 3** [アプリケーションの追加と削除] アイコン (XPの場合は [プログラムの追加と削除] アイコン) をダブルクリックする
- 4** [Caplio Software] を選択し、[変更と削除] をクリックする
- 5** ファイル削除のメッセージを確認し、[OK] をクリックする
 - [共有ファイルの検出] ダイアログが表示されます。
- 6** [次回からこのメッセージを表示しない]のチェックボックスにチェックを入れて、[はい] をクリックする
 - 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

Irodio Photo & Video Studio

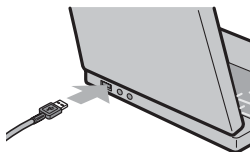
- 1** Windowsのタスクバーから [スタート] をクリックする
- 2** [設定] - [コントロールパネル] (XP、Vistaの場合は [コントロールパネル]) を表示する
- 3** [アプリケーションの追加と削除] アイコン (XPの場合は [プログラムの追加と削除] アイコン) をダブルクリックする
- 4** [Irodio Photo & Video Studio] を選択し、[変更と削除] をクリックする
- 5** ファイル削除のメッセージを確認し、[OK] をクリックする
 - ・ 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。
- 6** パソコンを再起動する

RICOH Gate Laを使用して画像を一括取り込みする

ソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラとパソコンを接続します。

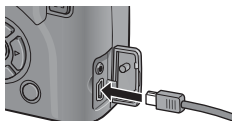
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する



3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

- カメラの電源がオンになり、必要なファイルが自動的に読み込まれます。



4 RICOH Gate Laが起動して、自動的に画像の転送が開始される

5 画像の転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する (☞P.222)



メモ-----

- RICOH Gate Laの使いかたについては、CD-ROM内の「使用説明書(ソフトウェア編)」(PDFファイル)をご参照ください。(☞P.213)
- 画像の転送が始まらない場合は、パソコンを再起動して1~5の操作をもう一度お試しください。



注意-----

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

RICOH Gate Laを使用せずに画像を取り込む

ソフトウェアを使用せずに、カメラからパソコンに画像を取り込みます。

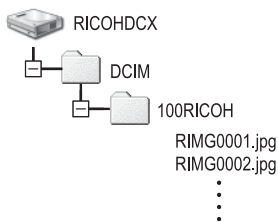
- 1 カメラの電源がオフになっていることを確認する
- 2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する
- 3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する



Windows XPでの表示例

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、[マイコンピュータ]にドライブとして表示されます。

- 4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする



Windows XPでの表示例

注意

- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- 取り込み先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。上書きしたくない場合は、別のフォルダに取り込むか、取り込み先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。

メモ

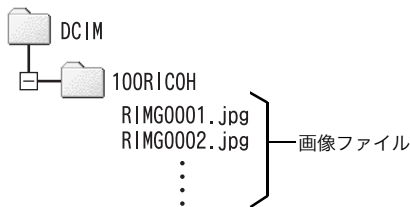
表示される内容は、SDメモリーカードがセットされているときはSDメモリーカードのファイル、SDメモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルになります。



SDメモリーカードから画像を取り込む-----

PCカードスロットやカードリーダーを使って、SDメモリーカードからパソコンへ画像を取り込むことができます。PCカードスロットやカードリーダーのタイプによっては、SDメモリーカードをセットするときにメモリーカードアダプターが必要です。SDメモリーカードがそのままセットできるタイプであれば、メモリーカードアダプターは必要ありません。

- SDメモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。



Windows XPでの表示例

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読みとるための機器です。メモリーカードアダプタータイプの外に、SDメモリーカードがそのままセットできる各種のカードに対応したカードリーダーがあります。接続されるパソコンのOSのタイプ、使用されるSDメモリーカードの容量に対応したカードリーダーをお使いください。



注意-----

カメラやカードリーダーをパソコンに接続し、SDメモリーカード内の画像を直接パソコンで表示・編集・保存などした場合、その画像がカメラで再生できなくなることがあります。表示・編集・保存などは、画像をパソコンに取り込んだ後に行ってください。

カメラとパソコンの接続を解除する

カメラとパソコンの接続を解除する場合は、以下のように操作してください。（表示はWindows XPの例です。他のOSでは用語が異なりますが、操作は同じです。）

- 1** タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックする
- 2** [USB大容量記憶装置デバイス] を選び、[停止] をクリックする
- 3** [USB 大容量記憶装置デバイス] が選ばれていることを確認して、[OK] をクリックする
- 4** [閉じる] をクリックする
- 5** USBケーブルを取り外す



メモ

- ・接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- ・画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。

Macintoshをご使用の場合

Windowsをご使用の場合はP.207をご覧ください。

本カメラは、以下のOSに対応しています。

- Mac OS 9.0 ~ 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 ~ 10.5.2



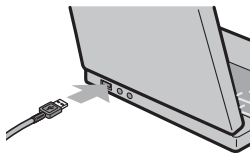
注意

- 本カメラからMac OS 8.6に画像を取り込むことはできません。
- Macintoshでは、CD-ROMに含まれているソフトウェアを使用することはできませんが、『使用説明書 (ソフトウェア編)』を表示することは可能です (パソコンにAcrobatがインストールされている場合のみ)。

画像をパソコンに取り込む

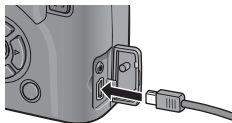
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する



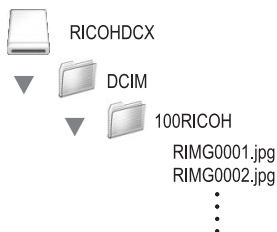
3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、デスクトップにドライブとして表示されます。



4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は [RICOHDCI] になります。



注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

カメラとパソコンの接続を解除する

1 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップする

- 管理者パスワードを要求する画面が表示された場合は、パスワードを入力します。

2 USBケーブルを取り外す

メモ

- Mac OS 9の場合は [特別] メニューで、Mac OS Xの場合は [ファイル] メニューで [取り出し] を選択して接続を解除することもできます。
- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。
- Macintosh に接続すると、SDメモリーカードに「Finder.DAT/DS_Store」が書き込まれる場合があります。カメラでは [表示できないファイルです。] と表示されます。気になる場合は、SDメモリーカードからこのファイルを消去しても問題ありません。

お困りのときは

エラーメッセージが表示されたら

画像モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の方法で対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
カードを入れてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.35
日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.204
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.202 P.203
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	—
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.32
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.147
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.33
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル（動画など）です。	—
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.56 P.175 P.176
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を0にしてください。	P.169
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.176
カードを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.175
使用できないカードです。	再度初期化し直してください。それでもエラーメッセージが表示される場合は、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.175
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	—
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	—
記録できません。	記録可能枚数が0になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.32

カメラ本体のトラブル


電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	電池を正しくセットする。専用のリチャージャブルバッテリーまたは単四形ニッケル水素電池を使用している場合は、充電する。単四形アルカリ乾電池または単四形オキシライド乾電池を使用している場合は、新品電池に交換する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.35 P.34 P.30 P.240
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、または指定の市販電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.30
	ACアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.240
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.37
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.35
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.37
	電池が消耗している。	専用のリチャージャブルバッテリーまたは単四形ニッケル水素電池を使用している場合は、充電する。単四形アルカリ乾電池または単四形オキシライド乾電池を使用している場合は、新品電池に交換する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.34 P.30 P.240
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、または指定の市販電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.30
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.35 P.240

症状	原因	処置	参照先
充分に残量のある電池なのに： ・電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 ・電源が切れる。	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、または指定の市販電池を使う。他の電池は使用しないでください。	P.30
リチャージャブルバッテリーを充電できない。	リチャージャブルバッテリーの寿命。	新しいリチャージャブルバッテリーに交換する。	P.35
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。 暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多。	－ －	－ －

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	専用のリチャージャブルバッテリーまたは単四形ニッケル水素電池を使用している場合は、充電する。単四形アルカリ乾電池または単四形オキシライド乾電池を使用している場合は、新品電池に交換する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.34 P.30 P.240
	電源が入っていない。	POWER (電源) ボタンを押して、電源をオンにする。	P.37
	再生モードになっている。	[再生] ボタンを押して撮影モードにする。	P.51
	シャッターボタンを押さぎっていない。	シャッターボタンを押さぎる。	P.41
	SDメモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.175
	SDメモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.56 P.35
	SDメモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.35
	フラッシュが充電中。	オートフォーカス/フラッシュランプの点滅が終了するまで待つ。	P.47
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK (書き込み禁止)」を解除する。	P.33
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	－

症状	原因	処置	参照先
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.197
画像モニターに映らない。	電源が入っていない。または画像モニターが暗い。	電源を入れる。または画像モニターの明るさを調整する。	P.37 P.177
	画像モニターがオフになっている。	VF/LCD ボタンを押して、画像モニターをオンにする。	P.60
	液晶ビューファインダーに切り替わっている。	VF/LCD ボタンを押して、画像モニターに切り替える。	P.22
	ビデオケーブル/AVケーブルをさした状態になっている。	ビデオケーブル/AVケーブルを抜く。	P.163
液晶ビューファインダーに映らない。	液晶ビューファインダーを完全に装着していない。	液晶ビューファインダーを完全に装着する。	—
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズが汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	—
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.41
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.41 P.103
ピントが合っていないのに、画像モニター中央に緑の枠が表示される。	被写体との距離が近すぎるため、疑合焦された。	マクロモードで撮影する。または、被写体から離れて撮影する。	P.45
手ブレになる。 () マークが表示される)	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両肘を身体につけて構える。三脚を使用する。手ブレ補正機能を使う。	P.39 P.127
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッター速度が遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。手ブレ補正機能を使う。ISO感度を上げる。	P.47 P.127 P.135
画像周辺にケラレ（画像の四隅が暗くなる現象）が発生する。	テレコンバージョンレンズを装着しているのに、ズームポジションが望遠端になっていない。	ズームレバーを操作し、ズームポジションを望遠端にする。	—

症状	原因	処置	参照先
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	フラッシュがポップアップしていない。	⚡OPEN(フラッシュオープン)スイッチを外側にスライドさせて、フラッシュをポップアップさせる。	P.47
	フラッシュカバーが完全に上がっていない。	フラッシュカバーを手で押さえたり、覆ったりしないように注意する。また、液晶ビューファインダーの角度を元に戻して、フラッシュがポップアップするように調整する。	P.47
	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 • オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット • 連写モード • シーンモードの [動画]、[遠景]	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.47 P.118 P.119 P.120 P.106 P.88 P.140
	フラッシュが発光禁止になっている。	フラッシュをポップアップさせる。⚡(フラッシュ)ボタンで発光禁止を解除する。	P.47
	電池が消耗している。	専用のリチャージャブルバッテリーまたは単四形ニッケル水素電池を使用している場合は、充電する。単四形アルカリ乾電池または単四形オキシライド乾電池を使用している場合は、新品電池に交換する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.34 P.30 P.240
フラッシュが発光するのに画像が暗い。	被写体までの距離が、フラッシュの光が届く距離を越えている。	被写体に近づいて撮影する。ISO感度を変更する。	P.47 P.135
	黒っぽい被写体である。	露出補正を行う(フラッシュの光量も露出補正値に連動します)。	P.128
	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。	P.115 P.116
	フラッシュカバーが完全に上がっていない。	フラッシュカバーを手で押さえたり、覆ったりしないように注意する。また、液晶ビューファインダーの角度を元に戻して、フラッシュがポップアップするように調整する。	P.47

症状	原因	処置	参照先
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調整する。または、被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.115 P.116
	露出がオーバーしている。 ([IAE] マークが表示される)	露出補正を行う。 露光時間を短く設定する。 絞り値を大きくする (絞りを絞る)。 [絞り自動シフト] を [ON] に設定する。	P.128 P.84 P.82 P.138
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.177
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	フラッシュをポップアップさせる。⚡ (フラッシュ) ボタンで発光禁止を解除する。	P.47
	露出が不足している。	露出補正を行う。 露光時間を長く設定する。	P.128 P.84
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.177
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはホワイトバランスモードを [AUTO] 以外にする。	P.129
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示が、表示なしになっている。	DISP. ボタンを押して表示を切り替える。	P.60
AF動作中、画像モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なる時、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	—
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写したときに起こる現象。スミア現象という。	故障ではありません。	—
水平インジケーターが表示されない。	[水準器設定] を [OFF] または [音のみ] に設定している。	[水準器設定] を [表示のみ] または [表示+音] に設定する。	P.191
	画面表示がマーク表示またはヒストグラム表示以外になっている。	DISP. ボタンを押して、マーク表示またはヒストグラム表示に切り替える。	P.60
	カメラが上下逆さま (シャッターボタンが下向き) になっている。	カメラを正しく構える。	—
水平インジケーターの目盛りが真中を指している、または水準器音が鳴っている状態で撮影したのに、画像が傾いている。	乗り物に乗っているなど、動いている状態で撮影している。	停止している状態で撮影する。	—
	被写体自体が傾いている。	被写体を確認する。	—

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶ (再生) ボタンを押す。	P.51
	ビデオケーブル／AVケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.163
	[ビデオ方式] の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.206
	再生画面が液晶ビューファインダーに表示されている。	[再生画面出力先] を [LCD] に設定する。	P.196
SDメモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SDメモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていないSDメモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	P.35
	本機で初期化していないSDメモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.175
	正常に記録されていないSDメモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	—
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	—
	使用中のSDメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	—
	画面が消えた。	電池が消耗している。	専用のリチャージャブルバッテリーまたは単四形ニッケル水素電池を使用している場合は、充電する。単四形アルカリ乾電池または単四形オキシライド乾電池を使用している場合は、新品電池に交換する。必要に応じてACアダプターを使う。
何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。		電源を再投入する。	P.37
画面の一部が黒く点滅する。	画像に白飛びの部分があるため、ハイライト表示になっている。	直射日光を避ける、露出を一侧に補正するなどして、撮り直すことをお勧めします。	P.62 P.128

症状	原因	処置	参照先
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.148
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK (書き込み禁止)」を解除する。	P.33
SDメモリーカードを初期化できない。	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK (書き込み禁止)」を解除する。	P.33

その他

症状	原因	処置	参照先
SDメモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.35
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	専用のリチャージャブルバッテリーまたは単四形ニッケル水素電池を使用している場合は、充電する。単四形アルカリ乾電池または単四形オキシライド乾電池を使用している場合は、新品電池に交換する。必要に応じてACアダプターを使う。	P.34 P.30 P.240
	カメラの誤動作。	POWER (電源) ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度POWERボタンを押して、電源をオンにする。 電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.37 P.35 P.240
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.204
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態で約1週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定し直す。	P.204
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが「OFF」になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.195
警告音が鳴らない。	消音を設定されている。	「操作音音量設定」で音量なし以外を設定する。	P.188
テレビに映らない。	「ビデオ方式」の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.206
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.163
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	—

ソフトウェア/パソコンのトラブル

ソフトウェアについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）をご覧ください。

Windows XP Service Pack2、Windows Vistaでの警告メッセージについて

Windows XP Service Pack2またはWindows Vistaがインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB接続時）等に以下の警告メッセージが表示される場合があります。

こちらをご理解の上、以下を参考にしてください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

警告メッセージが表示されたら

- 1 名前、発行元を確認し [ブロックを解除する] ボタンをクリックする



注意

プログラムの名前や発行元に心当たりが無い場合、ウイルスプログラムである可能性がありますので [ブロックする] をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

[ブロックする] ボタンをクリックした場合

Windowsファイアウォールの設定を確認します。

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] の順にクリックする
- 2 [Windowsファイアウォール] をダブルクリックする

- [Windowsファイアウォール] がない場合はウィンドウ左上の [クラシック表示に切り替える] をクリックしてください。



3 [例外] タブをクリックする

4 [プログラムおよびサービス] 内に設定したソフトウェアがあることを確認する

5 [プログラムの追加] ボタンをクリックし、ネットワークを使うソフトウェアを追加する



[後で確認する] ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、[Windows セキュリティの重要な警告] ウィンドウが表示されるので、その際に [ブロックを解除する] を選択できます。

主な仕様

撮像素子	有効画素数約1210万画素（総画素数約1240万画素）、1/1.7型CCD	
レンズ	焦点距離	5.1~15.3mm（35mm換算値24~72mm）
	F値	F2.5~F4.4
	撮影距離範囲	通常撮影：約30cm~∞（広角）、約30cm~∞（望遠）（レンズ先端より） マクロ撮影：約1.0cm~∞（広角）、約4.0cm~∞（望遠）、約1.0cm~∞（ズームマクロ）（レンズ先端より）
	レンズ構成	7群11枚
ズーム倍率	光学ズーム3.0倍、デジタルズーム4.0倍、オートリサイズズーム約6.3倍（画像はVGA）	
フォーカスモード	マルチAF（CCD方式）/スポットAF（CCD方式）/マニュアルフォーカス/スナップ/∞（フォーカスロック、AF補助光あり）	
シャッター速度	静止画	180秒、120秒、60秒、30秒、15秒、8秒、4秒、2秒、1~1/2000秒（撮影モード、フラッシュモードによりシャッター速度の上限と下限が変わります。）
	動画	1/30~1/2000秒
露出制御	測光モード	マルチ（256分割）/中央重点測光/スポット測光（TTL-CCD測光式、AEロック可能）
	露出制御モード	プログラムAE、絞り優先AE、マニュアル露出
	露出補正	マニュアル補正（+2.0~-2.0EV 1/3EVステップ）、オートブラケット機能（-0.5EV、±0、+0.5EV/-0.3EV、±0、+0.3EV）
ISO感度（標準出力感度）	AUTO / AUTO-HI / ISO 64 / ISO 100 / ISO 200 / ISO 400 / ISO 800 / ISO 1600	
ホワイトバランスモード	オート/屋外/曇天/白熱灯/蛍光灯/手動設定/詳細設定、ホワイトバランスブラケット機能	
フラッシュ	フラッシュモード	オート（低輝度時および逆光時自動発光）/赤目軽減/強制発光/スローシンクロ/マニュアル発光（FULL、1/1.4、1/2、1/2.8、1/4、1/5.6、1/8、1/11、1/16、1/22、1/32）/発光禁止
	調光範囲	約20cm~5.0m（広角）、約15cm~3.0m（望遠）（ISO AUTO、ISO 400）
	調光補正	±2.0EV 1/3EVステップ
画像モニター	2.7型 透過型アモルファスシリコンTFT液晶、約46万ドット	
撮影モード	オート撮影モード/プログラムシフトモード/絞り優先モード/マニュアル露光モード/シーンモード（動画/ポートレート/スポーツ/遠景/夜景/ズームマクロ/斜め補正/文字）/マイセッティングモード	
画質モード*1	F(Fine)、N(Normal)、RAW（DNGファイル形式）*2	

記録画素数	静止画	4000×3000、3984×2656、2992×2992、3264×2448、2592×1944、2048×1536、1280×960、640×480
	動画	640×480、320×240
	文字	4000×3000、2048×1536
記録媒体	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード(16GBまで)、内蔵メモリー(約54MB)	
記録データ容量	4000×3000	N:約2496KB/画面、F:約4341KB/画面、RAW:約17.7MB/画面
	3984×2656	N:約2205KB/画面、F:約3832KB/画面、RAW:約15.7MB/画面
	2992×2992	N:約1871KB/画面、F:約3247KB/画面、RAW:約13.0MB/画面
	3264×2448	N:約1637KB/画面
	2592×1944	N:約1068KB/画面
	2048×1536	N:約680KB/画面
	1280×960	N:約365KB/画面
	640×480	N:約95KB/画面
画像ファイル形式	静止画	JPEG (Exif ver2.21) *3、RAW(DNG)
	動画	AVI (Open DML Motion JPEGフォーマット準拠)
	圧縮方式	JPEGベースライン方式準拠(静止画、動画)
その他主要撮影機能	連写/S連写/M連写、セルフタイマー(作動時間:約10秒/約2秒)、インターバルタイマー(撮影間隔:5秒~3時間、5秒単位)*4、カラーブラケット、白黒(TE)、ノイズリダクション、ヒストグラム表示、グリッドガイド表示、電子水準器、ホットシュー	
その他主要再生機能	縦横自動回転再生、一覧表示、拡大表示(拡大倍率最大16倍)、画像サイズ変更	
外部インターフェース	USB2.0 (High-Speed USB) Mini-B、マストレージ*5、オーディオOUT 1.0Vp-p (75Ω)	
ビデオ信号方式	NTSC、PAL切替え	
電源	リチャージャブルバッテリー DB-60 (3.7V)	
	単四形アルカリ乾電池×2本、単四形ニッケル水素電池×2本、単四形オキシライド乾電池×2本	
	ACアダプター (AC-4c オプション): 3.8V	
電池寿命*6	CIPA規格準拠 DB-60使用時:約350枚、単四形アルカリ乾電池使用時:約45枚*7	
外形・寸法	111.6mm(幅)×58.0mm(高さ)×25.0mm(奥行き)(突起部含まず)	
質量	本体約208g(バッテリー/SDメモリーカード/ストラップを除く) 付属品約30g(バッテリー/ストラップ)	
三脚ネジ穴形状	1/4-20UNC	
データ保持時間	約1週間	
使用温度範囲	0°C~40°C	

使用湿度範囲	85%以下
保存温度範囲	-20°C~60°C

- *1 画像サイズにより、設定できる画質モードが異なります。
- *2 RAWと同サイズのFine/NormalまたはNormal640モードのJPEGと同時記録。DNGファイル形式はRAW画像ファイル形式の1つで、アドビシステムズ社が提唱する標準ファイル形式です。
- *3 DCF準拠、DPOF対応。DCFはJEITAで標準化された「Design rule for Camera File system」の略称です。(機器間の完全な互換性を保証するものではありません)
- *4 フラッシュ OFF時
- *5 マスストレージは、Windows Me, 2000, XP, Vista, Mac OS 9.0~9.2.2, Mac OS X 10.1.2~10.5.2に対応しています。
- *6 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件によるもので、使用条件により大きく異なり、目安となります。
- *7 松下電池工業株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用

内蔵メモリー／SDメモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画質・サイズ	内蔵	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB
静止画	RAW (12M)	2	22	43	88	172	353	721
	F4000 (12M)	11	107	207	421	826	1689	3448
	N4000 (12M)	20	187	359	731	1436	2936	5992
	RAW3:2 (10M)	2	25	49	99	195	400	817
	F3:2 (10M)	13	121	234	476	935	1912	3902
	N3:2 (10M)	23	210	405	819	1609	3289	6712
	RAW1:1 (9M)	3	30	57	117	231	472	964
	F1:1 (9M)	15	143	276	558	1097	2242	4576
	N1:1 (9M)	27	249	479	975	1915	3915	7990
	N3264 (8M)	30	278	534	1078	2117	4327	8831
	N2592 (5M)	48	436	839	1707	3352	6852	13983
	N2048 (3M)	74	682	1313	2671	5247	10724	21885
	N1280 (1M)	133	1208	2323	4726	9282	18973	38718
N640 (VGA)	497	4488	8632	15359	30159	61643	125793	
文字	4000×3000	20	187	359	731	1436	2936	5992
	2048×1536	74	682	1313	2671	5247	10724	21885
動画	640×480 15コマ/秒	1分 22秒	12分 19秒	24分 2秒	48分 13秒	94分 40秒	193分 30秒	394分 53秒
	640×480 30コマ/秒	41秒	6分 14秒	11分 59秒	24分 23秒	47分 54秒	97分 55秒	199分 49秒
	320×240 15コマ/秒	2分 40秒	24分 5秒	46分 19秒	94分 11秒	184分 57秒	378分 2秒	771分 25秒
	320×240 30コマ/秒	1分 22秒	12分 19秒	24分 2秒	48分 13秒	94分 40秒	193分 30秒	394分 53秒

7

付録



メモ

- 動画の記録可能時間は、合計の記録可能時間目安です。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- 画像モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 長時間撮影される場合は、高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

別売り品について

GX200では、下記の別売り品が使用できます。

商品名	型名	備考
ACアダプター	AC-4c	家庭用コンセントから直接電源を供給するときを使用します。
リチャージャブルバッテリー	DB-60	本カメラで使用できる充電電池です。
バッテリーチャージャー	BJ-6	リチャージャブルバッテリー（DB-60）を充電するための充電器です。
自動開閉式レンズキャップ	LC-1	レンズのせり出しによって自動開閉します。
ワイドコンバージョンレンズ	DW-6	さらに広角に撮影したいときに使用します。倍率0.79倍のワイドコンバージョンレンズです。19mm相当（35mm判カメラ換算）での撮影が可能です。フード&アダプターと併用して使用します。
テレコンバージョンレンズ	TC-1	倍率1.88倍のテレコンバージョンレンズです。135mm相当（35mm判カメラ換算）の望遠域で撮影したい場合に使用します。フード&アダプターと併用して使用します（ケース付）。
フード & アダプター	HA-2	太陽の光がレンズに当たるのを防ぐフードと、φ43mm汎用フィルターなどを装着する際のアダプターとのセットです。逆光時の撮影画質を向上させたいときなどに使用します。
液晶ビューファインダー	VF-1	ホットシューに取り付ける電子ファインダーです。視野率100%、視差がなく90度まで角度調節ができ、ローアングル撮影も容易にできます。
ケーブルスイッチ	CA-1	カメラのUSB端子に接続して、シャッター操作を行います。
ネックストラップ	ST-2	2点吊ネックストラップです。
ソフトケース	SC-45	コンパクトな革製のカメラケースです。

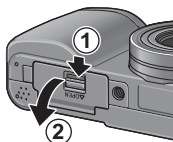
- 各別売り品の使用方法は、商品に付属の使用説明書を参照してください。
- ワイドコンバージョンレンズ、テレコンバージョンレンズおよびフードを使用している場合、内蔵フラッシュは使用できません。
- 液晶ビューファインダーを傾けているときは、内蔵フラッシュは使用できません。
- ネックストラップST-1は、取り付けることができません。
- テレコンバージョンレンズを装着する場合、望遠端以外の撮影では、画像周辺にケラレ（画像の四隅が暗くなる現象）が発生します。

ACアダプター（別売り）を使う

撮影や静止画を見る際に長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、ACアダプターを使うことをお勧めします。

すでにお使いのお客様は、ACアダプターをセットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。

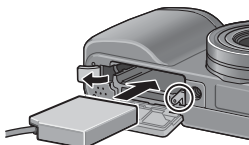
- 1 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける



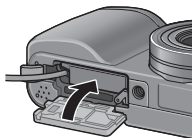
- 2 ACアダプターを挿入する

・セットされると、図のツメでロックされます。

- 3 電源（DC入力）ケーブルカバーを開け、ケーブルを外に出す




- 4 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする



- 5 電源プラグをコンセントに差し込む

注意

- ・バッテリー／カードカバーを閉めるときは、解除レバーをスライドさせて、確実にロックしてください。
- ・電源プラグやACコードは、しっかりと差し込んでください。
- ・カメラをご使用にならないときには、ACアダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- ・カメラの使用中にACアダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- ・ACアダプターをご使用の場合、表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。
- ・ACアダプターの使用中は、ACアダプターのケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

ACアダプターを取り出すには

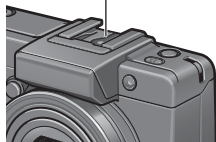
ACアダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。




- 1** 電源プラグをコンセントから抜く
- 2** 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける
- 3** ACアダプターを取り出す
- 4** バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする

外部フラッシュを使う

本カメラにはホットシューが装備されているので、外部フラッシュ（市販）を接続して使用できます。

ホットシュー



- 1** フラッシュカバーを閉じる
( P.21)
- 2** カメラと外部フラッシュの電源がオフの状態、外部フラッシュをホットシューに取り付ける
- 3** カメラの電源を入れ、モードダイヤルをAまたはMに合わせて、絞り値を設定する ( P.82、P.84)
- 4** カメラのISO感度を[AUTO]以外に設定する ( P.135)
- 5** 外部フラッシュの電源を入れ、外部フラッシュを自動(オート)に設定し、絞り値とISO感度をカメラに合わせる
 - 外部フラッシュをカメラから取り外すときは、外部フラッシュの電源を切ってから行ってください。



注意

- シャッタースピードが遅い場合は、手ブレすることがあります。
- 市販フラッシュをご使用になる場合は、下記仕様であることをご確認ください。
 - ・ X接点以外の信号端子がないこと
 - ・ X接点の極性は+であること
 - ・ X接点の電圧は20V以下であること
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュを使用することはできません。傷や故障の恐れがあります。
- 外部フラッシュ装着時は、液晶ビューファインダーを使用することはできません。
- フラッシュ設定にかかわらず、ホットシューのX接点にフラッシュ発光信号が出力されますので、外部フラッシュのフラッシュ発光停止は、外部フラッシュ側のスイッチで発光停止処置を施してください。
- 外部フラッシュの絞り値とISO感度をカメラと同じ条件にしても、適正露出にならない場合があります。そのときは外部フラッシュ側の絞り値やISO感度を変更してください。
- 撮影レンズの画角をカバーする照射角をもつ外部フラッシュを使用してください。
- 外部フラッシュの使用は、基本的に内蔵フラッシュの光量だけでは不足する距離（遠距離側）でご使用ください。近距離側では露出オーバーになることがあります。

初期値／電源オフで初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。

次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○ 初期設定値に戻る：×

分類	機能		初期値	
撮影関連	画質・サイズ	○	N4000(12M)	
	フォーカス	○	マルチAF	
	測光	○	マルチ	
	連写	×	OFF	
	画像設定	○	普通	
	ディストーション補正	○	OFF	
	フラッシュ調光補正	○	0.0	
	フラッシュマニュアル発光量	○	1/2	
	フラッシュシンクロ設定	○	先幕	
	オートブラケット	○	OFF	
	ノイズリダクション	○	OFF	
	インターバル撮影	×	0秒	
	日付入れ撮影	○	OFF	
	手ブレ補正	○	ON	
	露出補正	○	0.0	
	ホワイトバランス	○	AUTO	
	ホワイトバランス補正	○	A:0、G:0	
	ISO感度	○	AUTO	
	絞り自動シフト	○	OFF	
	撮影モード切替	○	—	
	マクロ	○	マクロ オフ	
	フラッシュ	○	AUTO	
	セルフタイマー	×	セルフ オフ	
	動画サイズ	○	640	
	フレームレート	○	30コマ/秒	
	文字濃度	○	標準	
	サイズ (文字)	○	4000(12M)	
	AE/AFターゲット移動	○	OFF	
	再生関連	動画再生時の音量	○	—

設定値の保持：○ 初期設定値に戻る：×

分類	機能		初期値
セットアップ メニューから 設定する項目	LCD輝度調節	○	—
	コンバージョンレンズ	○	起動時選択
	マイセッティング登録	○	MY1
	ステップズーム	○	OFF
	ISO AUTO-HI 設定	○	AUTO 400
	Fn1 ボタン設定	○	AF/MF
	Fn2 ボタン設定	○	AEロック
	Fn設定のMY登録	○	OFF
	操作音	○	すべて
	操作音音量設定	○	■ ■ □ (中)
	ADJ.レバー設定1	○	露出補正
	ADJ.レバー設定2	○	ホワイトバランス
	ADJ.レバー設定3	○	ISO
	ADJ.レバー設定4	○	画質
	ADJシャッターボタン確定	○	OFF
	水準器設定	○	OFF
	AF補助光	○	ON
	デジタルズーム切替	○	通常
	オートパワーオフ	○	1分
	再生画面出力先	○	LCD
	画像確認時間	○	0.5秒
	縦横自動回転再生	○	ON
	CL-BKT 白黒(TE)	○	ON
	RAW同時記録設定	○	FINE
	カード連続NO.	○	ON
	日時設定	○	—
	Language/言語	○	*
ビデオ方式	○	*	

* 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

海外でお使いのときは

ACアダプター（型名：AC-4c）、バッテリーチャージャー（型名：BJ-6）について

交流100～240V、50Hz/60Hzの地域でご使用になれます。

電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

電子式変圧器は使用しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

保証について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。

外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生等で現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。付属のAVケーブルをご使用ください。

本機では、テレビ方式はNTSCとPALに対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。

海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

使用上のご注意

使用上のご注意

- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- カメラを持ち運ぶときは、本体に衝撃を与えないようにしてください。特にレンズや画像モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光しないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 画像モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなる場合があります。
- 画像モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 画像モニターを強く押さないでください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。結露が発生した場合は、カメラから電池とメモリーカードを取り出し、水滴が消えるまで待ってから使用してください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。
- カメラを濡らさないでください。また、濡れた手でカメラを操作しないでください。故障や感電の原因となります。



結露の発生しやすい状態

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のプロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 画像モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 画像モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナーを、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。
 - 高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
 - 砂、ほこり、ちりの多い場所
 - 振動の激しいところ
 - 防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
 - 強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）
- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

お手入れ時のご注意

- (1) 必ず電源をオフにしてください。
- (2) 電池やACアダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、リコー修理受付センターかお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はおお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
 - ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障。
 - ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障。
 - ③ 火災、天災、地震、落雷、異常電圧等による故障。
 - ④ 保管上の不備（使用説明書に記載）、電池等の液漏等、カビ発生、手入れの不備等による故障。
 - ⑤ 浸（冠）水、飲物（ジュース、酒類等）かぶり、砂（泥）入り、衝撃、落下、圧力等による自然故障以外の故障。
3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本製品に関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証書の添付のない場合や、販売店名、ご購入年月日の記入がない場合ならびに記載事項を訂正された場合には、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。
5. 保証期間内であっても、本製品について各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をおお客様にご負担いただきます。
6. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップ等の付属品類および本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
7. 無償修理期間中であると否とにかかわらず、本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および得べかりし利益の損失）等については補償いたしかねます。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
 - * 以上の保証規定は無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
 - * 以上の保証規定は本製品に関する保証書にも同様の趣旨で記載されています。
9. 本製品の補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5年を目安に保有しております。
10. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下等で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの等は修理できない場合もあります。ご了承ください。

- 修理にお出しになる前に、バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合もございますので、修理には余裕を持ってお申し出ください。
- 修理にお出しになる際は、故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理にお出しになる際は、修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださいとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯等をお勧めいたします。
- 修理にお出しになった場合、メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについては保証できません。

索引

記号・英数字

- Acrobat Reader..... 213, 214
ACアダプター..... 17, 240
ADJ.モード..... 68
ADJ.レバー..... 22, 24, 68, 143
ADJ.レバー設定1、2、3、4..... 189
ADJシャッターボタン確定..... 190
AE/AFターゲット移動..... 71, 80
AEロック..... 77
AF/MF..... 75
AF/スナップ..... 76
AF補助光..... 21, 50, 192
AVIファイル..... 140
AVケーブル..... 14, 163
AV出力端子..... 22, 163
CD-ROM..... 15, 209
CL-BKT 白黒(TE)..... 200
DISP.ボタン..... 22, 60
DPOF..... 150
Fn1/2ボタン設定..... 184
Fn1/Fn2ボタン..... 21, 22, 73
Fn設定のMY登録..... 186
Irodio Photo & Video Studio
..... 210, 213, 218
ISO AUTO-HI 設定..... 183
ISO感度..... 135
JPEG→RAW..... 78
Language / 言語..... 205
LCD輝度調節..... 177
MENU/OKボタン
..... 22, 97, 145, 173
M (メモリー逆戻り) 連写..... 106
PictBridge..... 165
POWER (電源) ボタン..... 21, 37
RAW形式ファイル..... 99
RAW同時記録設定..... 201
RICOH Gate La..... 210, 219
Ridoc Desk Navigator Lt
..... 213, 215
SDメモリーカード..... 32, 35
S (ストリーム) 連写..... 106
USBケーブル..... 14, 166, 219, 220
USB端子..... 22, 166, 219, 220
USBドライバー..... 210
VF/LCDボタン..... 22, 60
WIAドライバー..... 210
- ## あ
- アップダウンダイヤル..... 21, 24
アルカリ乾電池..... 30
一覧表示..... 53
印刷..... 165
インターバル撮影..... 124
液晶ビューファインダー..... 17
エラーメッセージ..... 225
遠景..... 88
オート撮影モード..... 23, 41
オートパワーオフ..... 37, 195
オートフォーカス/
フラッシュランプ
..... 22, 37, 42, 48
オートフォーカス (AF)..... 102
オートブラケット..... 118
オートリサイズ..... 193
オキシライド乾電池..... 30
- ## か
- カードヘコピー..... 155
カードリーダー..... 221
カード連続NO..... 202
解除レバー..... 22, 35, 240
外部フラッシュ..... 20, 242
拡大表示..... 54
拡大表示ボタン..... 22, 54
画質・サイズ..... 99
画像確認時間..... 197
画像サイズ変更..... 153
画像設定..... 110
画像モニター..... 22, 26
カラーブラケット (CL-BKT)..... 120
カラー→TE..... 79
カラー→白黒..... 79
逆光撮影..... 128
記録可能枚数..... 31, 238
グリッドガイド表示..... 60
広角 / サムネイル表示ボタン
..... 44, 53

コンバージョンレンズ..... 178

さ

再生画面出力先..... 196

再生設定メニュー..... 144

再生ボタン..... 22, 51

再生モード..... 37, 51

削除..... 56

削除/セルフタイマーボタン
..... 22, 50, 56

撮影設定初期化..... 137

撮影設定メニュー..... 94

撮影モード切替..... 139

三脚ネジ穴..... 22

シーンモード (SCENE)..... 23, 88

絞り自動シフト..... 138

絞り優先モード (A)..... 23, 82

シャッターボタン..... 21, 39

充電..... 34

初期化 [カード]..... 175

初期化 [内蔵メモリー]..... 176

水準器設定..... 63, 191

水平インジケーター..... 27, 63, 191

ズーム..... 44

ズームマクロ..... 88

ステップズーム..... 182

スピーカー..... 22, 143

スポーツ..... 88

スライドショー..... 146

静止画モード..... 26, 28

セットアップメニュー..... 172

セルフタイマー..... 50

操作音..... 187

操作音音量設定..... 188

測光..... 105

た

ダイレクトプリント..... 165

縦横自動回転再生..... 198

端子カバー
..... 22, 163, 166, 219, 220

帳票印刷..... 171

ディストーション補正..... 114

デジタルズーム..... 44

デジタルズーム切替..... 193

手ブレ..... 40

手ブレ補正..... 127

テレコンバージョンレンズ
..... 17, 178

電源 (DC入力) ケーブルカバー
..... 22, 240

電池..... 30

電池の残量表示..... 29

動画..... 88, 140

動画サイズ..... 99

な

内蔵メモリー..... 32

斜め補正..... 88, 156

日時設定..... 38, 204

ニッケル水素電池..... 30

ノイズリダクション..... 122

は

ハイライト表示..... 62

バッテリーチャージャー..... 14, 34
バッテリー/カードカバー
..... 22, 35, 240

ハンドストラップ..... 14

ヒストグラム表示..... 66

日付入れ撮影..... 126

ビデオ方式..... 206

フード&アダプター..... 17, 239

フォーカス..... 102

フォーカスロック..... 41

フラッシュ..... 47

フラッシュオープンスイッチ
..... 21, 47

フラッシュシンク口設定..... 117

フラッシュ調光補正..... 115

フラッシュ発光部..... 21, 47

フラッシュボタン..... 22, 47

フラッシュマニュアル発光量..... 116

フレームレート..... 141

プログラムシフトモード (P)
..... 23, 86

プロテクト..... 147

望遠/拡大表示ボタン..... 44, 54

ポートレート..... 88

ホットシュー..... 21, 242

ホワイトバランス..... 129

ホワイトバランスブラケット (WB-BKT).....	119
ホワイトバランス補正.....	133, 161

ま

マイク.....	21
マイセッティング登録.....	180
マイセッティングモード (MY1、MY2、MY3).....	23, 93
マクロボタン.....	22, 45
マニュアルフォーカス (MF) ...	103
マニュアル露光モード (M)	23, 84
モードダイヤル.....	21, 23
文字.....	89
文字濃度.....	70

や

夜景.....	88
---------	----

ら

リチャージャブルバッテリー	14, 30, 34, 35
リングキャップ.....	19, 21
レベル補正.....	158
連写.....	106
レンズ.....	21
露出補正.....	128

わ

ワイドコンバージョンレンズ	17, 178
------------------------	---------

リコー修理受付センター

万一、本製品がご使用中に故障した場合は、下記のサービスメニューからお客様がご希望のサービス方法をお選びいただき、記載されているリコー修理受付センターまでお申し込みください。

* 本製品の保証書に記載された保証期間内は、無料修理となりますが、保証書裏面の保証規定第2項の記載に該当する場合は、保証の対象にはなりません。

* 各サービスメニューの対象は、製品本体のみとさせていただきます。

* 本サービスは、日本国内のみ有効です。

修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。

<http://www.rico.co.jp/dc/support/repair/>

●たくはいサービス●

着払い宅配にてお送りいただくサービスです。

●ひきとりサービス●

運送業者がお客様のご自宅（事務所）に訪問し、機械を梱包してお預りします。ひきとり料金（2000円）がかかりますので、予めご了承ください。

時間帯指定サービス

たくはいサービス、ひきとりサービスの各サービスで、修理完成品の配達日の時間帯指定ができます。時間帯は10：00～20：00までの間で、時間帯区切りは2時間です。

- 1)10：00～12：00 2)12：00～14：00 3)14：00～16：00
4)16：00～18：00 5)18：00～20：00

*リコー修理受付センターへご連絡の際、お申し込みください。

●持ち込み修理について●

お買い上げのご販売店、カメラサービスセンター（裏表紙）のいずれかにお持ちいただいた場合も、修理の受付を行います。

お願い

1. 修理に際し、メモリー等記憶装置内のデータの保存については保証いたしかねますのでご了承ください。
2. 修理におだしになる前に、バッテリーのチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いします。
3. 修理個所によっては規定以上の日数がかかる場合がございますので、修理には余裕を持ってお出してください。
4. 修理ご依頼の際は、故障内容と故障個所をできるだけ詳しくお申し出ください。
5. 「リコー修理受付センター」は上記取扱商品の故障に関する修理方法、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。

修理以外の製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せ、ご相談は巻末に記載のリコーお客様相談センターまでお願い申し上げます。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。



リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。

デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含まれる「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。



困ったときには

本書の「お困りのときは」(P.225)をご覧ください。問題が解決しないときには、「リコーお客様相談センター」にご連絡ください。

リコーお客様相談センター	
	電話0120-000475 FAX 0120-479417 受付時間：9:00～18:00（土、日、祝日を除く） ※なお、対応状況の確認と対応品質の向上のため、ご相談内容を録音させていただいております。
インターネットでもサポート情報をご提供しています。 http://www.ricoh.co.jp/dc/support/	
デジタルカメラ修理受付	
リコー修理受付センター (リコーテクノシステムズ株式会社)	 電話0120-053956 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く） 宅配便を利用した修理品の受付センターです。
リコー銀座カメラサービスセンター ※持ち込み修理の受付です。	〒104-0061 東京都中央区銀座6-14-7（第3リコービル） 電話03-3543-4187 受付時間：9:30～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）
デジタルカメラサービスセンター (リコーテクノシステムズ株式会社) ※持ち込み修理の受付です。	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-2-1 (新横浜ファーストビル3階) 電話045-474-2586 受付時間：9:30～18:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）
修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。 http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/	
Irodio Photo & Video Studioについて	
株式会社ピクセラ ユーザーサポートセンター	電話06-6633-3900 受付時間：月曜日～日曜日10:00～17:00 (年末年始、祝日、弊社指定休日は除く)

株式会社リコー

〒104-8222

東京都中央区銀座8-13-1リコービル

電話：0120-000475（フリーダイヤル）

2008年7月



* L 7 5 0 1 9 7 1 *

Jp

JA Printed in China